



神奈川県

政策局政策部  
情報公開広聴課

令和5年度

# 県民ニーズ調査

---

基本調査…………… 令和5年12月公表

県民の生活と県政についての意識調査

第1回課題調査…………… 令和6年2月公表

テーマ「食の安全・安心」「食・食育」「かながわの農林水産業」

「SDGs(持続可能な開発目標)」「環境問題」

「ICT(情報通信技術)」「将来の住まい」

「地域社会との関わり」「治安対策」

「ともに生きる社会かながわ」

「生活に不安や課題がある人への支援」

「配偶者等からの暴力」「がん対策」「循環器病対策」

「スポーツ」「かながわの広報」

第2回課題調査…………… 令和6年3月公表予定

テーマ「地震対策の取組み」「子ども・子育て支援」

「かながわの水源地域」「生物多様性」

「『未病改善』の取組み」「アレルギー疾患」

「依存症に対する意識」「肝炎対策」「かながわの人権」



## 目次

県民ニーズ調査の概要	1
------------	---

### 基本調査

第Ⅰ部 調査の概要	3
-----------	---

- 1 調査の目的
- 2 調査内容
- 3 調査設計
- 4 回収結果
- 5 標本の抽出方法について
- 6 集計・分析にあたって
- 7 調査結果の誤差
- 8 回答者の属性

第Ⅱ部 調査結果の概要	11
-------------	----

第Ⅲ部 調査結果の詳細	21
-------------	----

- 第1章 暮らし全般について
  - 1 生活総合満足度
  - 2 暮らし向きの変化
  - 3 今後の暮らし向きの見通し
  - 4 地域の住みよさ
  - 5 定住意向
- 第2章 生活意識
- 第3章 暮らしの満足度
  - 1 重要度
  - 2 満足度
- 第4章 県行政への要望

第Ⅳ部 県政への自由意見	91
--------------	----

第Ⅴ部 グラフ（暮らしの満足度、県行政への要望）	95
--------------------------	----

- 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（図表A）
- 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（図表B）
- 県行政への要望－過去との比較（図表C）

第Ⅵ部 調査票と単純集計結果	119
----------------	-----

## 第1回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	133
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	141
第Ⅲ部 調査結果の詳細	157
第1章 食の安全・安心	159
1 食品を購入する際に確認している表示内容	
2 食中毒を予防する上で重要なこと	
3 食品を安全に食べるために必要な知識	
第2章 食・食育	165
1 「食育」への関心	
2 食事のマナーを正しくできていることへの意識	
3 ゆっくりよく噛んで食べているか	
4 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか	
5 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか	
6 朝食を同居の方と食べる頻度	
7 夕食を同居の方と食べる頻度	
8 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
9 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
第3章 かながわの農林水産業	183
1 県の農業に期待する役割	
2 「地産地消」の取組みの重要度	
3 「かながわブランド」の認知度	
4 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け	
5 県内にある農地の保全に対する考え	
第4章 SDGs（持続可能な開発目標）	193
1 「SDGs」の認知度	
2 SDGs達成に向け効果的な後押し	

第5章 環境問題 -----	197
1 特に入力してほしい環境に関する取組み	
2 脱炭素を意識した取組み	
3 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向	
4 「気候変動への適応」への関心	
第6章 ICT（情報通信技術） -----	205
1 デジタル化推進に関する意向	
2 デジタル化が進むことで期待できると思うこと	
3 デジタル化が進むことで不安を感じる事	
第7章 将来の住まい -----	211
1 将来の住まいに対する不安	
2 将来の住まいに不安を抱く理由	
3 親族との同居意向	
第8章 地域社会との関わり -----	217
1 地域社会との関わりを大切にす意識	
第9章 治安対策 -----	219
1 不安を感じる犯罪	
2 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法	
3 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思ふもの	
第10章 ともに生きる社会かながわ -----	225
1 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度	
2 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度	
3 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方	
4 障がい者に配慮した行動をとる人	
5 障がい者への差別・偏見の有無	
6 希望する手話の学習方法	
7 障がいの程度や状態にかかわらず参加したいと思うワークショップ	
8 「ヘルプマーク」の認知度	
第11章 生活に不安や課題がある人への支援 -----	241
1 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度	
2 ひとり親家庭への支援状況	
3 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況	
第12章 配偶者等からの暴力 -----	247
1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと	
第13章 がん対策 -----	249
1 身近な人ががんになったときの対応	
2 「緩和ケア」に対するイメージ	
3 がんの最終段階だと言われた場合に過ごしたい場所	

第14章 循環器病対策	255
1 脳卒中の主な初期症状の認知度	
2 脳卒中への適切な対応の認知度	
3 心臓病の再発防止対策の認知度	
第15章 スポーツ	261
1 体力への自信の有無	
2 1年間のスポーツ実施日数	
3 スポーツ推進に係る取組みの認知度	
4 「かながわパラスポーツ」の認知度	
第16章 かながわの広報	269
1 県の広報の達成度	
2 県の広報媒体の認知度	
3 県政情報の入手先	
第IV部 調査票と単純集計結果	275

# 第1回課題調査

## 第I部 調査の概要





## 1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

## 2 調査内容

- (1) 食の安全・安心
- (2) 食・食育
- (3) かながわの農林水産業
- (4) S D G s (持続可能な開発目標)
- (5) 環境問題
- (6) I C T (情報通信技術)
- (7) 将来の住まい
- (8) 地域社会との関わり
- (9) 治安対策
- (10) ともに生きる社会かながわ
- (11) 生活に不安や課題がある人への支援
- (12) 配偶者等からの暴力
- (13) がん対策
- (14) 循環器病対策
- (15) スポーツ
- (16) かながわの広報

## 3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000 標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法  
ア 郵送による調査票の配布  
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和 5 年 9 月 8 日 (金) ~ 10 月 3 日 (火)
- (7) 調査委託機関 株式会社 C C N グループ

## 4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標 本 数	3,000 標本
有効回収数	1,285 標本 〔 郵送回答 : 854 件 〕 〔 インターネット回答 : 431 件 〕
有効回収率	42.8%

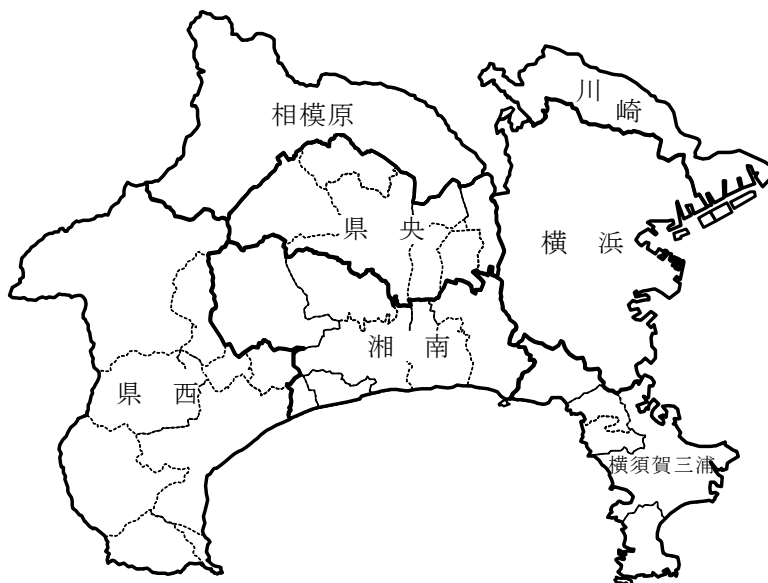
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	503	41.9%
川崎	川崎市	460	163	35.4%
相模原	相模原市	220	81	36.8%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	93	35.8%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	130	43.3%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	182	41.4%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	50	41.7%
無 回 答			83	
全 体		3,000	1,285	42.8%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和4年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



## 地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,144,823人 60地点 1,200標本	-	-	3,144,823人 60地点 1,200標本
川 崎	1,270,209人 23地点 460標本	-	-	1,270,209人 23地点 460標本
相模原	605,503人 11地点 220標本	-	-	605,503人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	565,655人 12地点 240標本	26,334人 1地点 20標本	591,989人 13地点 260標本
県 央	-	683,384人 14地点 280標本	36,578人 1地点 20標本	719,962人 15地点 300標本
湘 南	-	1,008,814人 20地点 400標本	91,429人 2地点 40標本	1,100,243人 22地点 440標本
県 西	-	194,560人 4地点 80標本	91,705人 2地点 40標本	286,265人 6地点 120標本
人口計	5,020,535人	2,452,413人	246,046人	7,718,994人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和4年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

## 6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している）。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (7) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

## 7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$b$  = 標本誤差  
 $N$  = 母集団数  
 $n$  = 回答者数  
 $P$  = 回答比率

上の式により、回答者数（ $n$ ）、および回答比率（ $P$ ）ごとに信頼度 95%のときの標本誤差(%)を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率（ $P$ ） 回答者数（ $n$ ）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,285	±2.37	± 3.16	± 3.62	± 3.87	± 3.95
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00
100	± 8.49	±11.31	±12.96	±13.86	±14.14

※上表は  $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$  として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（ $n$ ）が 1,285 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.87 以内（真の値は、56.13%～63.87%）である」とみることができる。

## 8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 285) (%)

横浜	39.1
川崎	12.7
相模原	6.3
横須賀三浦	7.2
県央	10.1
湘南	14.2
県西	3.9

(無回答 6.5)

(2) 性別 (n=1, 285) (%)

男性	43.2
女性	49.6

(無回答 7.2)

(3) 年齢 (n=1, 285) (%)

18～29 歳	4.5
30～39 歳	10.4
40～49 歳	18.4
50～59 歳	20.2
60～69 歳	19.5
70～74 歳	9.3
75 歳以上	11.0

(無回答 6.7)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1, 285) (%)

小学校入学前	8.4
小学校在学中	10.0
中学校在学中	7.3
高校在学中	8.2
短大、専門学校等在学中	3.0
大学、大学院等在学中	4.6
学校教育終了[未婚]	19.3
学校教育終了[既婚]	25.6
その他	2.7
子どもはいない	27.8

(無回答 7.9)

(5) 家族形態 (n=1, 285) (%)

一人暮らし (単身世帯)	13.8
夫婦のみ (1 世代世帯)	27.4
親と子の世帯 (2 世代世帯)	44.7
祖父母と親と子の世帯 (3 世代世帯)	3.7
その他の世帯	3.2

(無回答 7.2)

(6) 職業区分 (n=1, 285) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	4.9
	家族従業者	1.0
勤め・内職	勤め (フルタイム)	38.6
	勤め (パートタイム)	16.3
	内職	-
主婦・主夫 (勤めていない)		13.5
学生		1.2
無職		14.7
その他		0.5

(無回答 9.2)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=782) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	1.0
	商工サービス業	4.2
	自由業	4.1
勤め・内職	経営・管理職	6.6
	専門・技術職	22.5
	事務職	25.2
	教育職	4.7
	技能・労務職	8.4
販売・サービス職		20.3

(無回答 2.8)



## 第 1 回課題調査

# 第Ⅱ部 調査結果の概要





## 調査結果の概要

### 【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

例：問3で「持っていると思う」と「ある程度持っていると思う」を合わせたものを《持っていると思う》と表現している。

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

## 1 食の安全・安心（問1～問3）

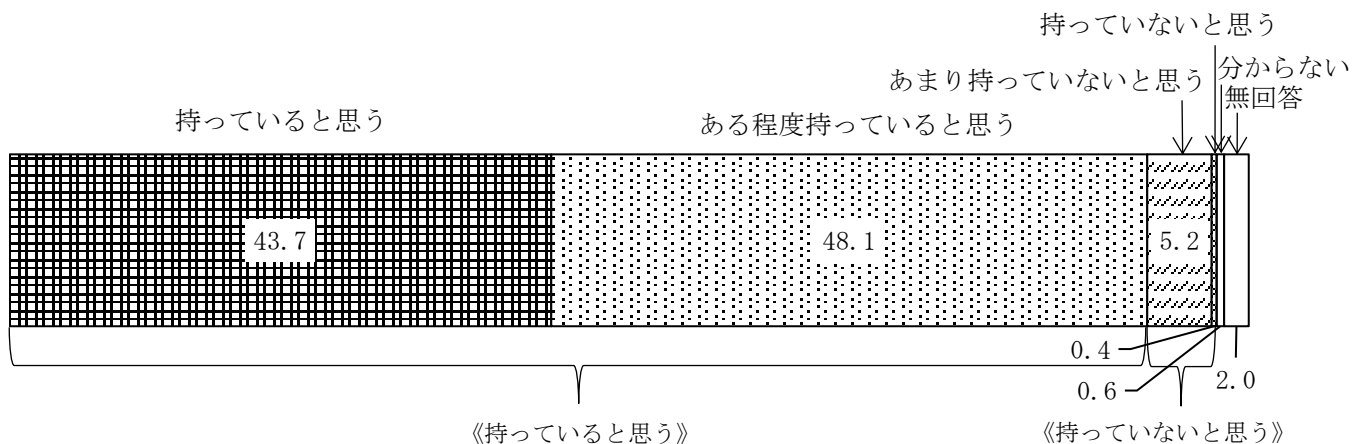
県では、県民の皆様の食の安全・安心の確保に向けた取組みを推進しています。今回、食品を安全に食べるために必要な知識などについて調査しました。

### ▼食品を安全に食べるために必要な知識（問3）

食品を安全に食べるために必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（43.7%）と「ある程度持っていると思う」（48.1%）を合わせた《持っていると思う》は91.8%であった。

一方、「持っていないと思う」（0.4%）と「あまり持っていないと思う」（5.2%）を合わせた《持っていないと思う》は5.6%であった。[図表1]

図表1 食品を安全に食べるために必要な知識（n=1,285）（%）



## 2 食・食育（問4～問10）

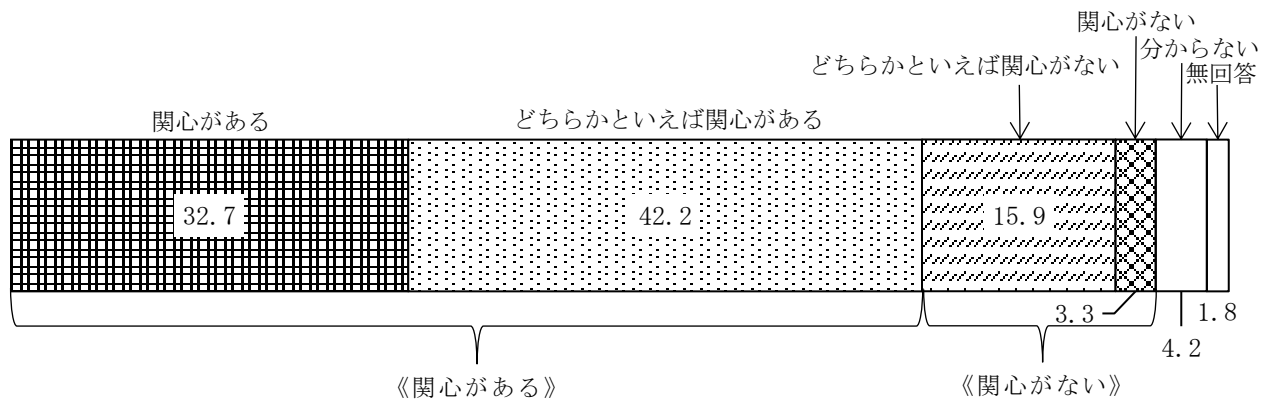
県では、未病を改善するための重要な要素である「食」について、県民一人ひとりが理解を深め、健全な食生活を実践することで、誰もが元気に笑顔で長生きできる社会の実現を目指して、「食育」を推進しています。今回、「食育」への関心などについて調査しました。

### ▼「食育」への関心（問4）

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（32.7%）と「どちらかといえば関心がある」（42.2%）を合わせた《関心がある》は74.9%であった。

一方、「関心がない」（3.3%）と「どちらかといえば関心がない」（15.9%）を合わせた《関心がない》は19.1%であった。〔図表2〕

図表2 「食育」への関心（n=1,285）（%）



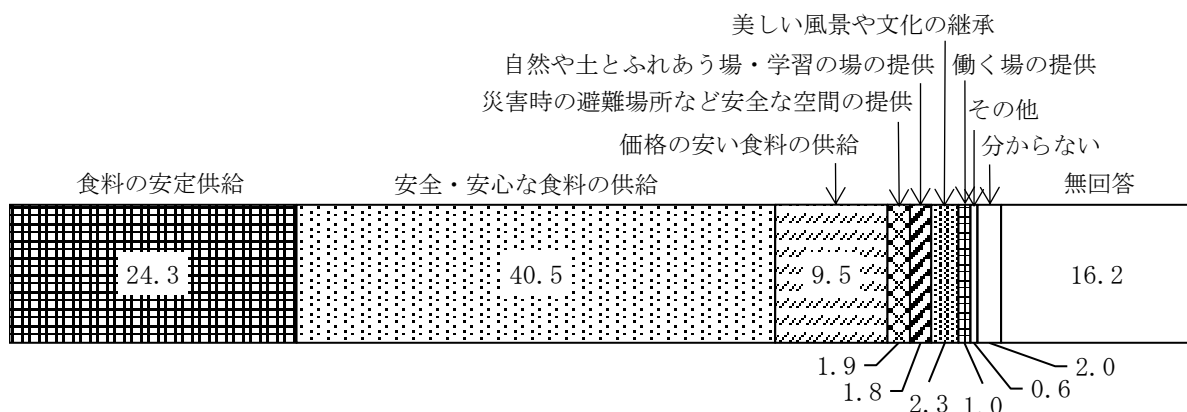
## 3 かながわの農林水産業（問11～問15）

県では、都市農業の持続的な発展を図るため、地産地消の推進や多様な担い手の育成などの取組みを進めています。今回、県の農業に期待する役割などについて調査しました。

### ▼県の農業に期待する役割（問11）

県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が40.5%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が24.3%であった。〔図表3〕

図表3 県の農業に期待する役割（n=1,285）（%）



#### 4 SDGs（持続可能な開発目標）（問16～問17）

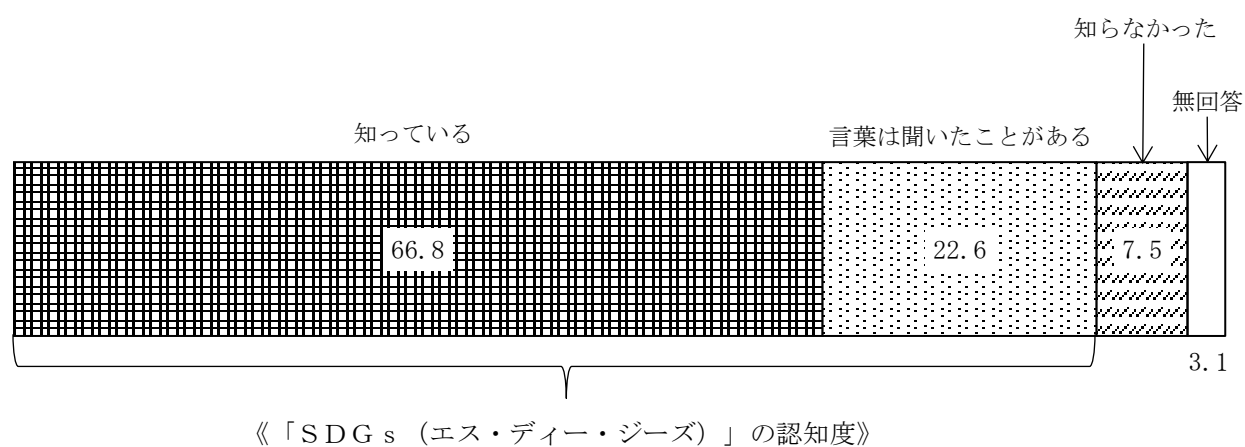
県では、「いのち輝く神奈川」の実現に向けて、持続可能な社会を目指すSDGsの推進に取り組んでいます。今回、「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度などについて調査しました。

##### ▼「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度（問16）

「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について知っているか尋ねたところ、「知っている」（66.8%）と「言葉は聞いたことがある」（22.6%）を合わせた《「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度》は89.4%であった。

一方、「知らなかった」が7.5%であった。[図表4]

図表4 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度（n=1,285）（%）



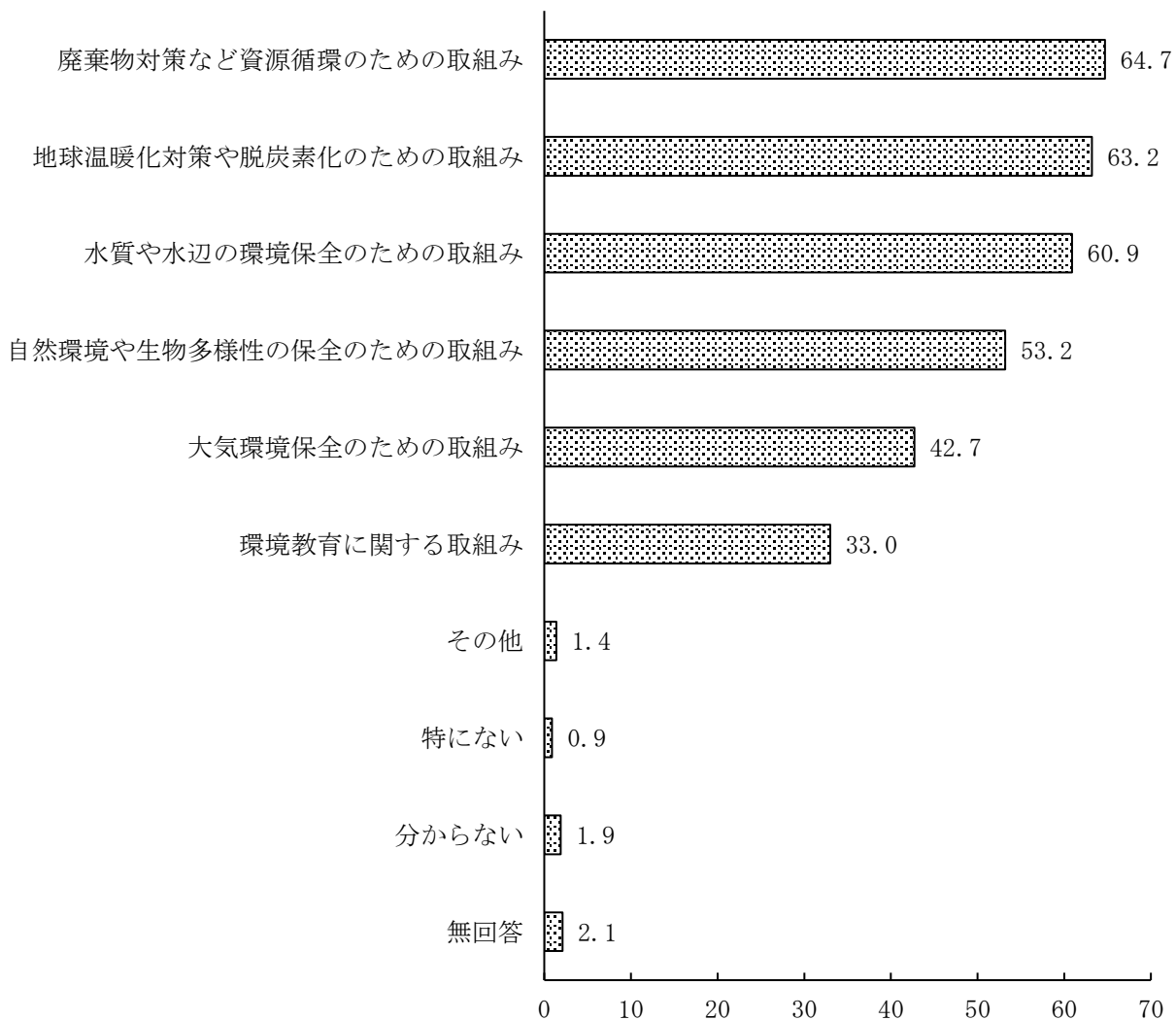
## 5 環境問題（問 18～問 21）

県では、「神奈川県環境基本計画」に基づき、環境施策を推進しています。今回、県に特に力を入れてほしい環境に関する取組みなどについて調査しました。

### ▼特に力を入れてほしい環境に関する取組み（問 18）

特に力を入れてほしい環境に関する取組みを複数回答で尋ねたところ、「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が 64.7% で最も多く、次いで「地球温暖化対策や脱炭素化のための取組み」が 63.2% であった。[図表 5]

図表 5 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）（n=1,285）（%）



## 6 ICT（情報通信技術）（問22～問24）

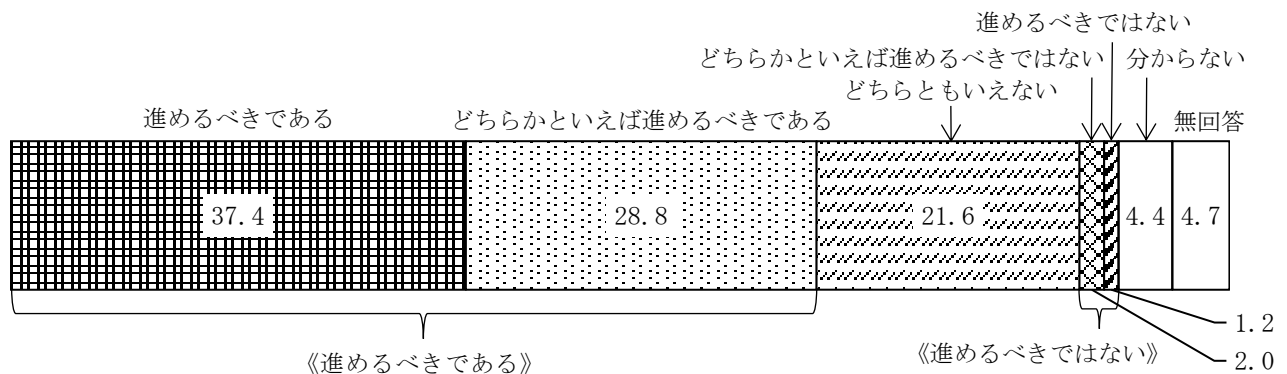
県では、県民の安全・安心や利便性の向上を図る「くらしの情報化」と、それを支えるために行政内部の業務全般の効率化を図る「行政の情報化」という2つの側面から、ICT及びデータの利活用に積極的に取り組んでいます。今回、デジタル化推進に関する意向などについて調査しました。

### ▼デジタル化推進に関する意向（問22）

少子高齢化や自然災害の増加など、複雑化・多様化する社会課題を解決するため、デジタル化をさらに進めるべきだと思うか尋ねたところ、「進めるべきである」（37.4%）と「どちらかといえば進めるべきである」（28.8%）を合わせた《進めるべきである》は66.1%であった。

一方、「進めるべきではない」（1.2%）と「どちらかといえば進めるべきではない」（2.0%）を合わせた《進めるべきではない》は3.2%であった。[図表6]

図表6 デジタル化推進に関する意向（n=1,285）（%）



## 7 将来の住まい（問25～問26）

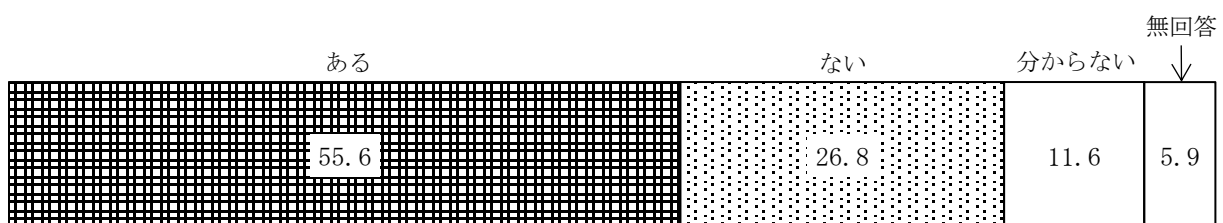
県では、人生100歳時代に向けて、全ての県民がともに支えあい、安全で安心してくらす「いのち輝く住まいまちづくり」を実現するため、地域の実情に応じた総合的な住宅施策を展開しています。今回、施策の推進に役立てるため、将来の住まいに対する不安などについて調査しました。

### ▼将来の住まいに対する不安（問25）

高齢者の方に対しては現在、それ以外の年代の方には将来高齢者になったとき、現在の住まいに不安があるかどうかを尋ねたところ、「ある」が55.6%であった。

一方、「ない」が26.8%であった。[図表7]

図表7 将来の住まいに対する不安（n=1,285）（%）



## 8 地域社会との関わり（問 27）

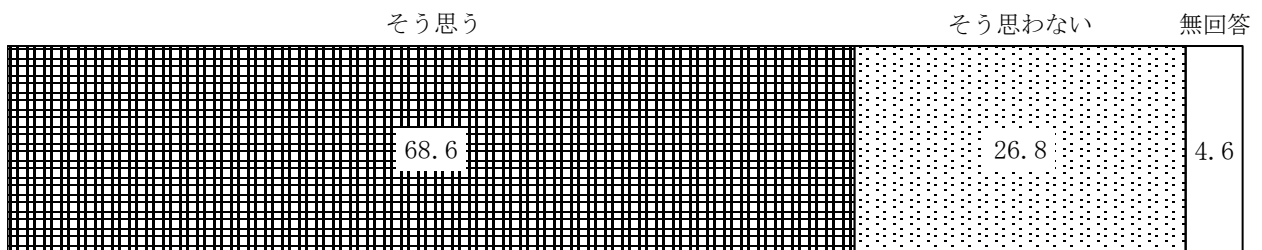
県では、人生 100 歳時代におけるコミュニティ再生・活性化に向けた取組みを推進しています。今回、地域社会との関わりを大切にする意識について調査しました。

### ▼地域社会との関わりを大切にする意識（問 27）

長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が 68.6%であった。

一方、「そう思わない」が 26.8%であった。〔図表 8〕

図表 8 地域社会との関わりを大切にする意識（n=1,285）（%）



## 9 治安対策（問 28～問 30）

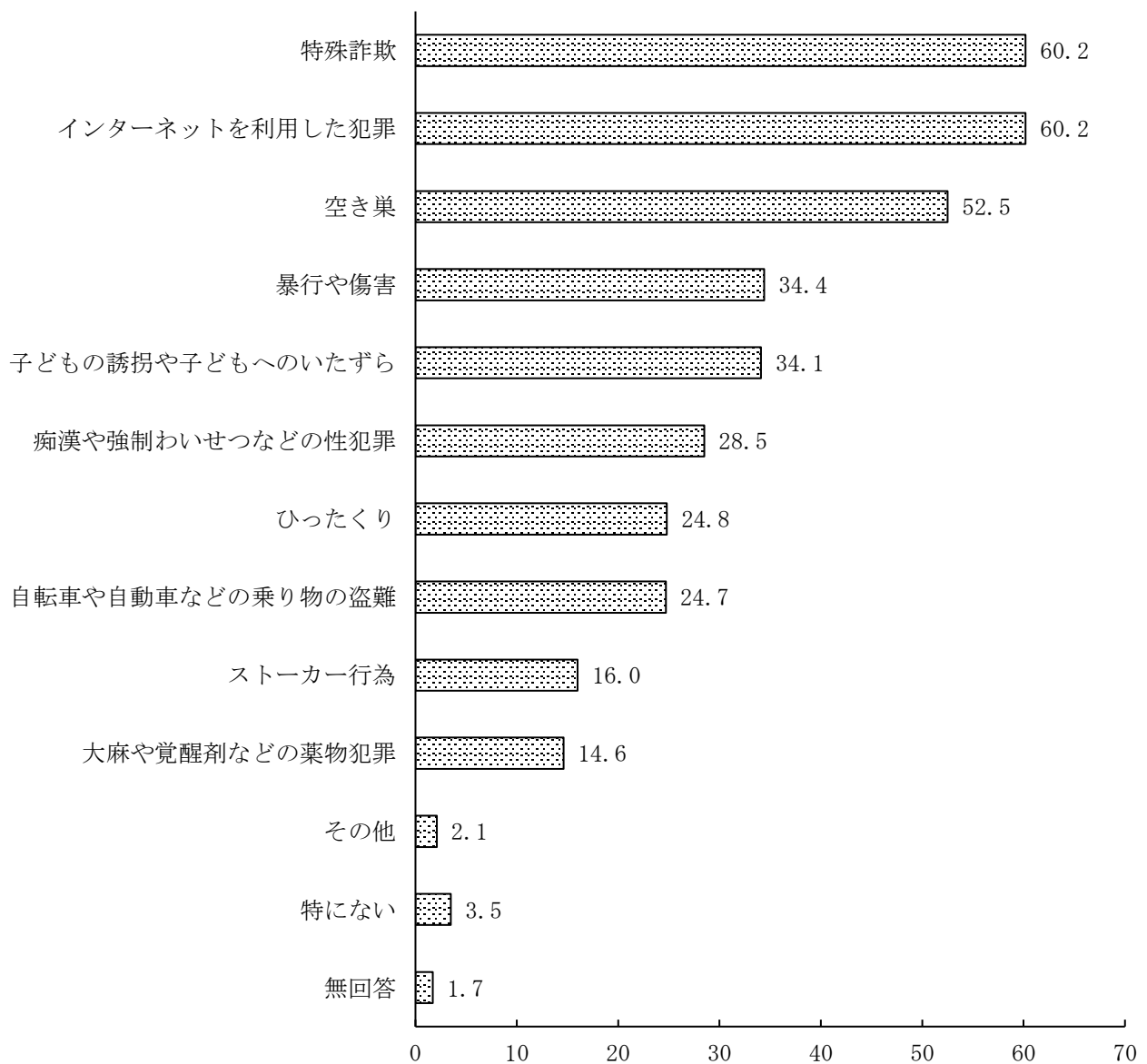
県警察では、県民が身近に不安を感じる犯罪の抑止・検挙活動を始めとした各種警察活動を推進し、県民の皆様が安全で安心してくださる地域社会の実現に努めています。今回、不安を感じる犯罪などについて調査しました。

### ▼不安を感じる犯罪（問 28）

身近で発生する可能性がある犯罪のうち、不安を感じるものを複数回答で尋ねたところ、「特殊詐欺」と「インターネットを利用した犯罪」が60.2%で最も多く、次いで「空き巣」が52.5%であった。

[図表 9]

図表 9 不安を感じる犯罪（複数回答）（n=1,285）（%）



## 10 ともに生きる社会かながわ（問 31～問 38）

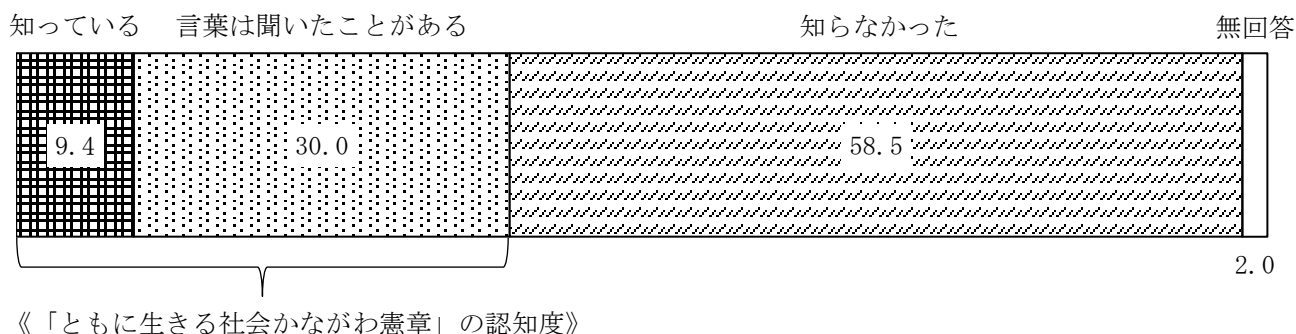
平成 28 年 7 月に県立の障害者支援施設である「津久井やまゆり園」で発生した事件が二度と繰り返されないよう、県は、ともに生きる社会の実現をめざし、県議会とともに「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定しました。この憲章の理念を広く県民の皆様に普及する活動を行い、ともに生きる社会の実現に向けた取組みを推進しています。今回、「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度などについて調査しました。

### ▼「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度（問 32）

「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っているか尋ねたところ、「知っている」（9.4%）と「言葉は聞いたことがある」（30.0%）を合わせた《「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度》は 39.5%であった。

一方、「知らなかった」が 58.5%であった。〔図表 10〕

図表 10 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度（n=1,285）（%）





## 11 生活に不安や課題がある人への支援（問 39～問 41）

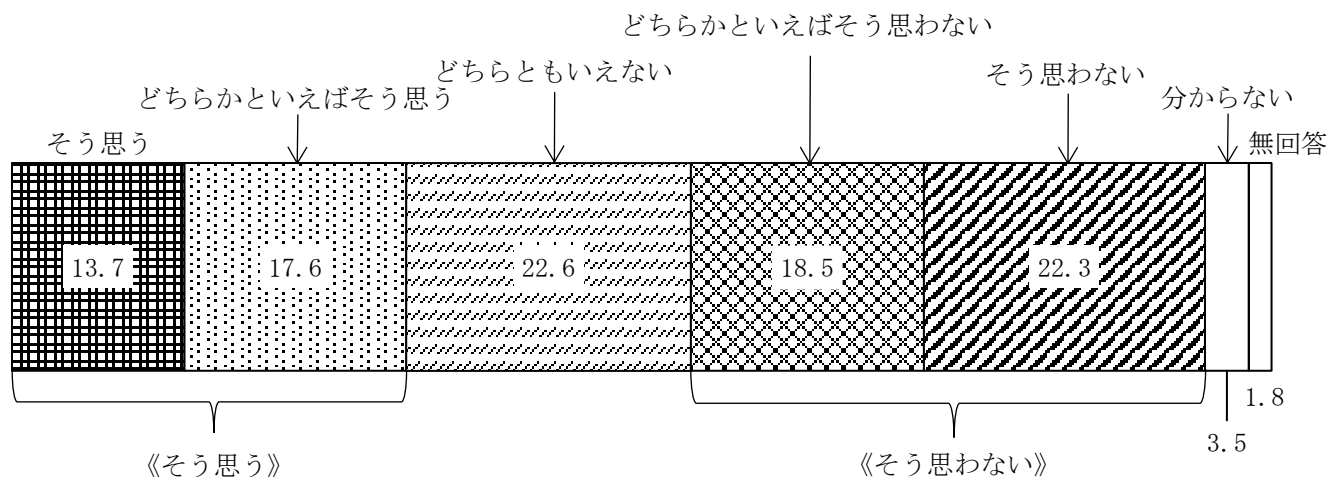
県では、多様な担い手と連携し、生きづらさ・くらしにくさを抱えながら、声を上げない・上げられない方に積極的にアプローチし、早期に相談や地域の支援につなげる取組みなどを推進し、誰もが自分らしく夢や希望を持つことができる地域づくりに取り組んでいます。今回、誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度などについて調査しました。

### ▼誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度（問 39）

私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思うか尋ねたところ、「そう思う」（13.7%）と「どちらかといえばそう思う」（17.6%）を合わせた《そう思う》は31.3%であった。

一方、「そう思わない」（22.3%）と「どちらかといえばそう思わない」（18.5%）を合わせた《そう思わない》は40.8%であった。[図表 11]

図表 11 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度（n=1,285）（%）



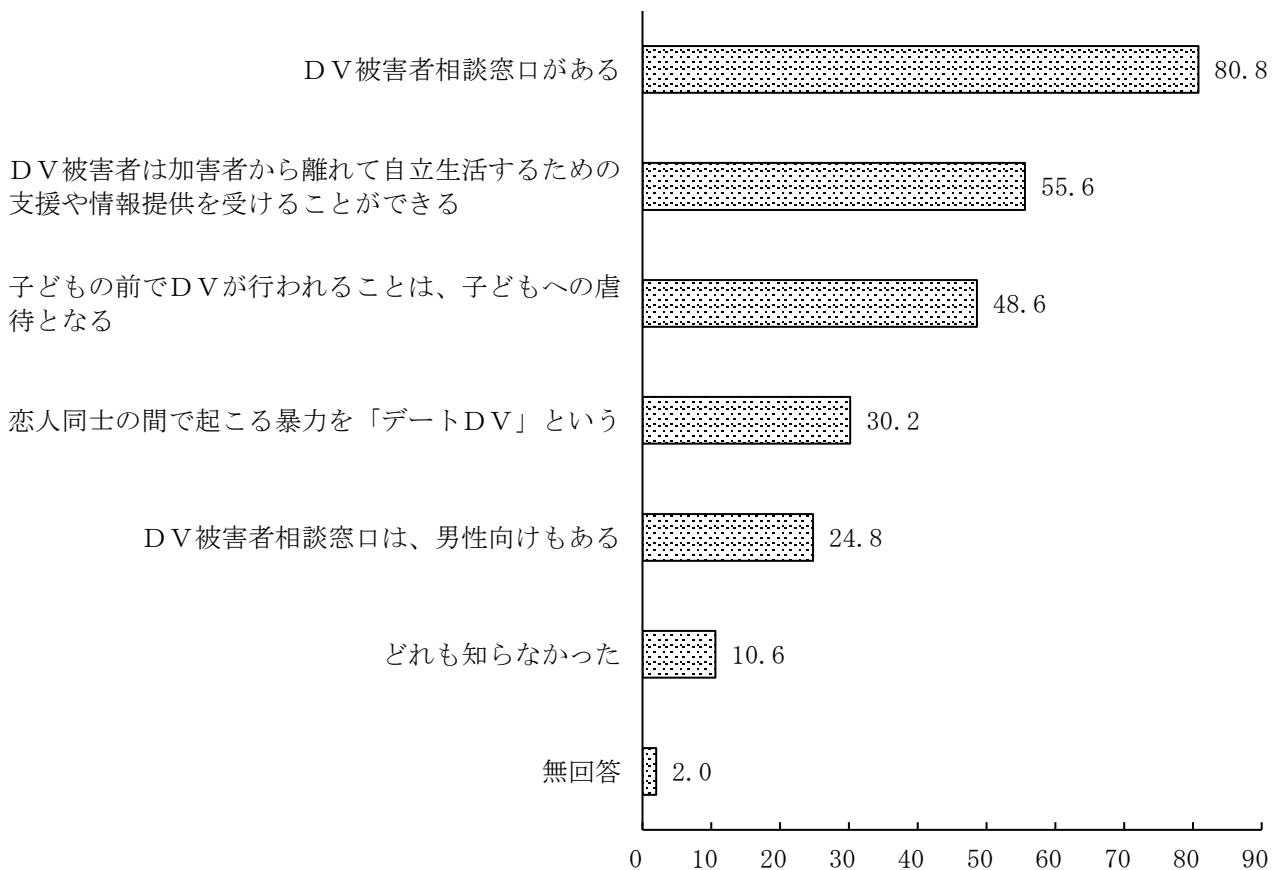
## 12 配偶者等からの暴力（問 42）

県では、「かながわDV防止・被害者支援プラン」に基づき、DV被害者への支援の充実に加え、DV防止の取組みの強化を図っています。今回、配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解などについて調査しました。

### ▼配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解（問 42）

配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解について複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が80.8%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が55.6%であった。[図表 12]

図表 12 配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解（複数回答）（n=1,285）（%）



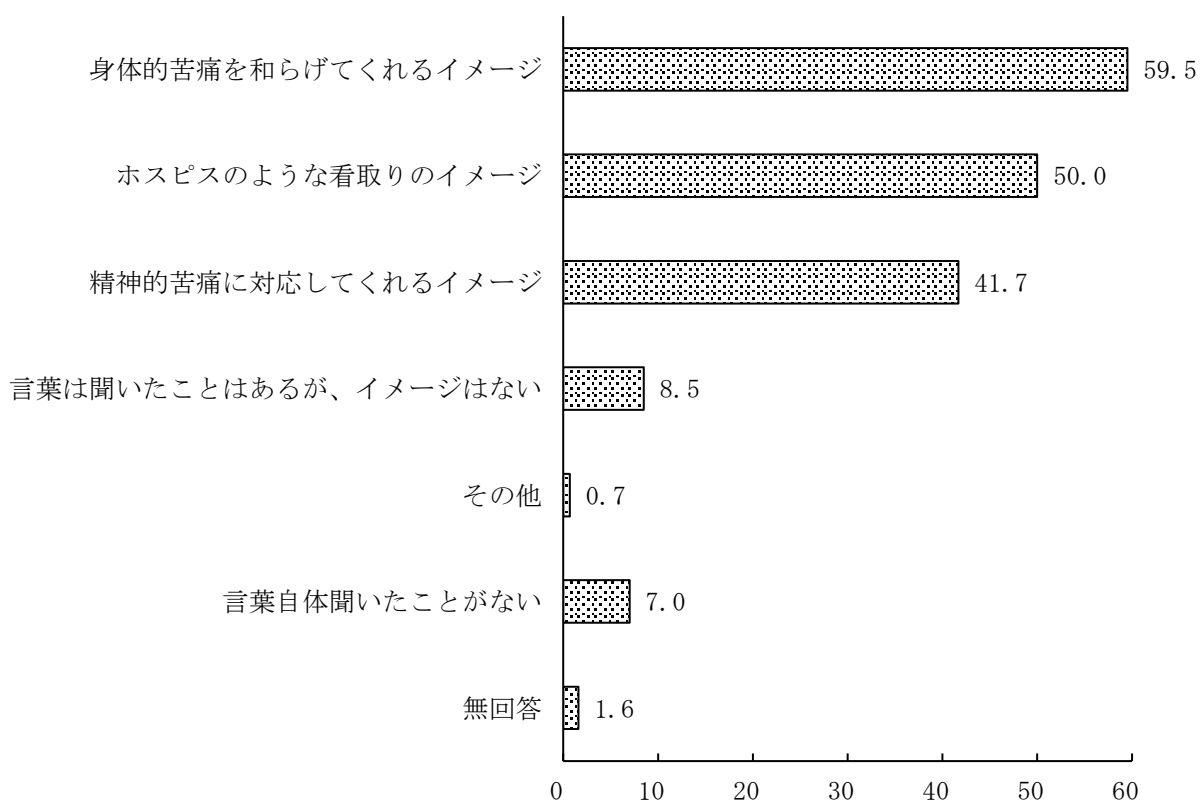
### 13 がん対策（問 43～問 45）

県では、がんと診断されたときから治療後に至るまで、がん患者とその家族などの身体的・精神的な苦痛に対して、多職種で連携して専門的な支援を行う「緩和ケア」の充実に取り組んでいます。今回、「緩和ケア」に対するイメージなどについて調査しました。

#### ▼「緩和ケア」に対するイメージ（問 44）

「緩和ケア」について、どのようなイメージを持っているか複数回答で尋ねたところ、「身体的苦痛を和らげてくれるイメージ」が 59.5%で最も多く、次いで「ホスピスのような看取りのイメージ」が 50.0%であった。[図表 13]

図表 13 「緩和ケア」に対するイメージ（複数回答）（n=1,285）（%）



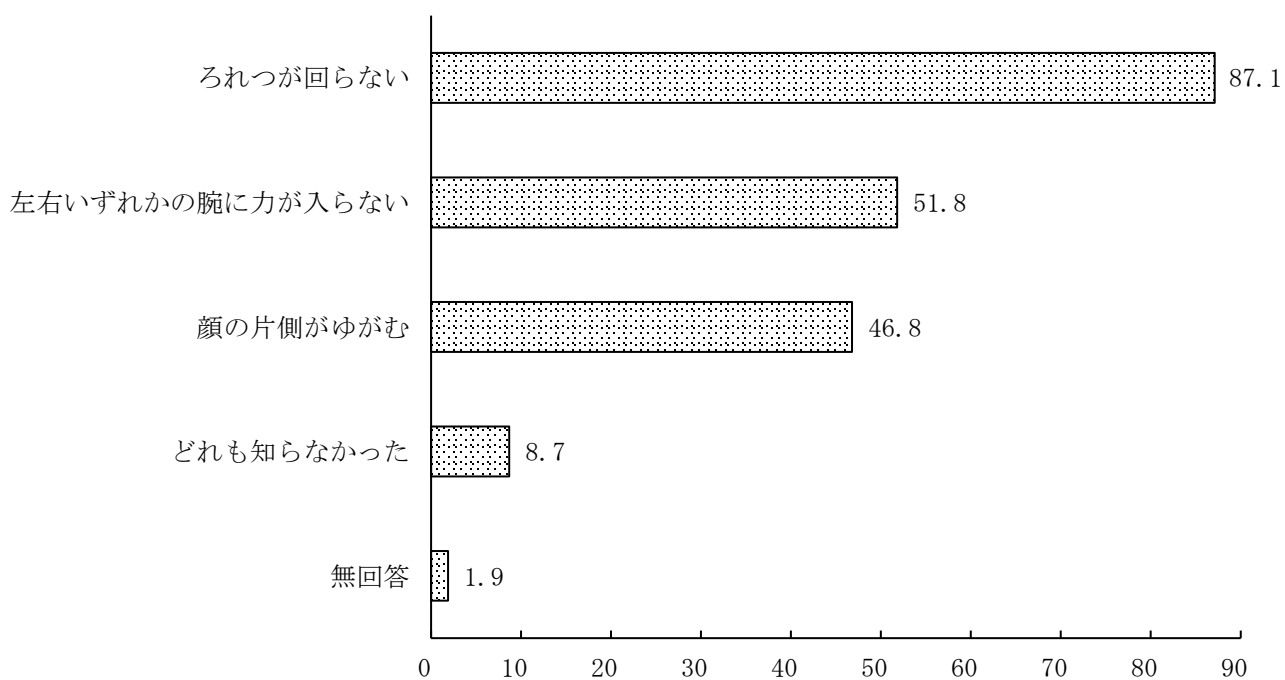
## 14 循環器病対策（問 46～問 48）

県では、循環器病（脳卒中や心疾患など）の未病改善や正しい知識の普及啓発、保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実などに取り組んでいます。今回、脳卒中の主な初期症状の認知度などについて調査しました。

### ▼脳卒中の主な初期症状の認知度（問 46）

脳卒中の主な初期症状について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「ろれつが回らない」が 87.1%で最も多く、次いで「左右いずれかの腕に力が入らない」が 51.8%であった。[図表 14]

図表 14 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）（n=1,285）（%）



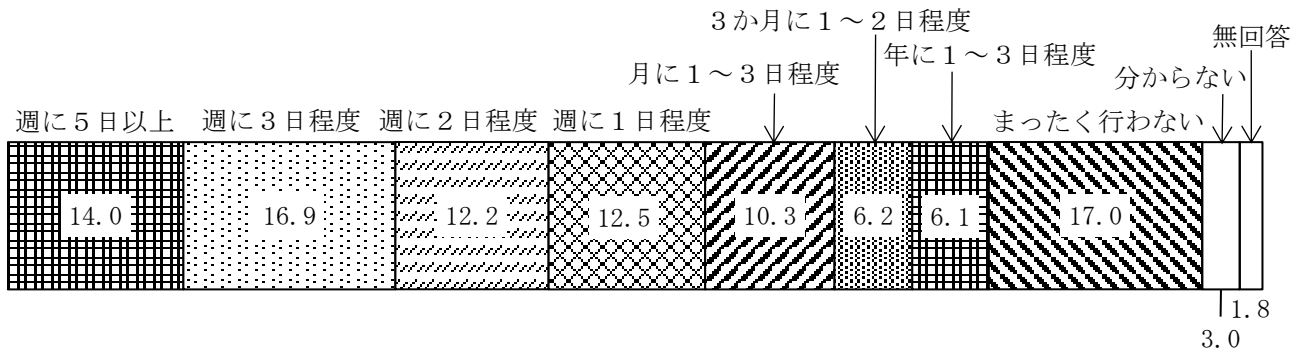
## 15 スポーツ（問 49～問 52）

県では、「神奈川県スポーツ推進条例」に基づき、神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」を策定し、様々なスポーツ施策に取り組んでいます。今回、1年間のスポーツ実施日数などについて調査しました。

### ▼1年間のスポーツ実施日数（問 50）

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「まったく行わない」が17.0%で最も多く、次いで「週に3日程度」が16.9%であった。[図表 15]

図表 15 1年間のスポーツ実施日数（n=1,285）（%）



## 16 かながわの広報（問 53～問 55）

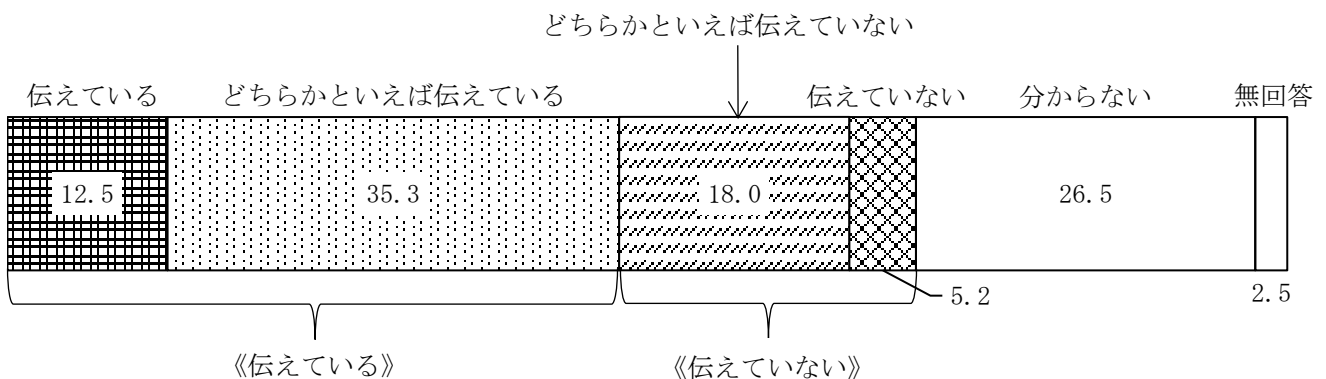
県では、「県のたより」などの広報紙や県広報テレビ・ラジオ番組、ホームページ、ソーシャルメディアなどを通じて、様々な県政情報をお伝えしています。今回は、県の広報の達成度などについて調査しました。

### ▼県の広報の達成度（問 53）

県が県政情報を伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」（12.5%）と「どちらかといえば伝えている」（35.3%）を合わせた《伝えている》は47.8%であった。

一方、「伝えていない」（5.2%）と「どちらかといえば伝えていない」（18.0%）を合わせた《伝えていない》は23.2%であった。[図表 16]

図表 16 県の広報の達成度（n=1,285）（%）





## 第Ⅲ部 調査結果の詳細

### 【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。





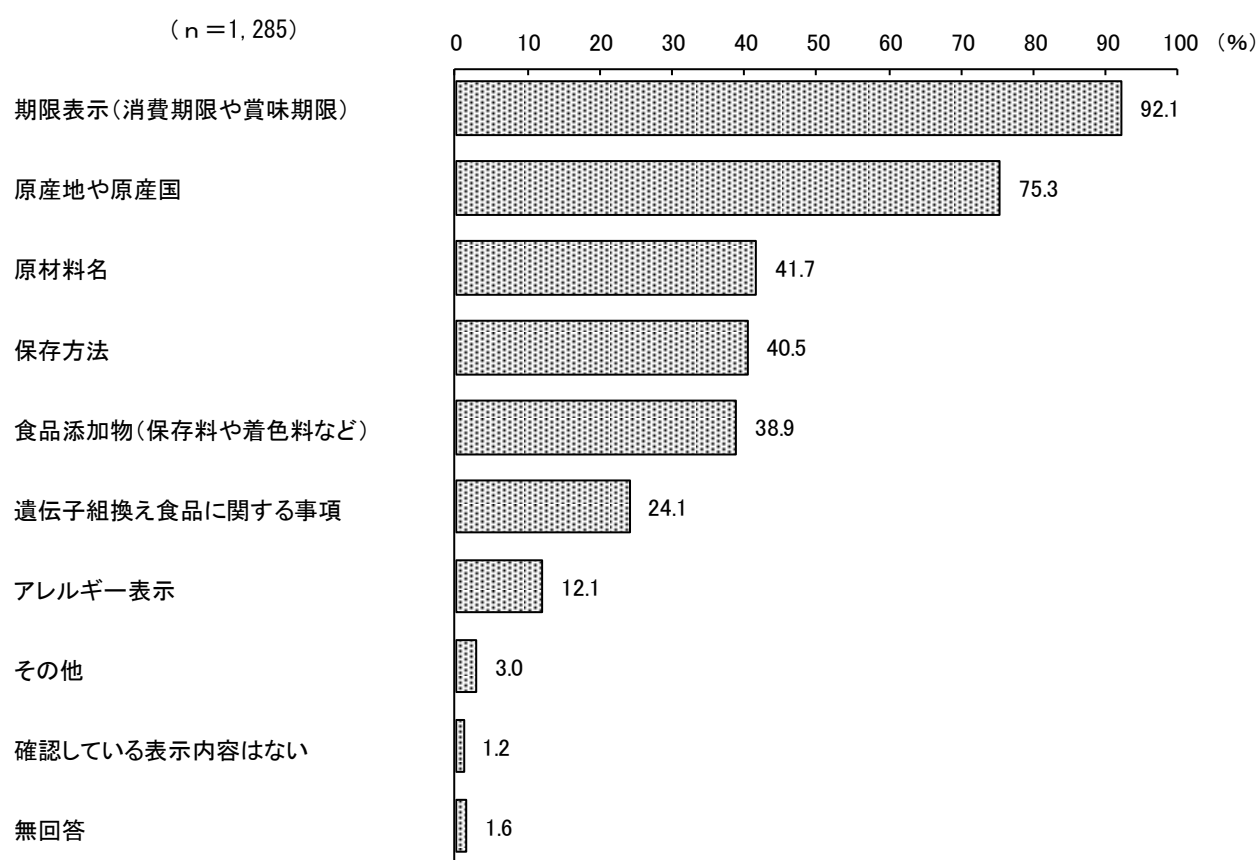
## 第1章 「食の安全・安心」【問1～問3】

### 1 食品を購入する際に確認している表示内容【問1】

#### 【全体の状況】

食品を購入する際に、確認している表示内容を複数回答で尋ねたところ、「期限表示（消費期限や賞味期限）」が92.1%で最も多く、次いで「原産地や原産国」が75.3%であった。（図表1-1-1）

図表1-1-1 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）



図表1-1-2 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

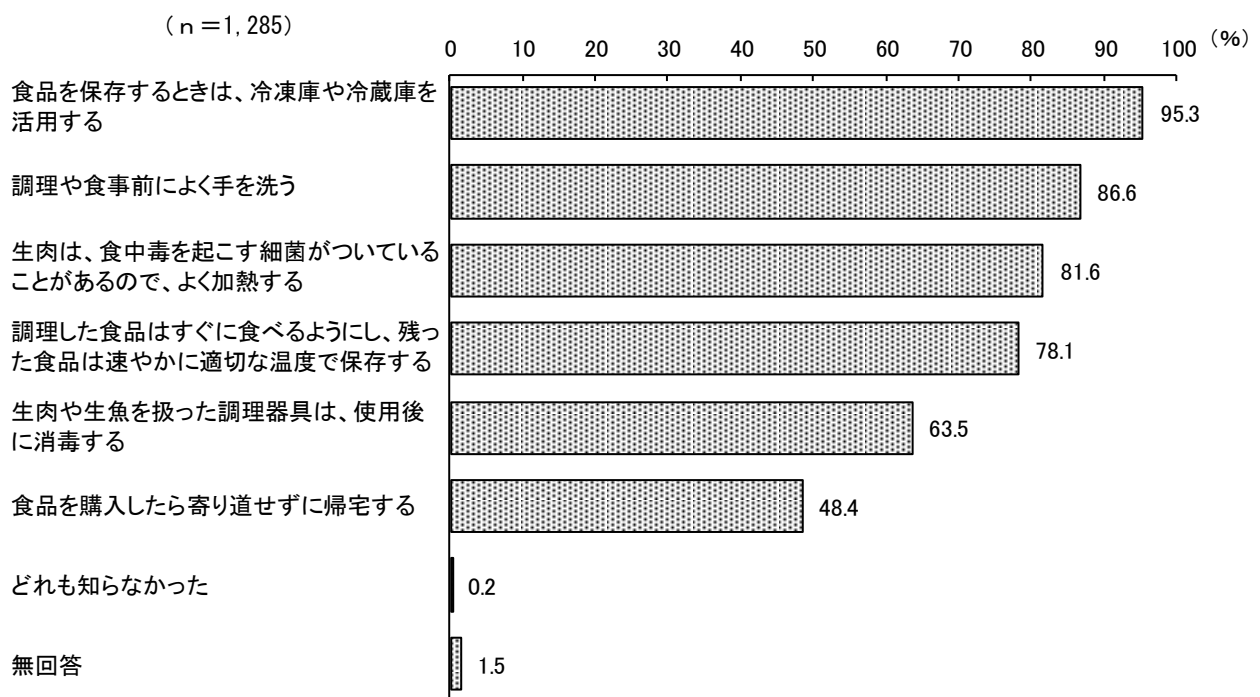
	n	期限表示 (消費期限や賞味期限)	原産地や原産国	原材料名	保存方法	食品添加物 (保存料や着色料など)	遺伝子組換え食品に関する事項	アレルギー表示	その他	確認している表示内容はない	無回答
全体	1,285	92.1	75.3	41.7	40.5	38.9	24.1	12.1	3.0	1.2	1.6
【地域別】											
横 浜	503	92.2	75.5	45.3	40.2	41.7	22.9	13.3	3.4	1.6	1.0
川 崎	163	93.9	73.0	38.0	40.5	38.0	24.5	8.0	4.3	-	1.8
相 模 原	81	91.4	72.8	38.3	33.3	35.8	19.8	7.4	3.7	3.7	1.2
横 須 賀 三 浦	93	88.2	73.1	39.8	40.9	43.0	33.3	17.2	2.2	2.2	2.2
県 央	130	96.2	77.7	35.4	45.4	33.1	22.3	6.9	3.1	-	0.8
湘 南	182	92.9	79.1	48.9	38.5	41.2	29.7	16.5	2.7	-	1.1
県 西	50	90.0	72.0	26.0	38.0	22.0	14.0	8.0	2.0	2.0	-
【性・年代別】											
男 性	555	91.9	69.4	36.2	35.7	33.2	18.7	10.8	4.5	2.3	0.4
女 性	638	93.3	81.0	47.2	44.0	44.4	28.8	13.0	2.2	0.2	1.7
男性18～29歳	25	84.0	72.0	44.0	36.0	32.0	20.0	4.0	-	8.0	-
30歳代	51	86.3	60.8	37.3	31.4	33.3	19.6	21.6	11.8	5.9	-
40歳代	101	89.1	73.3	37.6	21.8	29.7	17.8	12.9	4.0	1.0	-
50歳代	134	91.8	67.9	36.6	36.6	33.6	21.6	9.7	6.7	2.2	0.7
60歳代	120	94.2	70.8	37.5	35.8	43.3	20.0	6.7	2.5	1.7	0.8
70～74歳	67	98.5	74.6	29.9	47.8	29.9	19.4	10.4	1.5	1.5	-
75歳以上	56	92.9	62.5	33.9	46.4	21.4	7.1	12.5	3.6	1.8	-
女性18～29歳	33	87.9	42.4	21.2	27.3	18.2	6.1	6.1	-	-	-
30歳代	81	95.1	71.6	34.6	27.2	35.8	18.5	13.6	2.5	-	1.2
40歳代	134	91.8	84.3	41.8	30.6	45.5	23.9	9.0	3.0	-	3.0
50歳代	122	95.1	87.7	54.1	43.4	39.3	34.4	11.5	3.3	-	0.8
60歳代	131	93.9	87.8	55.0	58.8	47.3	39.7	21.4	0.8	-	1.5
70～74歳	52	92.3	86.5	59.6	57.7	59.6	34.6	9.6	1.9	1.9	1.9
75歳以上	83	92.8	77.1	48.2	59.0	53.0	27.7	12.0	2.4	-	2.4

## 2 食中毒を予防する上で重要なこと【問2】

### 【全体の状況】

食中毒を予防する上で重要なことがらについて、知っていることを複数回答で尋ねたところ、「食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する」が95.3%で最も多く、次いで「調理や食事前によく手を洗う」が86.6%であった。（図表1-2-1）

図表1-2-1 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）



図表1-2-2 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	冷蔵食品を保存するときは、冷凍庫や	調理や食事によく手を洗う	熱い生肉は、食中毒を起す細菌が加	調理した食品はすぐに食べるよう	調理した食品は速やかに適切	生肉や生魚を扱った調理器具は、	食品を購入したら寄り道せずに帰	どれも知らなかった	無回答
全体	1,285	95.3	86.6	81.6	78.1	63.5	48.4	0.2	1.5	
【地域別】										
横浜	503	96.2	86.7	82.7	77.5	65.2	47.5	0.4	0.8	
川崎	163	93.9	84.0	78.5	78.5	57.7	45.4	-	1.8	
相模原	81	96.3	85.2	85.2	71.6	66.7	39.5	-	1.2	
横須賀三浦	93	90.3	87.1	74.2	75.3	57.0	43.0	-	2.2	
県央	130	97.7	86.2	83.8	80.0	64.6	50.8	-	0.8	
湘南	182	96.7	90.1	87.4	84.6	68.7	57.7	-	1.1	
県西	50	96.0	88.0	72.0	78.0	62.0	46.0	-	-	
【性・年代別】										
男性	555	95.7	82.9	78.4	75.0	59.3	44.9	0.4	0.2	
女性	638	95.8	90.1	85.3	81.5	67.9	51.1	-	1.7	
男性18～29歳	25	92.0	72.0	80.0	80.0	64.0	48.0	-	-	
30歳代	51	100.0	84.3	82.4	82.4	64.7	52.9	-	-	
40歳代	101	95.0	91.1	89.1	78.2	70.3	47.5	-	-	
50歳代	134	95.5	81.3	80.6	70.1	58.2	43.3	0.7	-	
60歳代	120	95.0	82.5	73.3	72.5	54.2	42.5	-	0.8	
70～74歳	67	97.0	83.6	76.1	85.1	61.2	52.2	-	-	
75歳以上	56	94.6	75.0	62.5	64.3	42.9	32.1	1.8	-	
女性18～29歳	33	90.9	87.9	87.9	72.7	57.6	24.2	-	-	
30歳代	81	98.8	87.7	81.5	77.8	64.2	49.4	-	1.2	
40歳代	134	94.8	89.6	87.3	79.1	72.4	51.5	-	3.0	
50歳代	122	95.1	88.5	86.1	76.2	65.6	47.5	-	0.8	
60歳代	131	96.9	90.8	87.8	88.5	72.5	58.8	-	1.5	
70～74歳	52	94.2	94.2	86.5	88.5	71.2	55.8	-	1.9	
75歳以上	83	96.4	92.8	78.3	84.3	61.4	51.8	-	2.4	

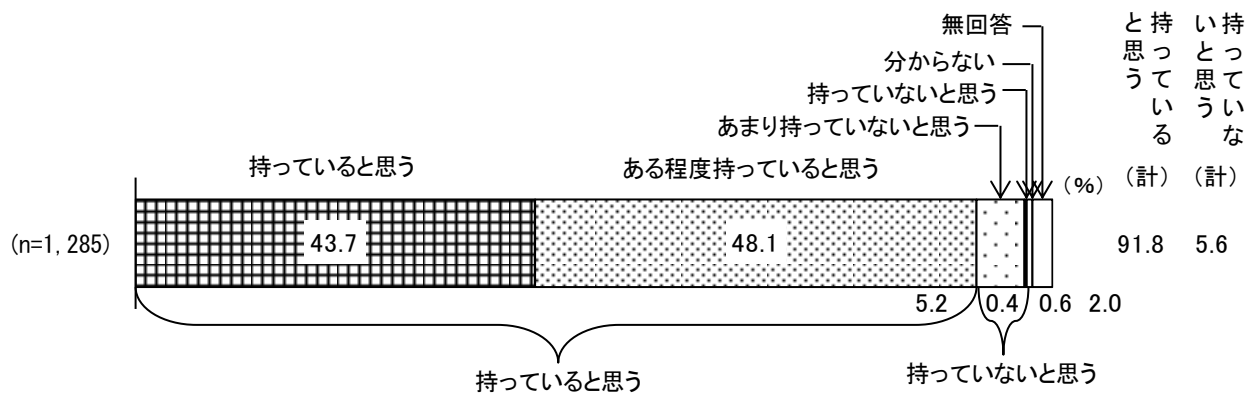
### 3 食品を安全に食べるために必要な知識【問3】

#### 【全体の状況】

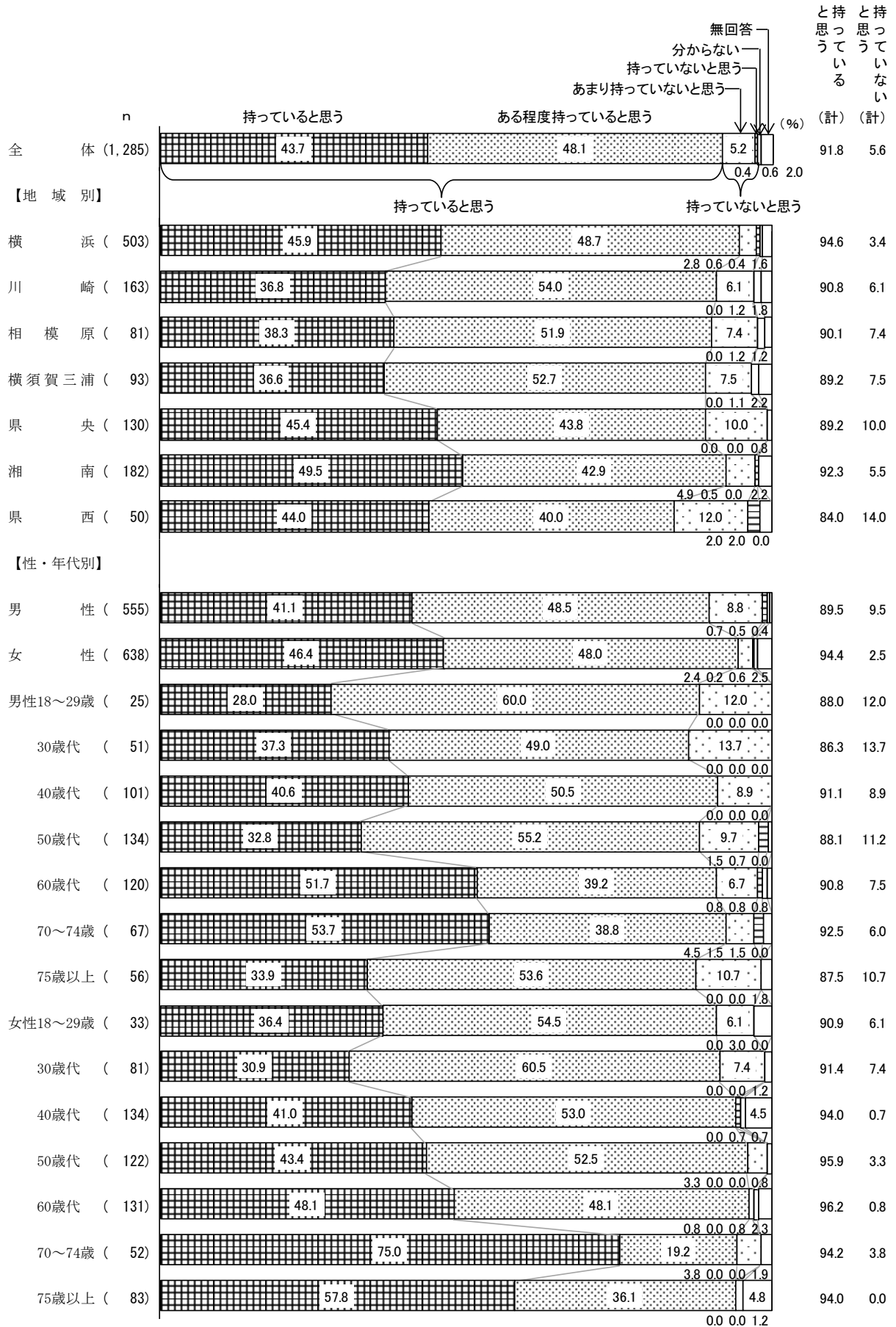
調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど、食品を安全に食べるために必要な知識を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」(43.7%)と「ある程度持っていると思う」(48.1%)を合わせた《持っていると思う》は91.8%であった。

一方、「持っていないと思う」(0.4%)と「あまり持っていないと思う」(5.2%)を合わせた《持っていないと思う》は5.6%であった。(図表1-3-1)

図表1-3-1 食品を安全に食べるために必要な知識



図表1-3-2 食品を安全に食べるために必要な知識—地域別、性・年代別



## 第2章 食・食育【問4～問10】

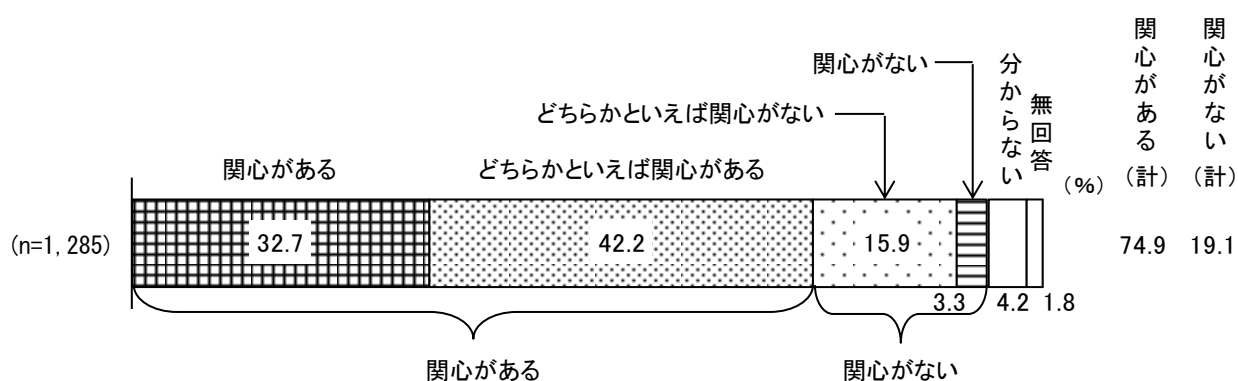
### 1 「食育」への関心【問4】

#### 【全体の状況】

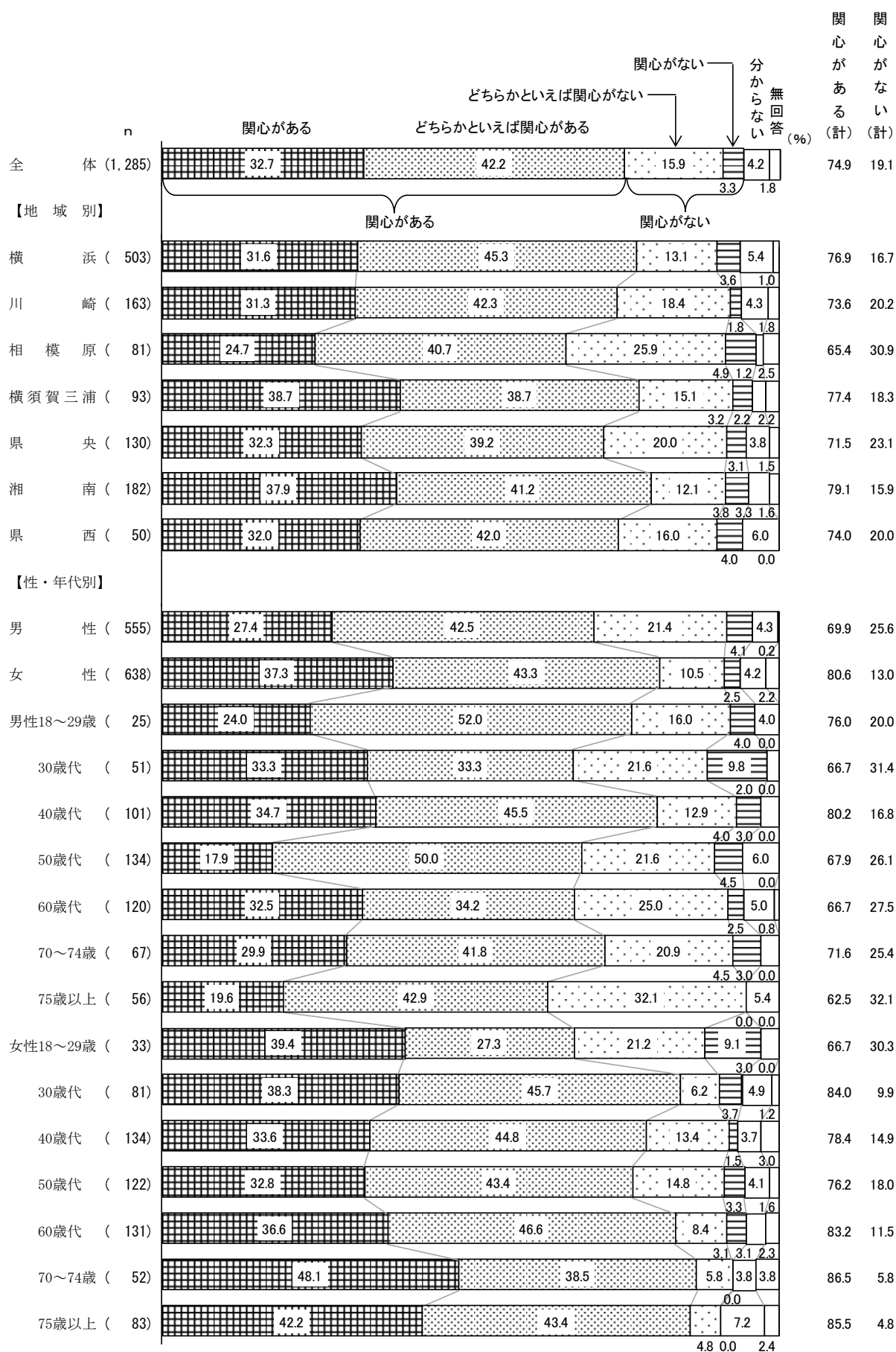
「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(32.7%)と「どちらかといえば関心がある」(42.2%)を合わせた《関心がある》は74.9%であった。

一方、「関心がない」(3.3%)と「どちらかといえば関心がない」(15.9%)を合わせた《関心がない》は19.1%であった。(図表2-1-1)

図表2-1-1 「食育」への関心



図表2-1-2 「食育」への関心—地域別、性・年代別





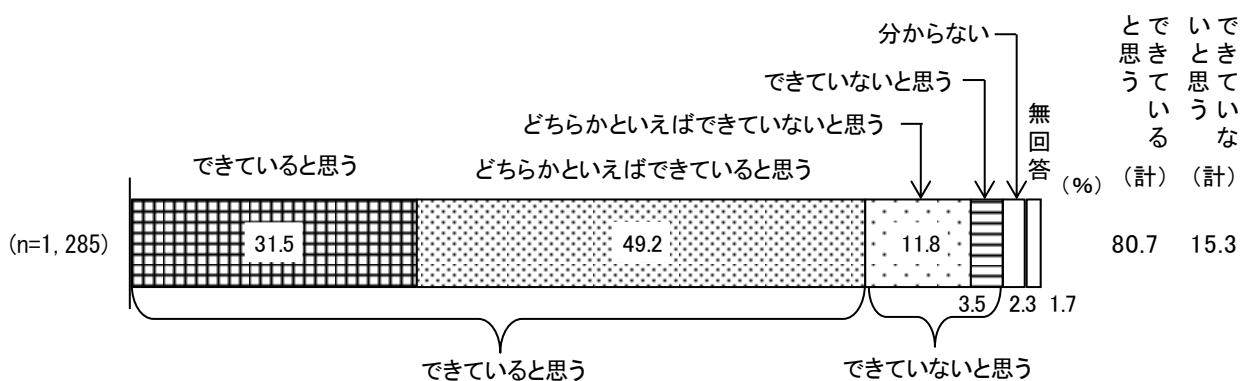
## 2 食事のマナーを正しくできていることへの意識【問5】

### 【全体の状況】

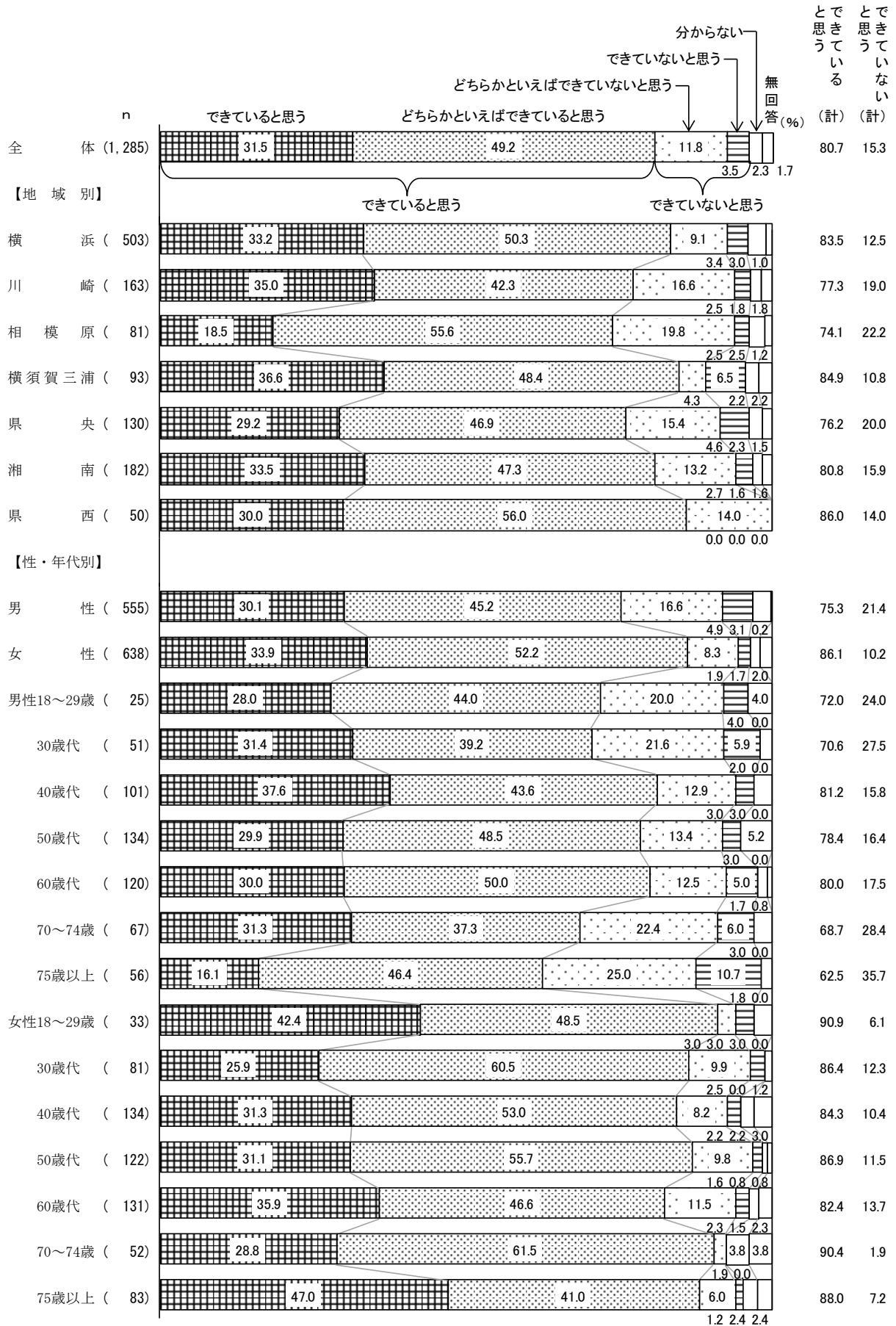
いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など食事のマナーを正しくできていると思うか尋ねたところ、「できていると思う」(31.5%)と「どちらかといえばできていると思う」(49.2%)を合わせた《できていると思う》は80.7%であった。

一方、「できていないと思う」(3.5%)と「どちらかといえばできていないと思う」(11.8%)を合わせた《できていないと思う》は15.3%であった。(図表2-2-1)

図表2-2-1 食事のマナーを正しくできていることへの意識



図表2-2-2 食事のマナーを正しくできていることへの意識—地域別、性・年代別



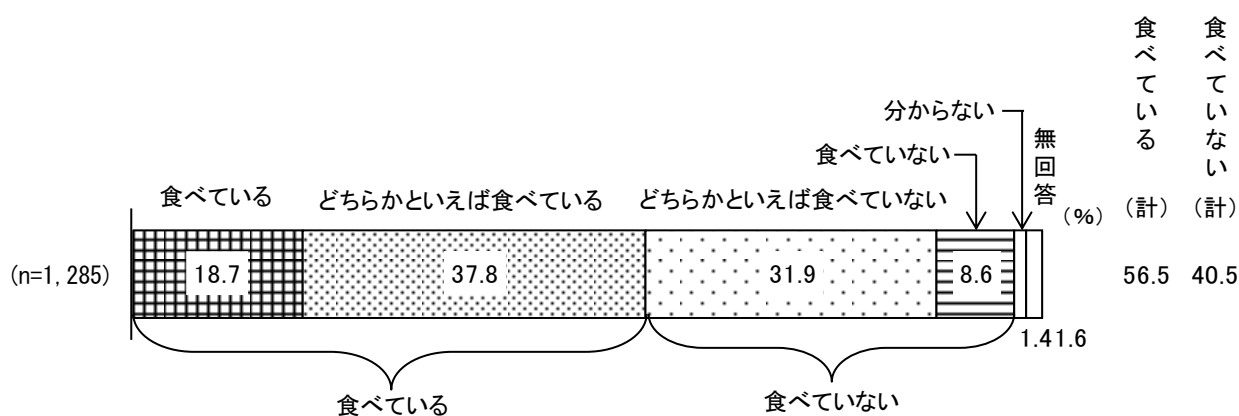
### 3 ゆっくりよく噛んで食べているか【問6】

#### 【全体の状況】

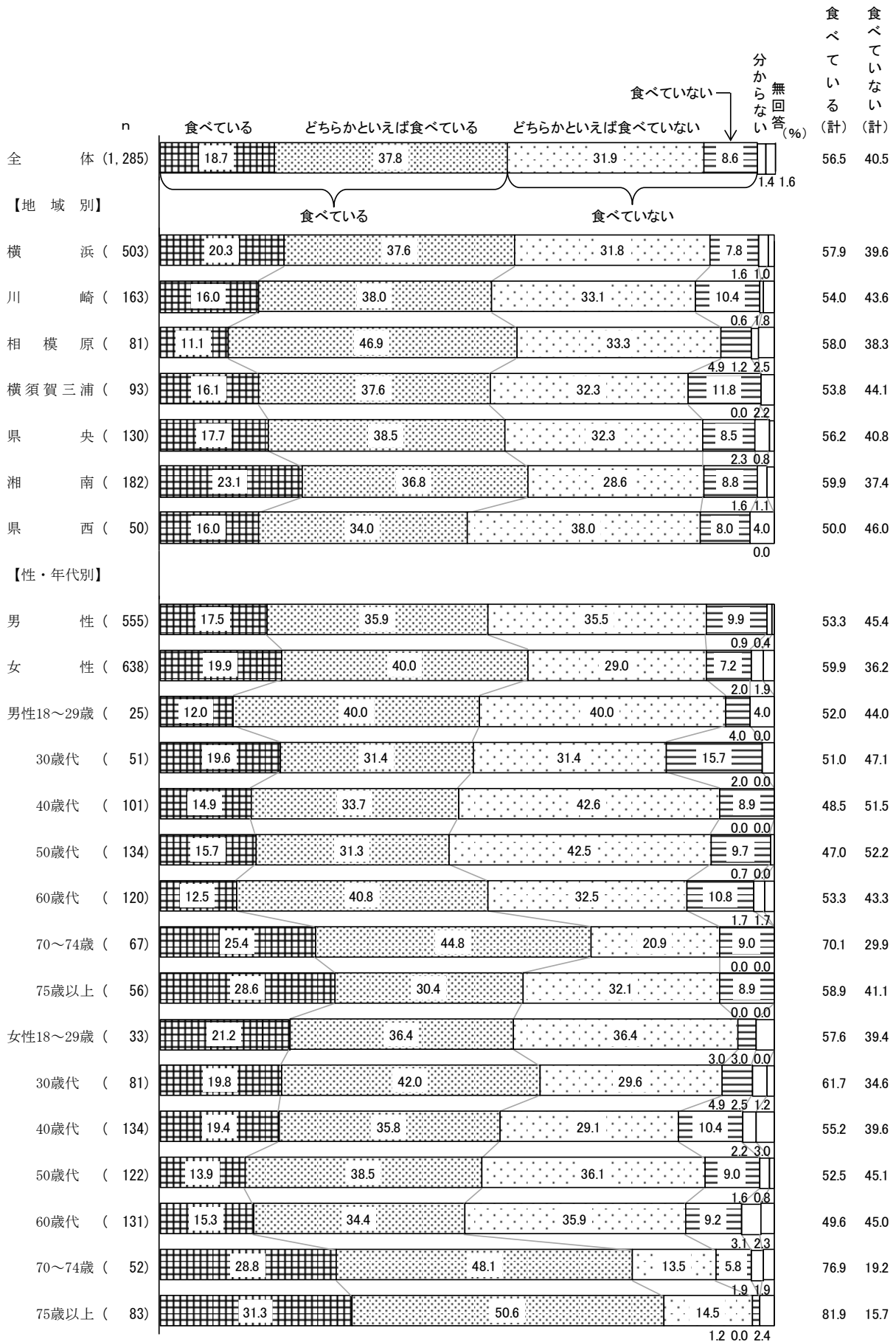
ゆっくりよく噛んで食べているか尋ねたところ、「食べている」(18.7%)と「どちらかといえば食べている」(37.8%)を合わせた《食べている》は56.5%であった。

一方、「食べていない」(8.6%)と「どちらかといえば食べていない」(31.9%)を合わせた《食べていない》は40.5%であった。(図表2-3-1)

図表2-3-1 ゆっくりよく噛んで食べているか



図表2-3-2 ゆっくりよく噛んで食べているかー地域別、性・年代別



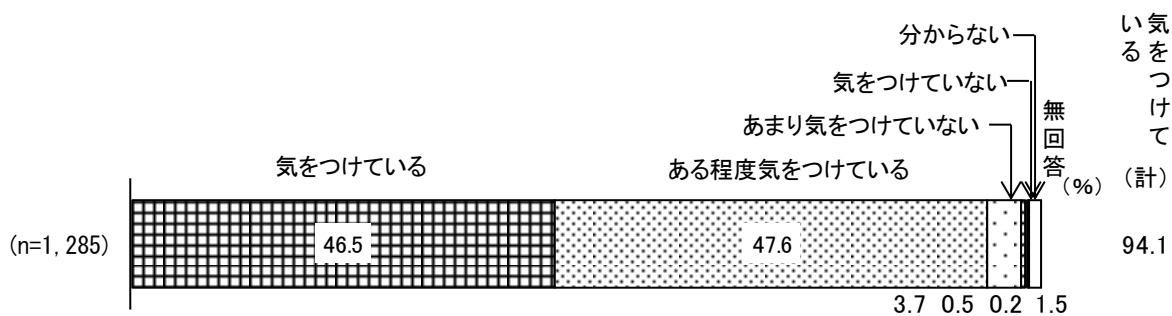
#### 4 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか【問7】

##### 【全体の状況】

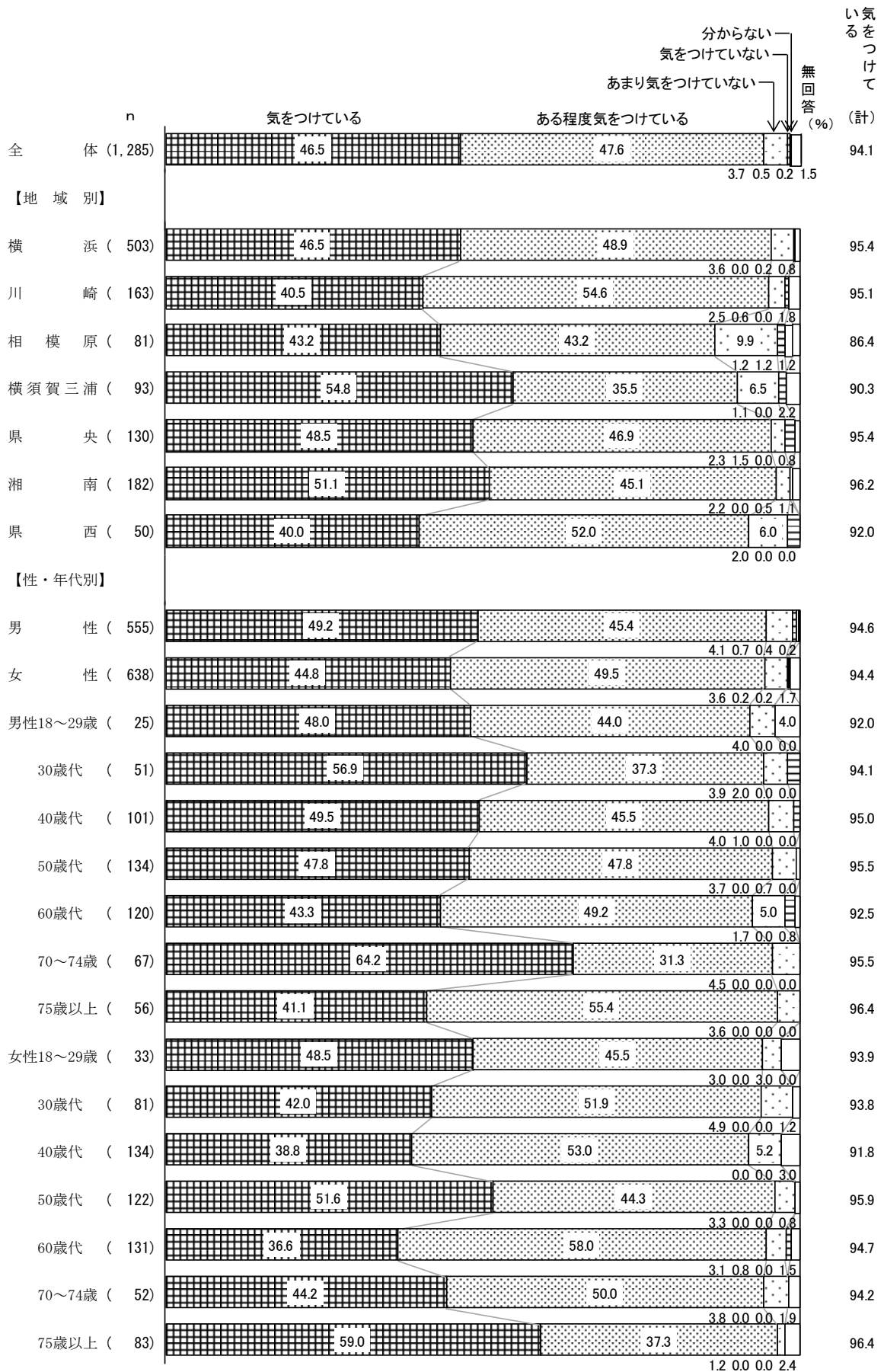
食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」が46.5%であった。

一方、「あまり気をつけていない」は、3.7%であった。(図表2-4-1)

図表2-4-1 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか



図表2-4-2 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているかー地域別、性・年代別



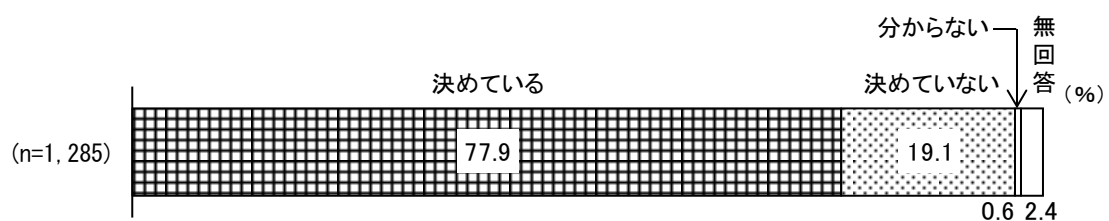
## 5 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか【問8】

### 【全体の状況】

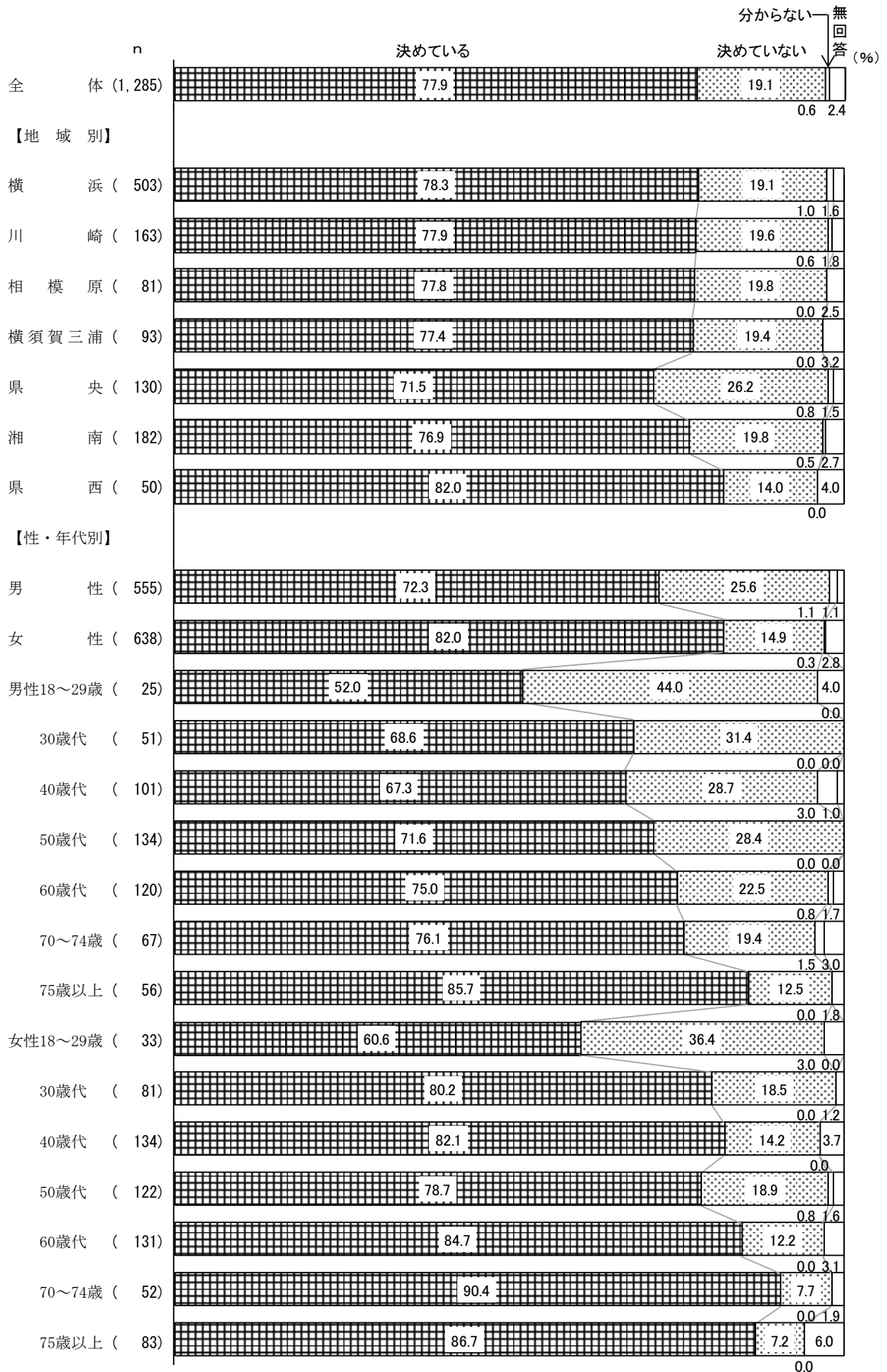
歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか尋ねたところ、「決めている」が77.9%であった。

一方、「決めていない」は、19.1%であった。(図表2-5-1)

図表2-5-1 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか



図表2-5-2 歯と口の健康を保つためにかかりつけ歯科医を決めているか—地域別、性・年代別



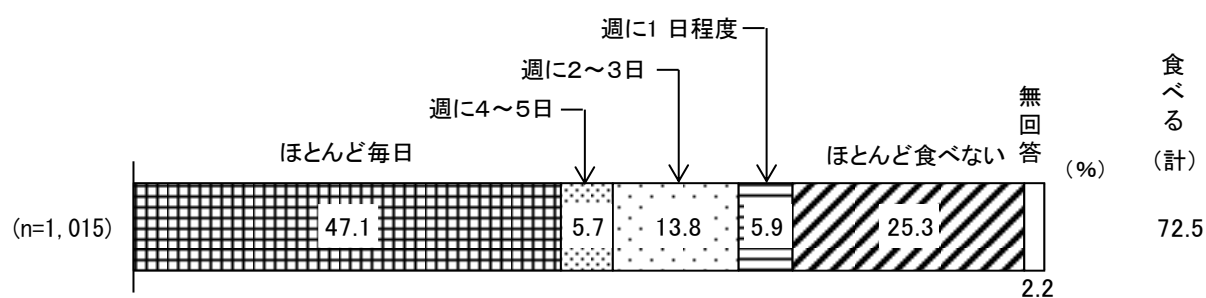


## 6 朝食を同居の方と食べる頻度【問9-1】

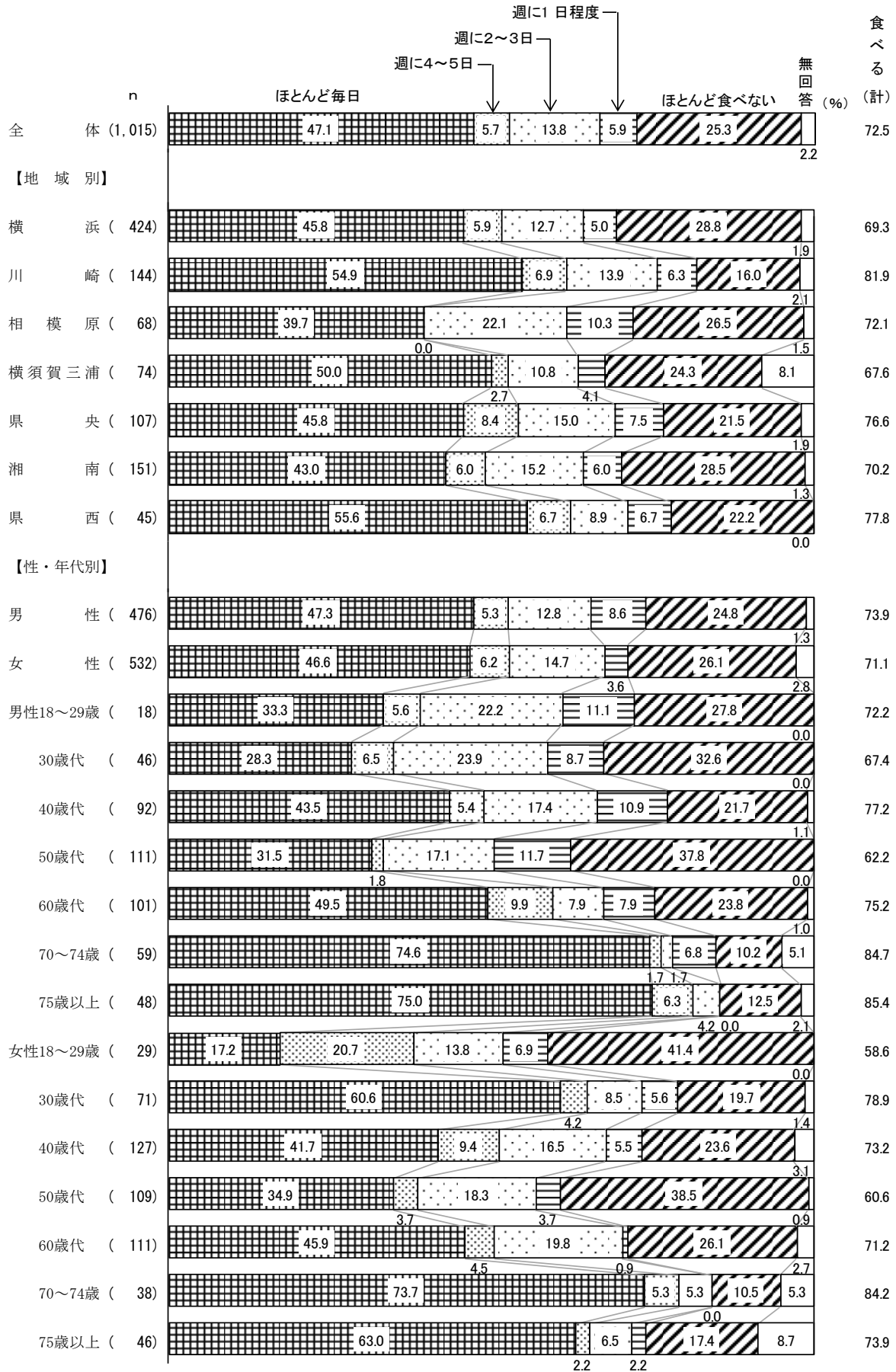
### 【全体の状況】

複数人でお住まいの1,015人に、朝食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日」が47.1%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が25.3%であった。(図表2-6-1)

図表2-6-1 朝食を同居の方と食べる頻度



図表2-6-2 朝食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

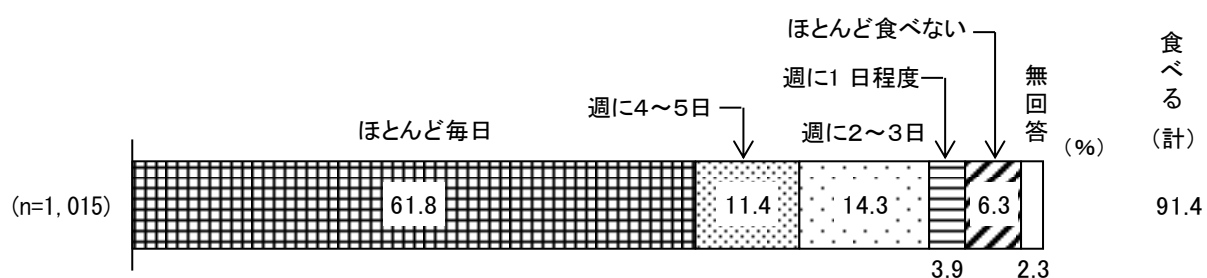


## 7 夕食を同居の方と食べる頻度【問9-2】

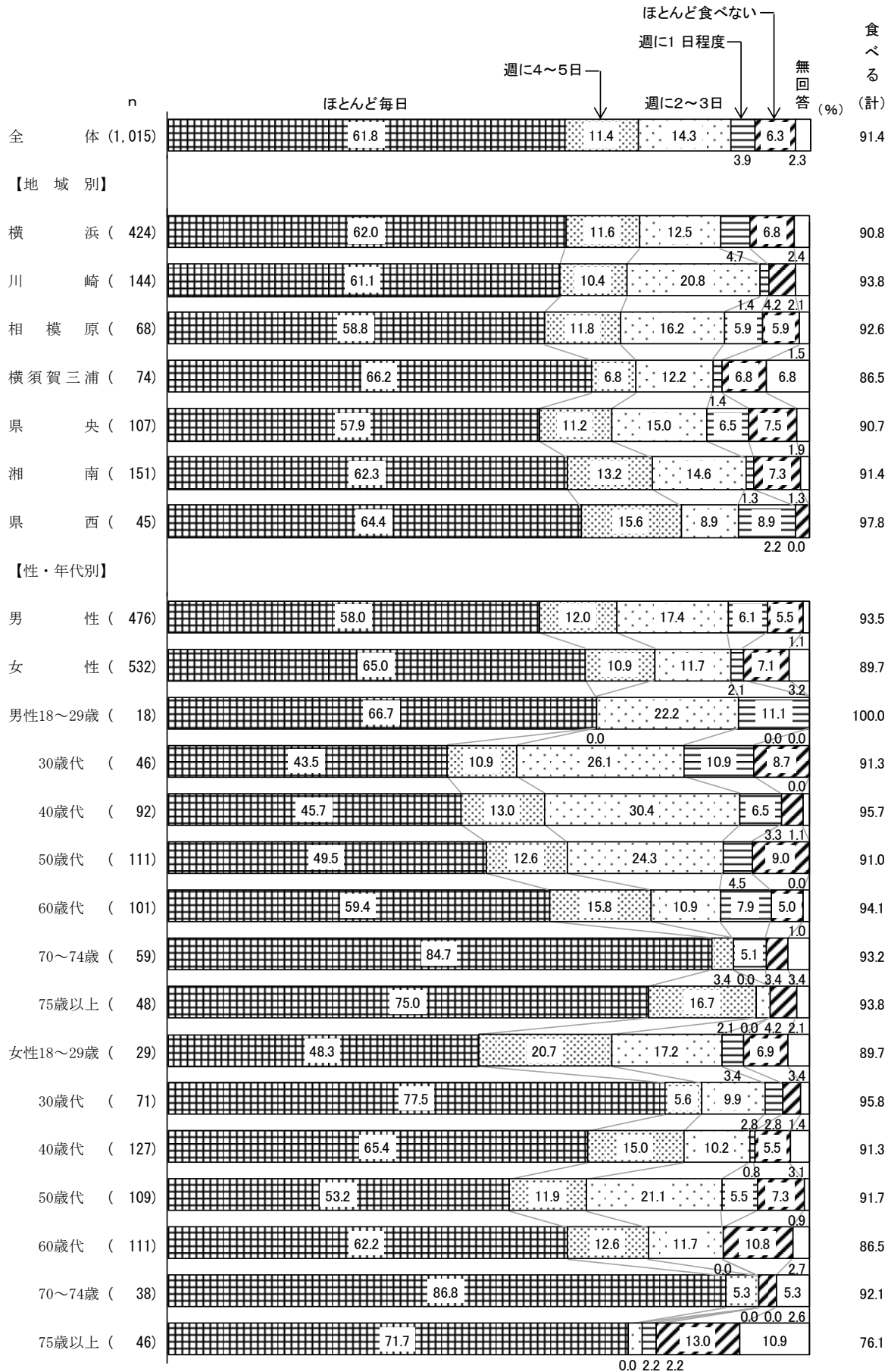
### 【全体の状況】

複数人でお住まいの1,015人に、夕食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日」が61.8%で最も多く、次いで「週に2～3日」が14.3%であった。(図表2-7-1)

図表2-7-1 夕食を同居の方と食べる頻度



図表2-7-2 夕食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

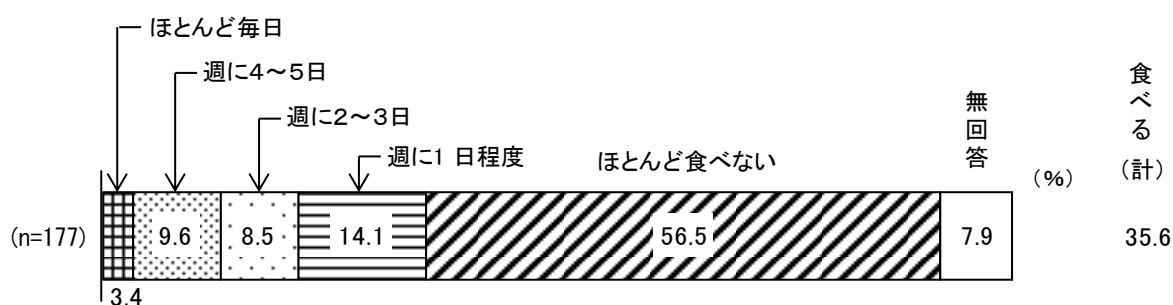


## 8 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問10-1】

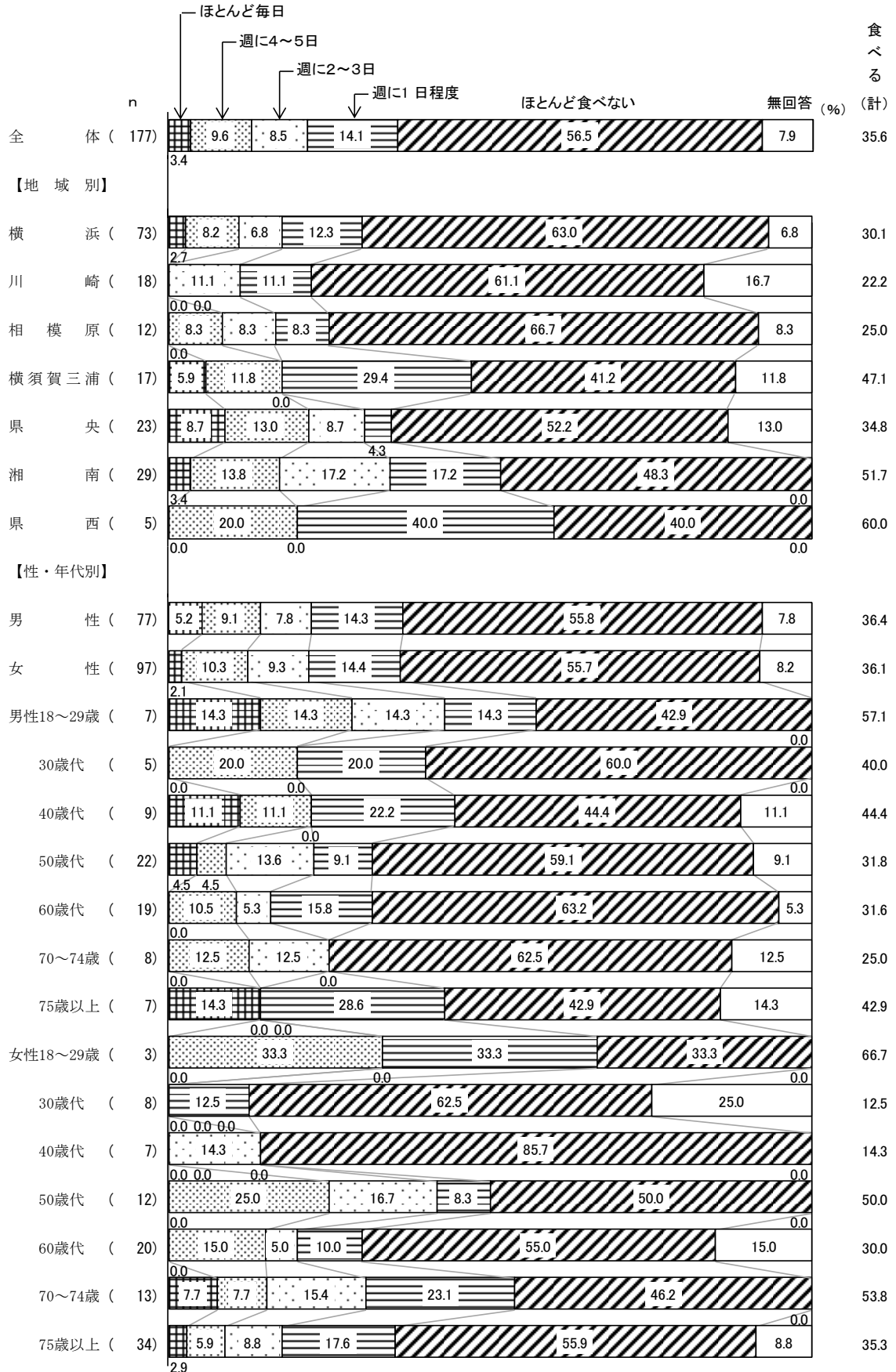
### 【全体の状況】

一人暮らしの177人に、昼食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が56.5%で最も多く、次いで「週に1日程度」が14.1%であった。(図表2-8-1)

図表2-8-1 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表2-8-2 屋食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別  
(サンプル数が少ないため参考)

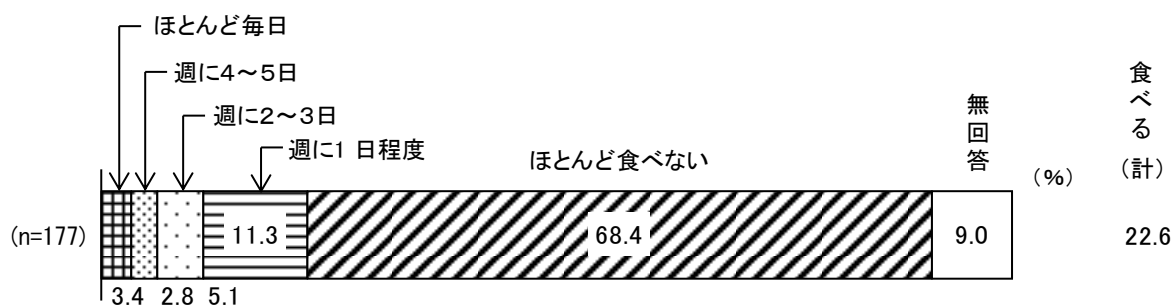


## 9 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問10-2】

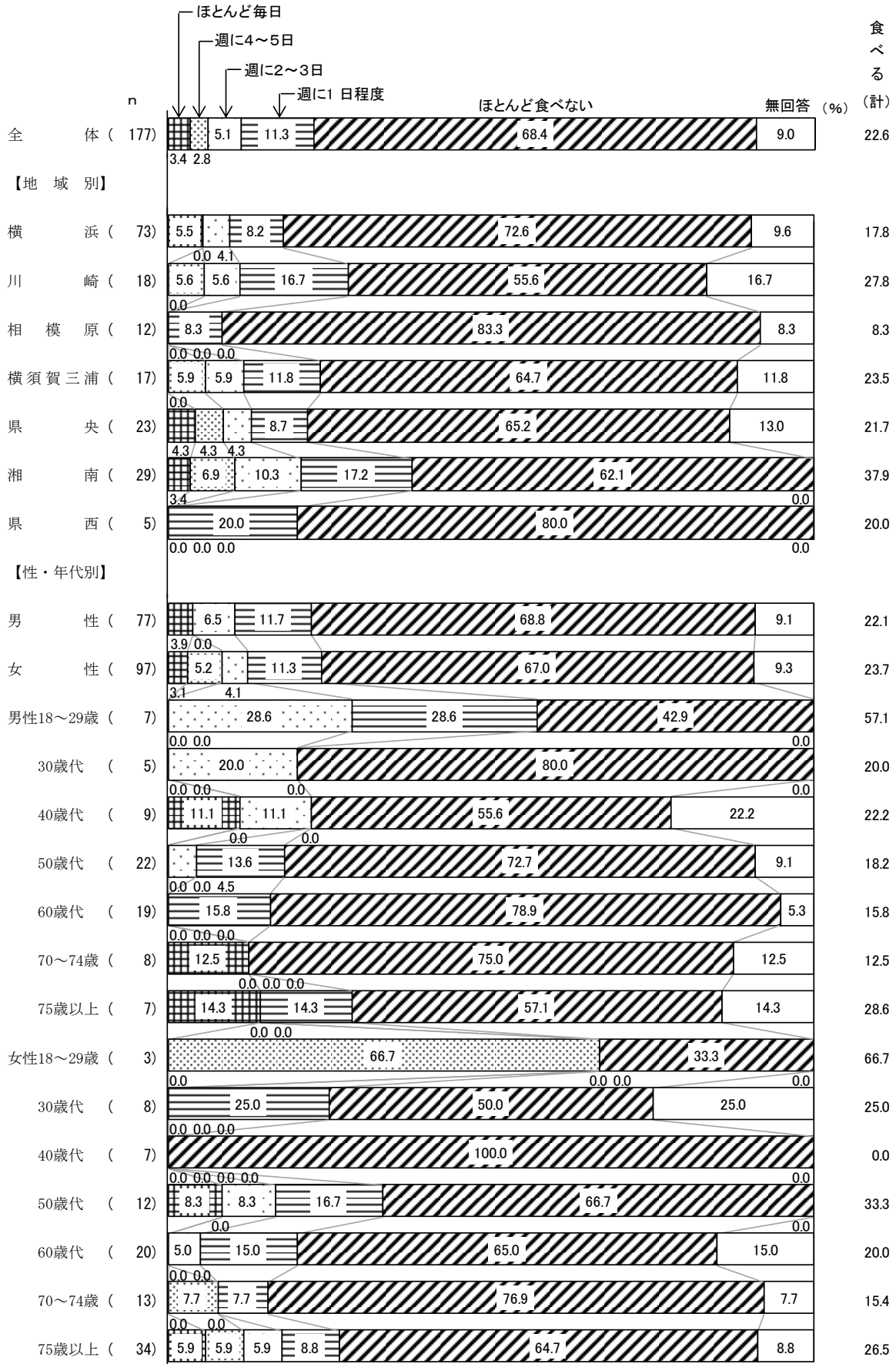
### 【全体の状況】

一人暮らしの177人に、夕食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が68.4%で最も多く、次いで「週に1日程度」が11.3%であった。(図表2-9-1)

図表2-9-1 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表2-9-2 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別  
(サンプル数が少ないため参考)





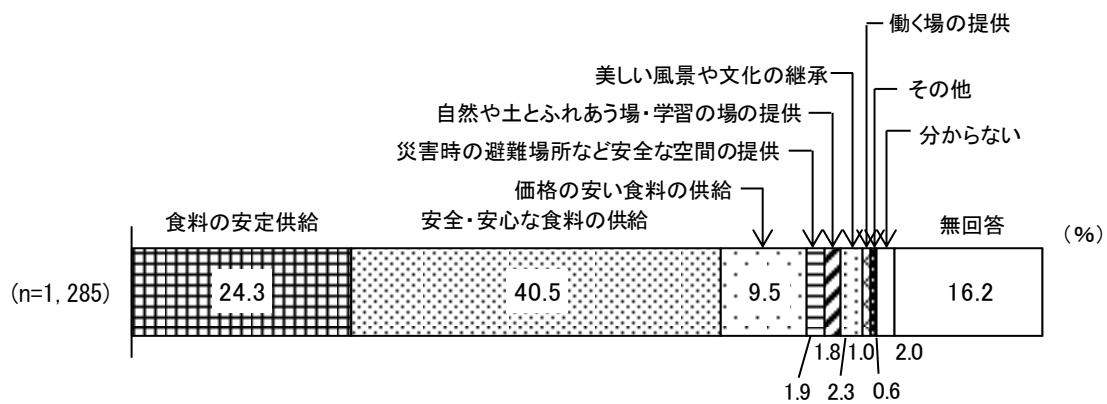
### 第3章 かながわの農林水産業【問11～問15】

#### 1 県の農業に期待する役割【問11】

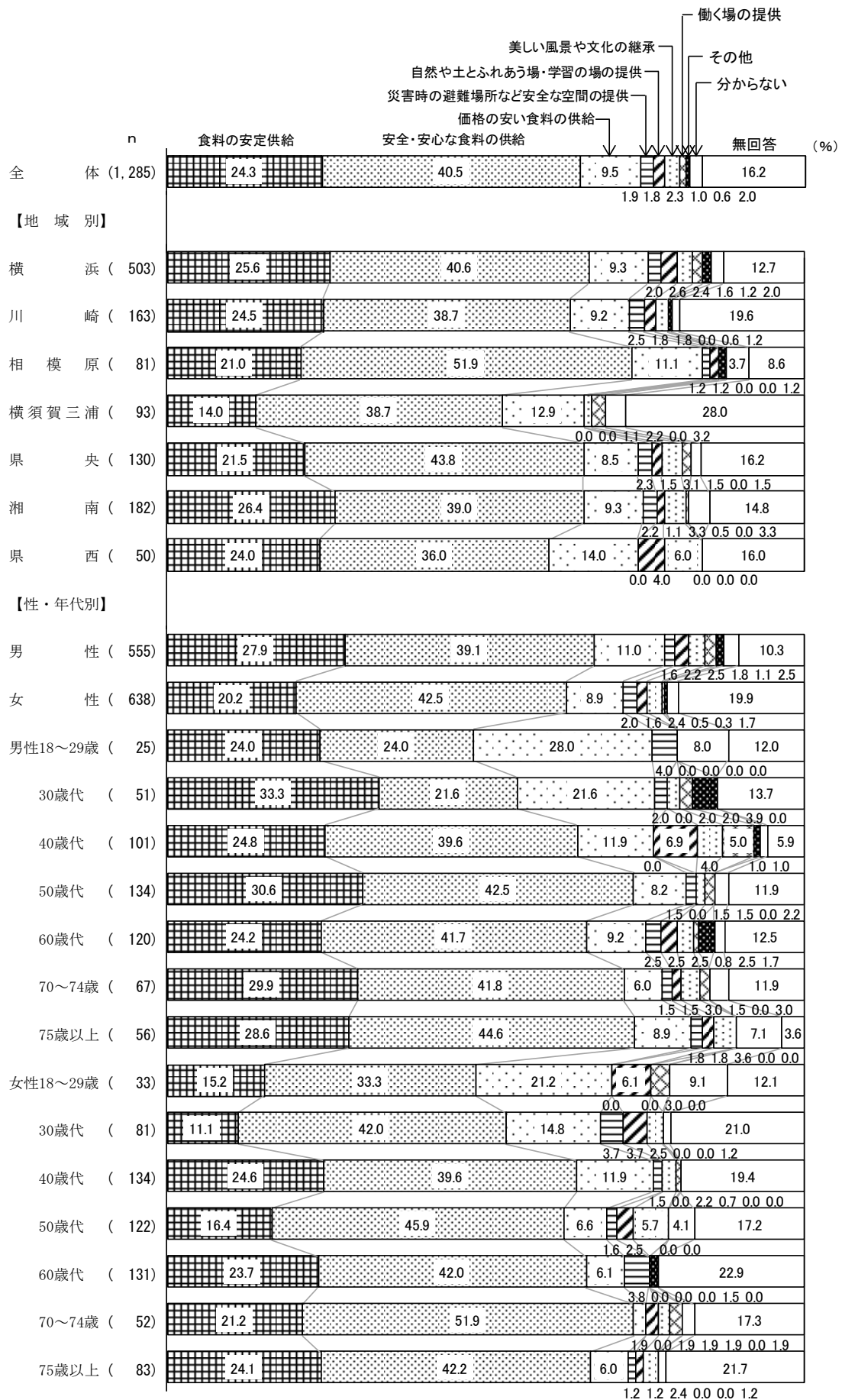
##### 【全体の状況】

県の農業に特にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が40.5%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が24.3%であった。(図表3-1-1)

図表3-1-1 県の農業に期待する役割



図表3-1-2 県の農業に期待する役割—地域別、性・年代別



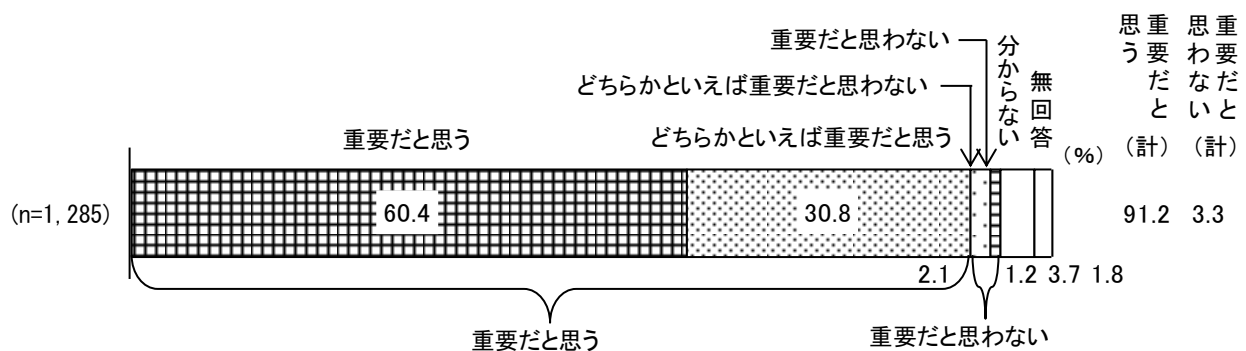
## 2 「地産地消」の取組みの重要度【問12】

### 【全体の状況】

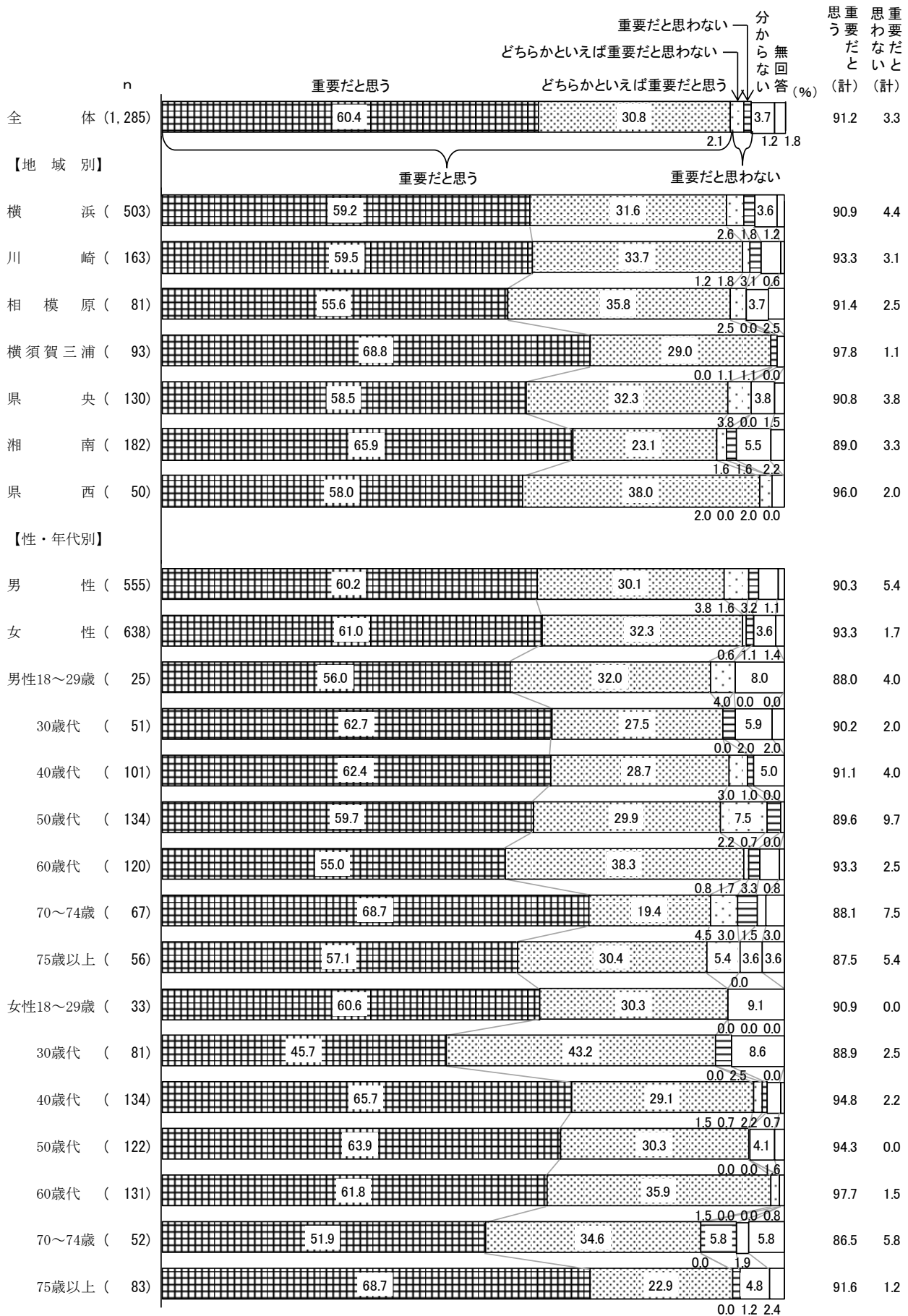
県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」の取組みを重要だと思うか尋ねたところ、「重要だと思う」(60.4%)と「どちらかといえば重要だと思う」(30.8%)を合わせた《重要だと思う》は91.2%であった。

一方、「重要だと思わない」(1.2%)と「どちらかといえば重要だと思わない」(2.1%)を合わせた《重要だと思わない》は3.3%であった。(図表3-2-1)

図表3-2-1 「地産地消」の取組みの重要度



図表3-2-2 「地産地消」の取組みの重要度—地域別、性・年代別



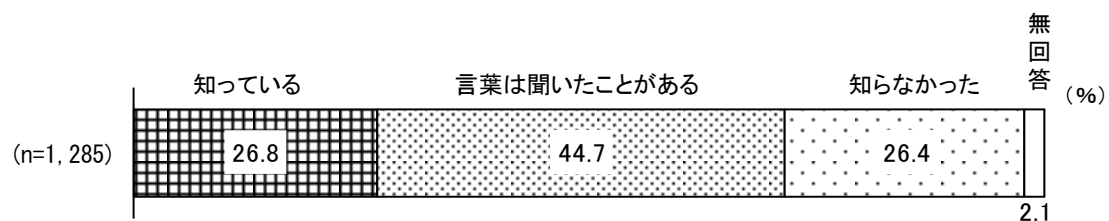
### 3 「かながわブランド」の認知度【問13】

#### 【全体の状況】

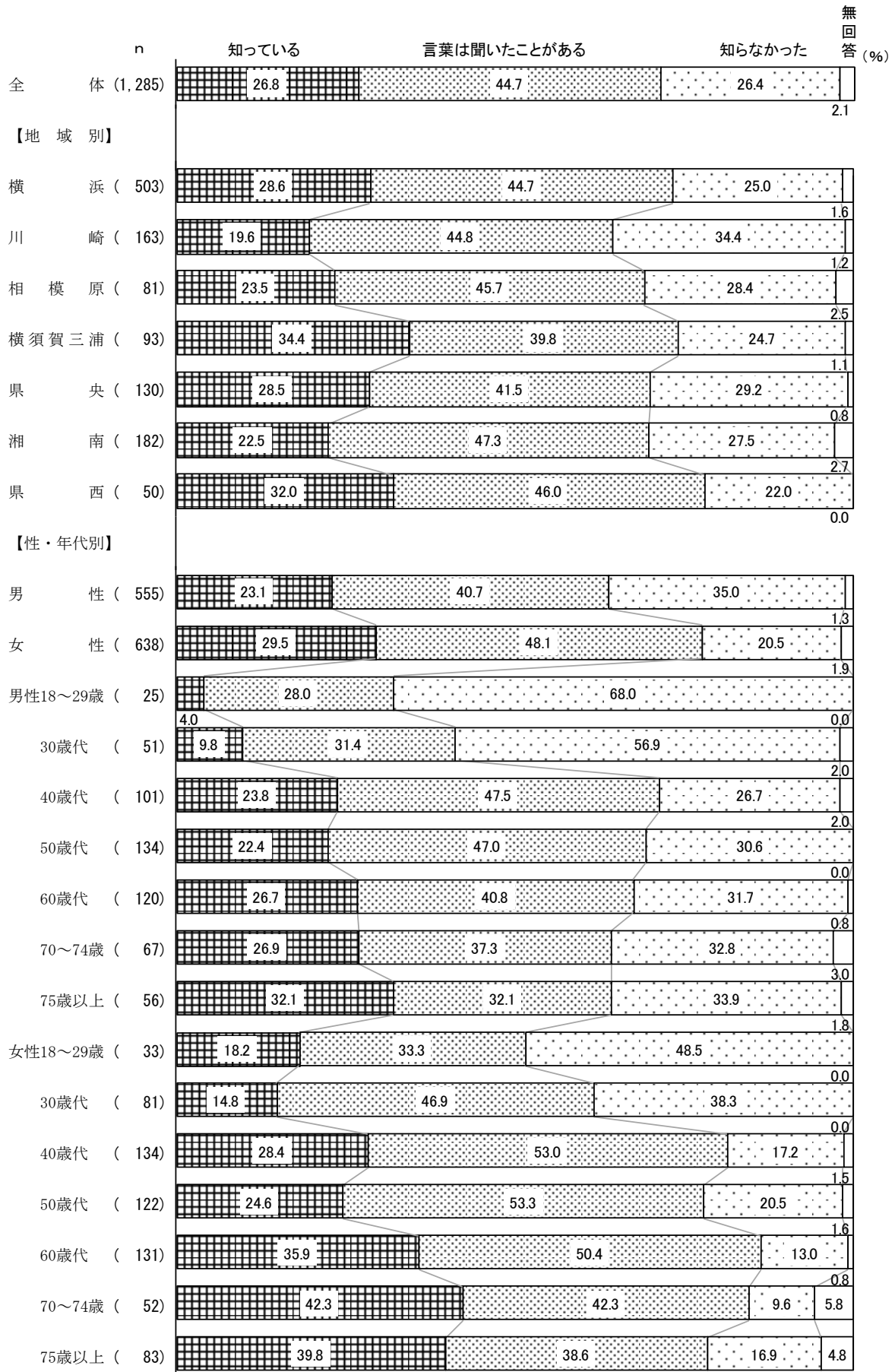
「かながわブランド」という言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が26.8%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が44.7%であった。

一方、「知らなかった」は、26.4%であった。(図表 3-3-1)

図表3-3-1 「かながわブランド」の認知度



図表3-3-2 「かながわブランド」の認知度—地域別、性・年代別



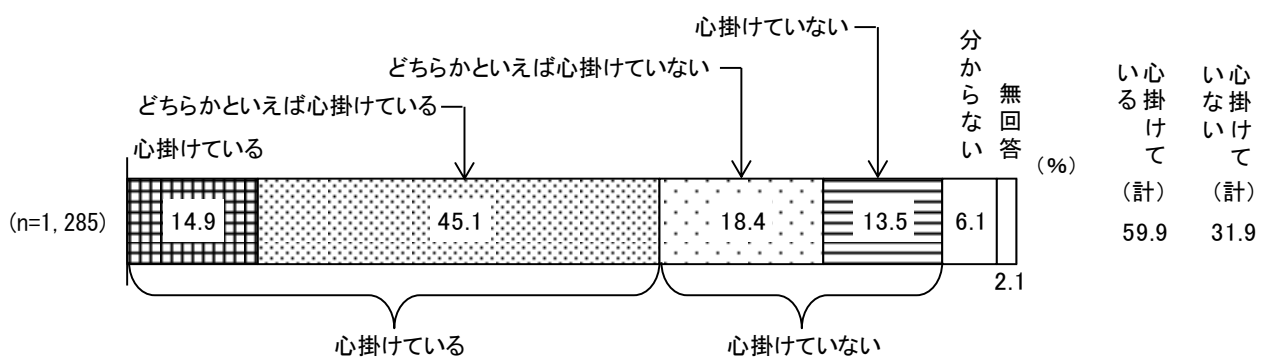
#### 4 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け【問14】

##### 【全体の状況】

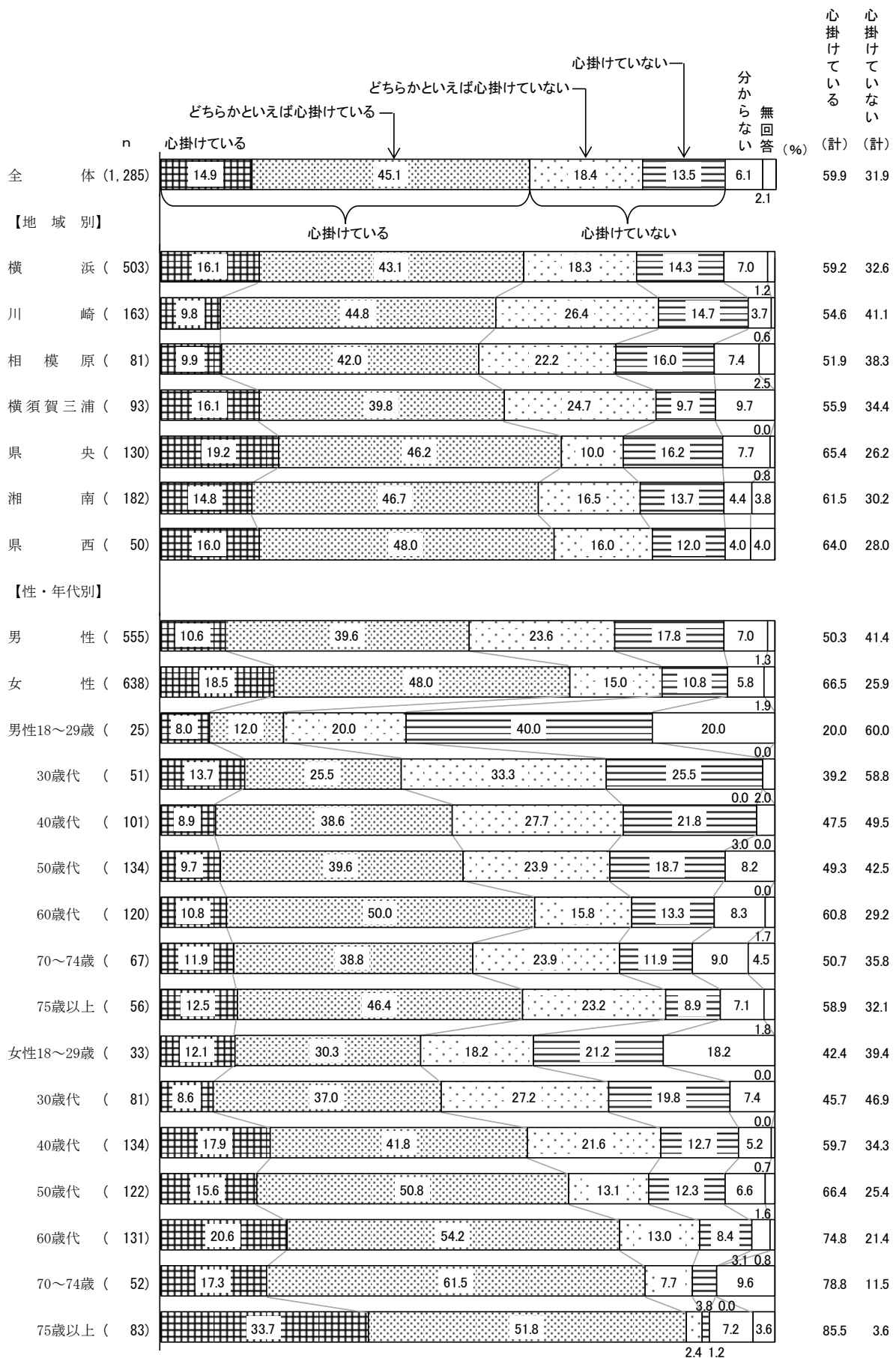
環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶよう心掛けているか尋ねたところ、「心掛けている」(14.9%)と「どちらかといえば心掛けている」(45.1%)を合わせた《心掛けている》は59.9%であった。

一方、「心掛けていない」(13.5%)と「どちらかといえば心掛けていない」(18.4%)を合わせた《心掛けていない》は31.9%であった。(図表3-4-1)

図表3-4-1 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け



図表3-4-2 環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ心掛け—地域別、性・年代別



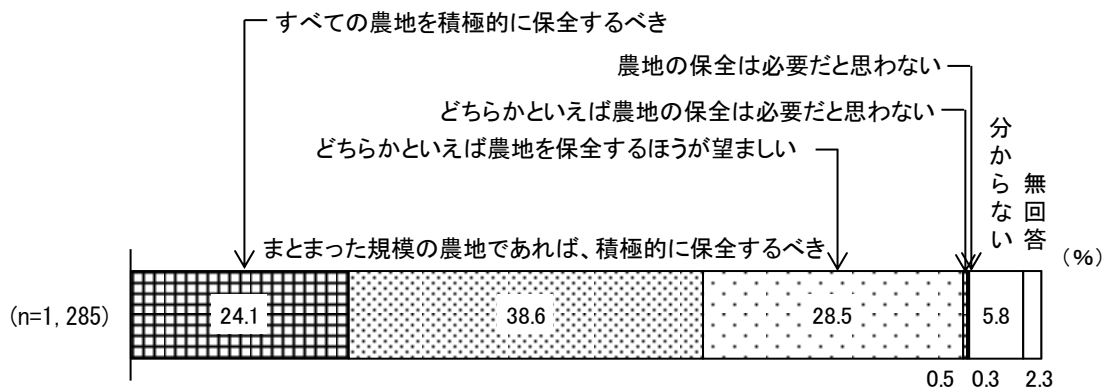


## 5 県内にある農地の保全に対する考え【問15】

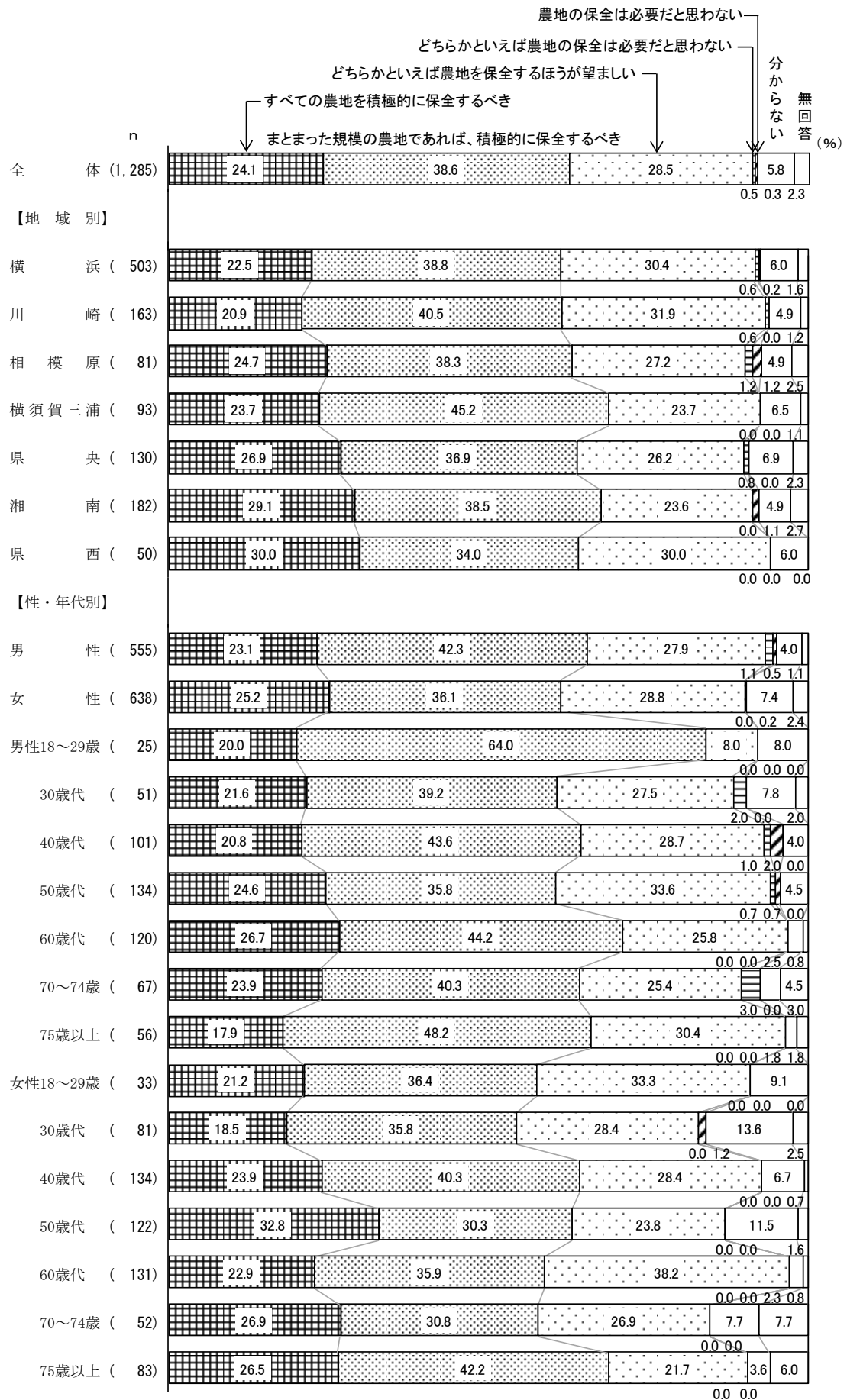
### 【全体の状況】

県内にある農地の保全について、どのように考えているか尋ねたところ、「まとまった規模の農地であれば、積極的に保全すべき」が38.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば農地を保全するほうが望ましい」が28.5%であった。(図表3-5-1)

図表3-5-1 県内にある農地の保全に対する考え



図表3-5-2 県内にある農地の保全に対する考え—地域別、性・年代別



## 第4章 SDGs（持続可能な開発目標）【問16～問17】

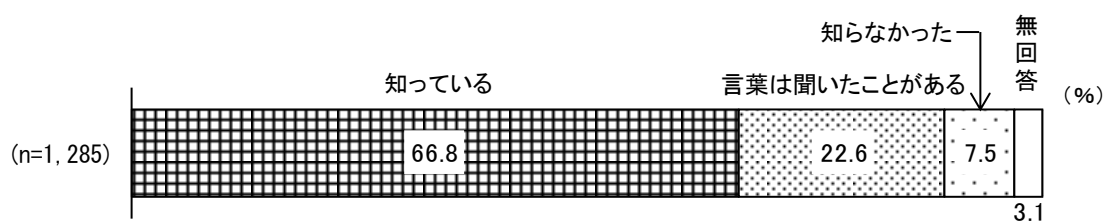
### 1 「SDGs」の認知度【問16】

#### 【全体の状況】

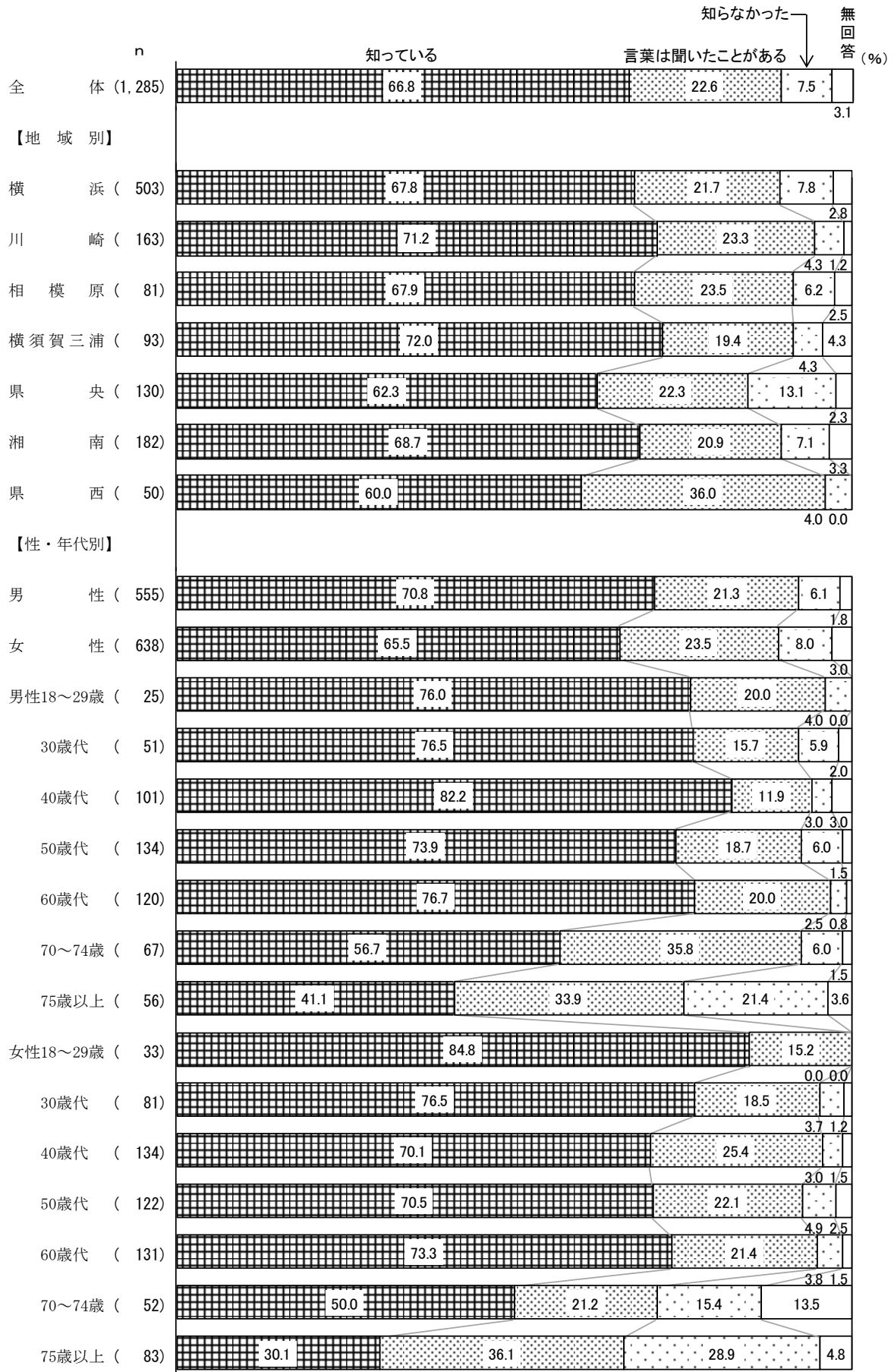
「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について知っているか尋ねたところ、「知っている」が66.8%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が22.6%であった。

一方、「知らなかった」が7.5%であった。（図表4-1-1）

図表4-1-1 「SDGs」の認知度



図表4-1-2 「SDGs」の認知度—地域別、性・年代別



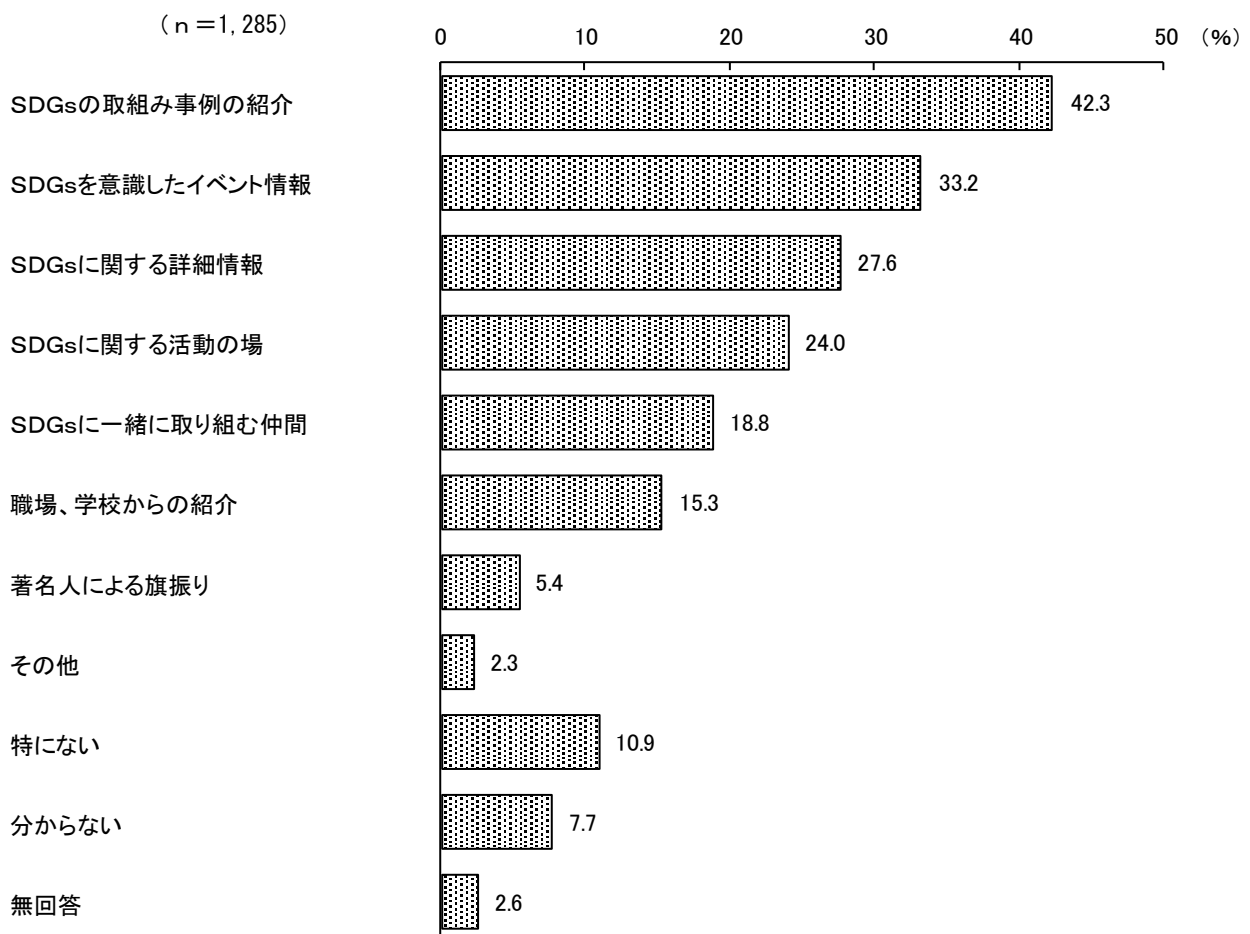
## 2 SDGs達成に向け効果的な後押し【問17】

### 【全体の状況】

SDGs達成に向けて、取り組む際に効果的な後押しを複数回答で尋ねたところ、「SDGsの取り組み事例の紹介」が42.3%で最も多く、次いで「SDGsを意識したイベント情報」が33.2%であった。

(図表4-2-1)

図表4-2-1 SDGs達成に向け効果的な後押し（複数回答）



図表4-2-2 SDGs達成に向け効果的な後押し（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	SDGsの取組み事例の紹介	SDGsを意識したイベント情報	SDGsに関する詳細情報	SDGsに関する活動の場	SDGsと一緒に取り組む仲間	職場、学校からの紹介	著名人による旗振り	その他	特にない	分からない	無回答
全体	1,285	42.3	33.2	27.6	24.0	18.8	15.3	5.4	2.3	10.9	7.7	2.6
【地域別】												
横浜	503	42.3	34.0	27.0	24.9	18.9	16.9	6.2	2.0	12.5	7.2	2.6
川崎	163	38.7	35.0	24.5	28.2	23.3	17.8	3.7	1.8	10.4	9.2	0.6
相模原	81	42.0	32.1	40.7	19.8	17.3	11.1	7.4	2.5	9.9	6.2	2.5
横須賀三浦	93	32.3	30.1	23.7	20.4	22.6	12.9	4.3	3.2	9.7	11.8	1.1
県央	130	40.0	24.6	32.3	16.2	11.5	13.1	4.6	0.8	13.8	9.2	0.8
湘南	182	48.4	40.1	26.9	29.7	19.8	14.8	4.4	4.4	9.3	6.6	2.7
県西	50	50.0	38.0	26.0	32.0	22.0	14.0	10.0	4.0	6.0	12.0	2.0
【性・年代別】												
男性	555	41.6	31.4	24.5	25.8	17.5	17.3	6.5	3.6	14.6	8.5	1.3
女性	638	42.3	35.7	31.0	23.7	20.5	14.1	4.7	1.4	8.2	7.7	2.7
男性18～29歳	25	28.0	28.0	40.0	40.0	20.0	36.0	12.0	4.0	16.0	8.0	-
30歳代	51	25.5	33.3	13.7	13.7	15.7	21.6	3.9	9.8	13.7	7.8	2.0
40歳代	101	36.6	30.7	19.8	33.7	22.8	28.7	11.9	5.0	14.9	4.0	-
50歳代	134	40.3	33.6	23.1	29.9	23.9	21.6	6.7	2.2	15.7	8.2	-
60歳代	120	48.3	32.5	27.5	29.2	15.8	9.2	5.8	3.3	11.7	9.2	0.8
70～74歳	67	55.2	31.3	26.9	16.4	11.9	6.0	3.0	3.0	19.4	10.4	4.5
75歳以上	56	44.6	25.0	28.6	10.7	3.6	5.4	1.8	-	12.5	14.3	3.6
女性18～29歳	33	27.3	45.5	21.2	36.4	39.4	24.2	9.1	-	6.1	3.0	-
30歳代	81	33.3	35.8	14.8	23.5	22.2	27.2	4.9	1.2	12.3	7.4	1.2
40歳代	134	34.3	41.0	27.6	27.6	24.6	23.9	6.0	-	10.4	6.0	0.7
50歳代	122	48.4	36.9	31.1	24.6	23.0	9.0	6.6	4.1	4.9	7.4	1.6
60歳代	131	52.7	42.7	42.7	27.5	22.1	10.7	3.8	1.5	4.6	6.1	0.8
70～74歳	52	46.2	19.2	46.2	15.4	7.7	1.9	-	-	11.5	9.6	7.7
75歳以上	83	42.2	20.5	27.7	10.8	7.2	2.4	2.4	1.2	9.6	14.5	9.6

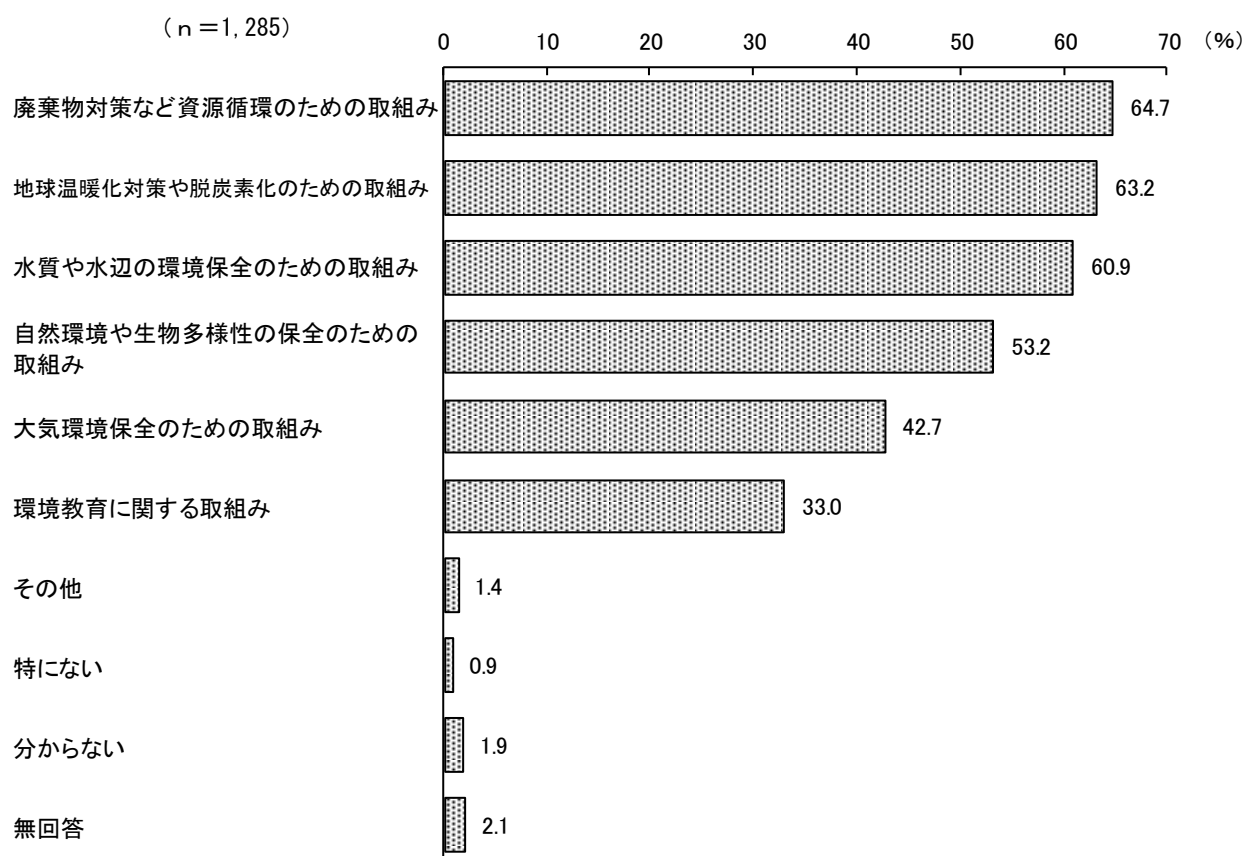
## 第5章 環境問題【問18～問21】

### 1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み【問18】

#### 【全体の状況】

特に力を入れてほしい環境に関する取組みを複数回答で尋ねたところ、「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が64.7%で最も多く、次いで「地球温暖化対策や脱炭素化のための取組み」が63.2%であった。（図表5-1-1）

図表5-1-1 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）



図表5-1-2 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	廃棄物対策など資源循環のための取組み	地球温暖化対策や脱炭素化のための取組み	水質や水辺の環境保全のための取組み	自然環境や生物多様性の保全のための取組み	大気環境保全のための取組み	環境教育に関する取組み	その他	特にない	分からない	無回答
全 体	1,285	64.7	63.2	60.9	53.2	42.7	33.0	1.4	0.9	1.9	2.1
【地 域 別】											
横 浜	503	66.4	65.4	60.6	51.7	43.1	34.0	2.2	0.8	1.4	1.6
川 崎	163	60.1	62.0	61.3	55.2	44.2	28.2	0.6	0.6	2.5	0.6
相 模 原	81	63.0	66.7	64.2	58.0	38.3	29.6	-	1.2	-	2.5
横 須 賀 三 浦	93	66.7	61.3	67.7	60.2	49.5	39.8	2.2	-	6.5	-
県 央	130	61.5	58.5	56.2	53.8	38.5	33.8	0.8	-	1.5	0.8
湘 南	182	66.5	62.1	62.1	55.5	41.8	37.9	-	2.7	2.7	2.2
県 西	50	70.0	66.0	46.0	40.0	34.0	36.0	6.0	-	-	2.0
【性・年代別】											
男 性	555	70.8	58.7	62.3	51.0	40.7	35.0	1.4	1.1	1.6	0.9
女 性	638	60.3	67.2	59.4	55.8	43.7	33.4	1.6	0.6	2.4	1.9
男性18～29歳	25	68.0	44.0	52.0	60.0	48.0	48.0	-	-	4.0	-
30歳代	51	64.7	49.0	52.9	41.2	29.4	31.4	2.0	2.0	2.0	2.0
40歳代	101	61.4	50.5	64.4	61.4	37.6	36.6	-	3.0	-	-
50歳代	134	75.4	66.4	64.9	53.0	45.5	37.3	2.2	0.7	3.0	-
60歳代	120	73.3	68.3	62.5	49.2	37.5	32.5	1.7	0.8	1.7	0.8
70～74歳	67	77.6	52.2	70.1	50.7	50.7	37.3	3.0	-	1.5	1.5
75歳以上	56	71.4	58.9	55.4	37.5	37.5	26.8	-	-	-	3.6
女性18～29歳	33	45.5	54.5	48.5	48.5	39.4	30.3	3.0	-	6.1	-
30歳代	81	55.6	58.0	59.3	55.6	40.7	39.5	2.5	1.2	2.5	1.2
40歳代	134	60.4	66.4	61.2	59.0	44.0	29.9	1.5	0.7	1.5	0.7
50歳代	122	63.1	73.0	61.5	62.3	44.3	38.5	1.6	0.8	1.6	1.6
60歳代	131	64.9	74.0	60.3	55.7	46.6	35.9	1.5	-	0.8	0.8
70～74歳	52	61.5	67.3	59.6	51.9	48.1	28.8	1.9	1.9	3.8	5.8
75歳以上	83	59.0	62.7	56.6	47.0	39.8	25.3	-	-	4.8	4.8



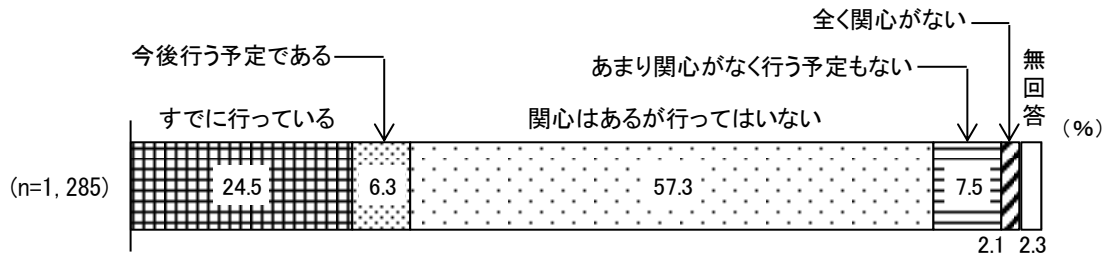
## 2 脱炭素を意識した取組み【問19】

### 【全体の状況】

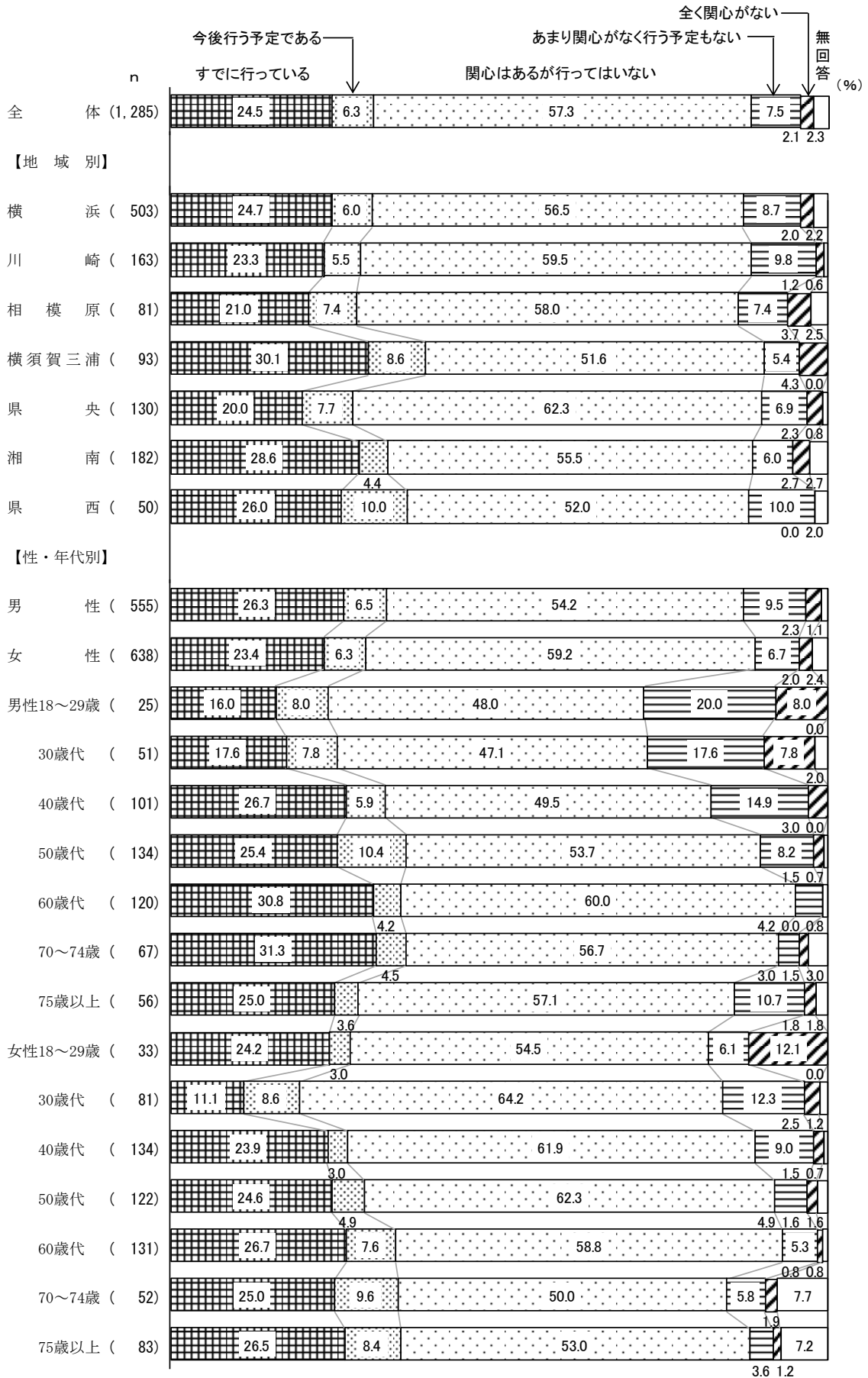
省エネや再エネの導入など、脱炭素を意識した取組みを行っているか尋ねたところ、「関心はあるが行ってはいない」が57.3%で最も多く、次いで「すでに行っている」が24.5%であった。

(図表 5-2-1)

図表5-2-1 脱炭素を意識した取組み



図表5-2-2 脱炭素を意識した取組み—地域別、性・年代別

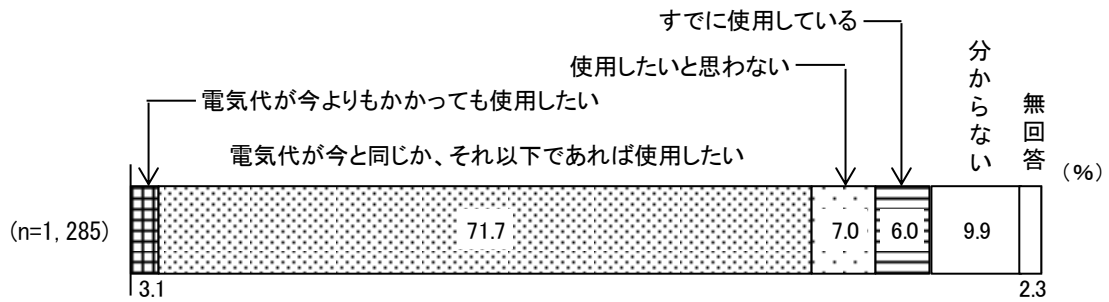


### 3 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向【問20】

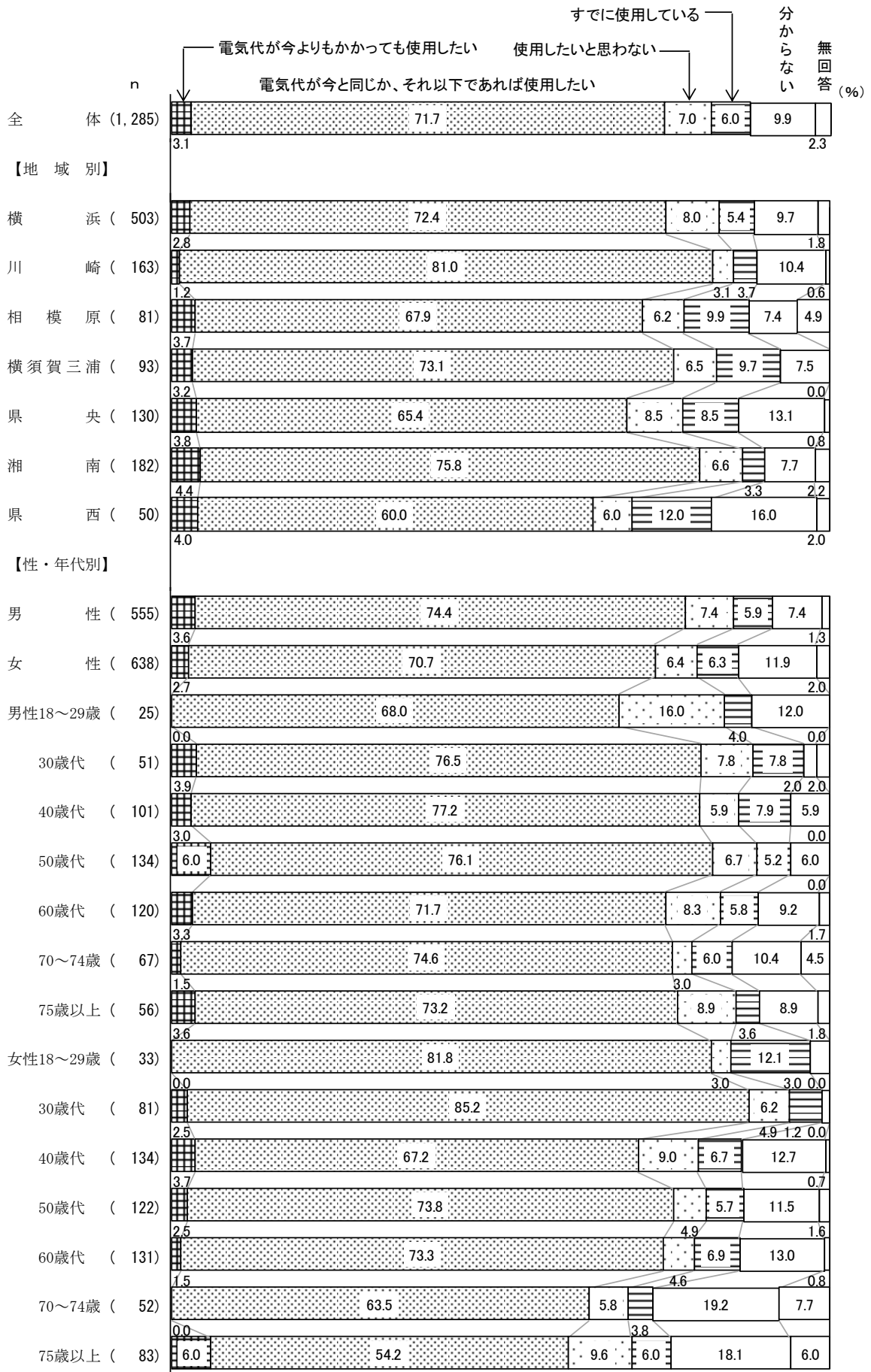
#### 【全体の状況】

家で使用する電力について、再エネ由来の電力を使用したいと思うか尋ねたところ、「電気代が今と同じか、それ以下であれば使用したい」が71.7%で最も多く、次いで「使用したいと思わない」が7.0%であった。(図表5-3-1)

図表5-3-1 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向



図表5-3-2 再生可能エネルギー由来の電力の使用意向—地域別、性・年代別



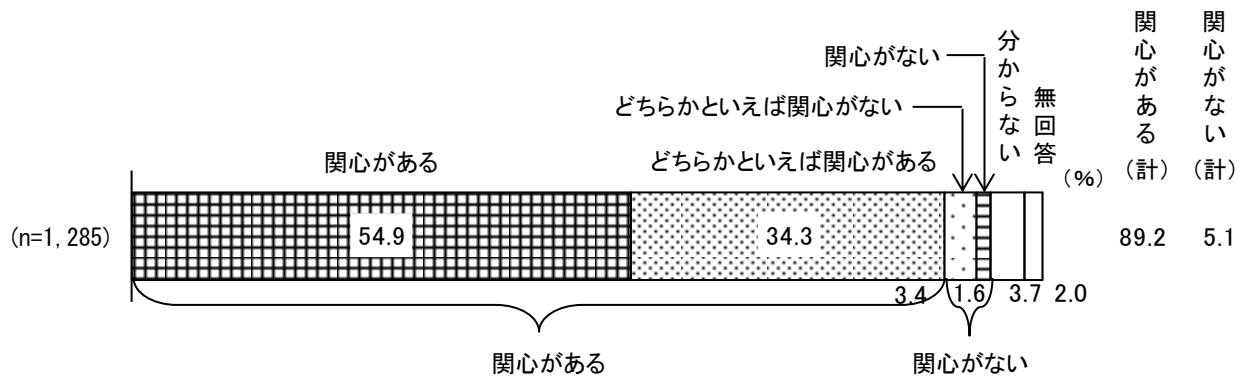
#### 4 「気候変動への適応」への関心【問21】

##### 【全体の状況】

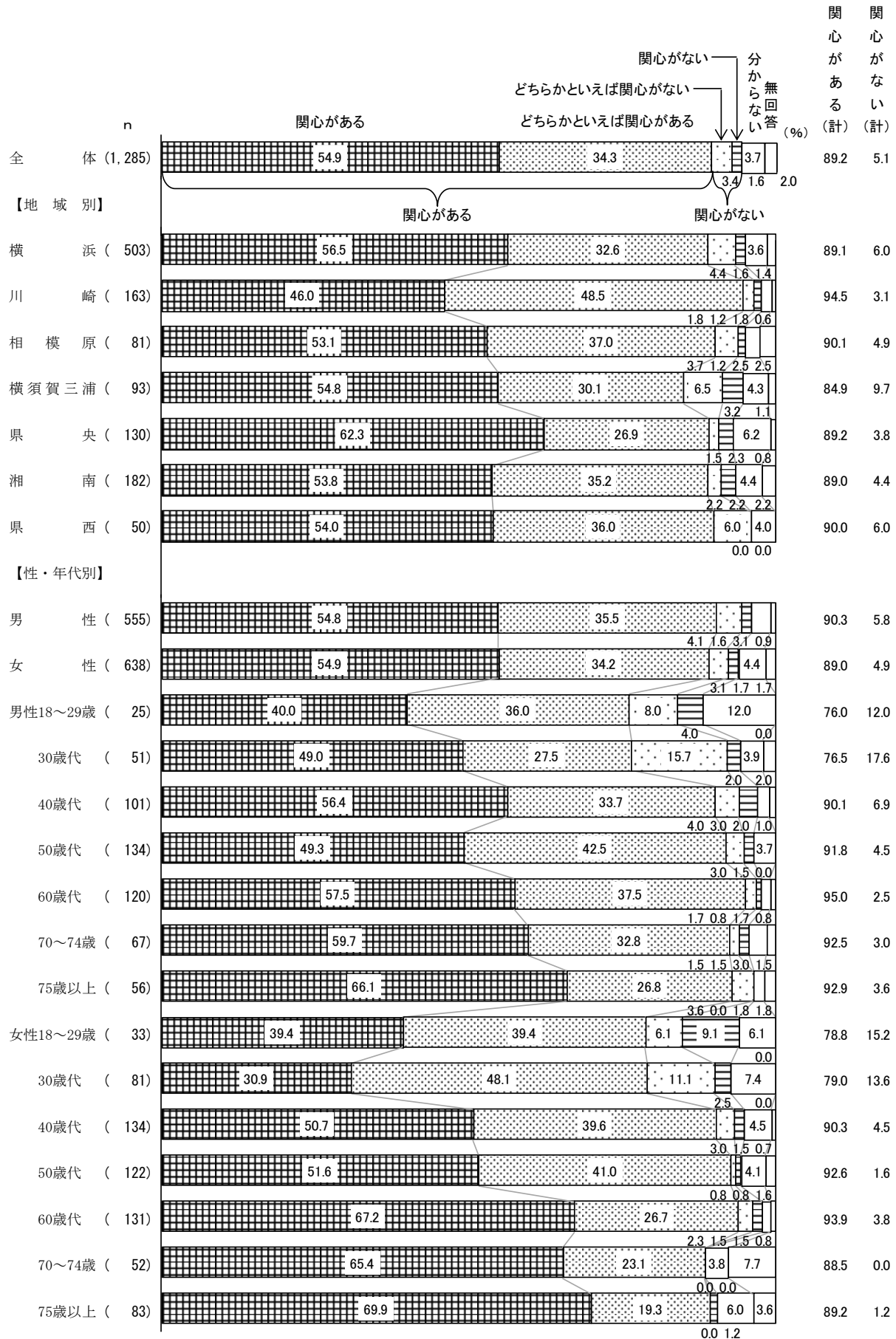
「気候変動への適応」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(54.9%)と「どちらかといえば関心がある」(34.3%)を合わせた《関心がある》は89.2%であった。

一方、「関心がない」(1.6%)と「どちらかといえば関心がない」(3.4%)を合わせた《関心がない》は5.1%であった。(図表 5-4-1)

図表5-4-1 「気候変動への適応」への関心



図表5-4-2 「気候変動への適応」への関心—地域別、性・年代別



## 第6章 ICT（情報通信技術）【問22～問24】

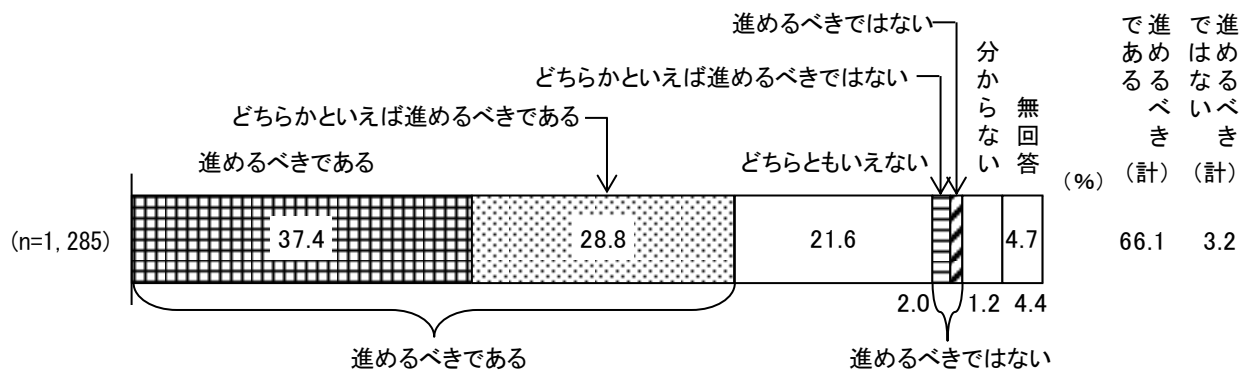
### 1 デジタル化推進に関する意向【問22】

#### 【全体の状況】

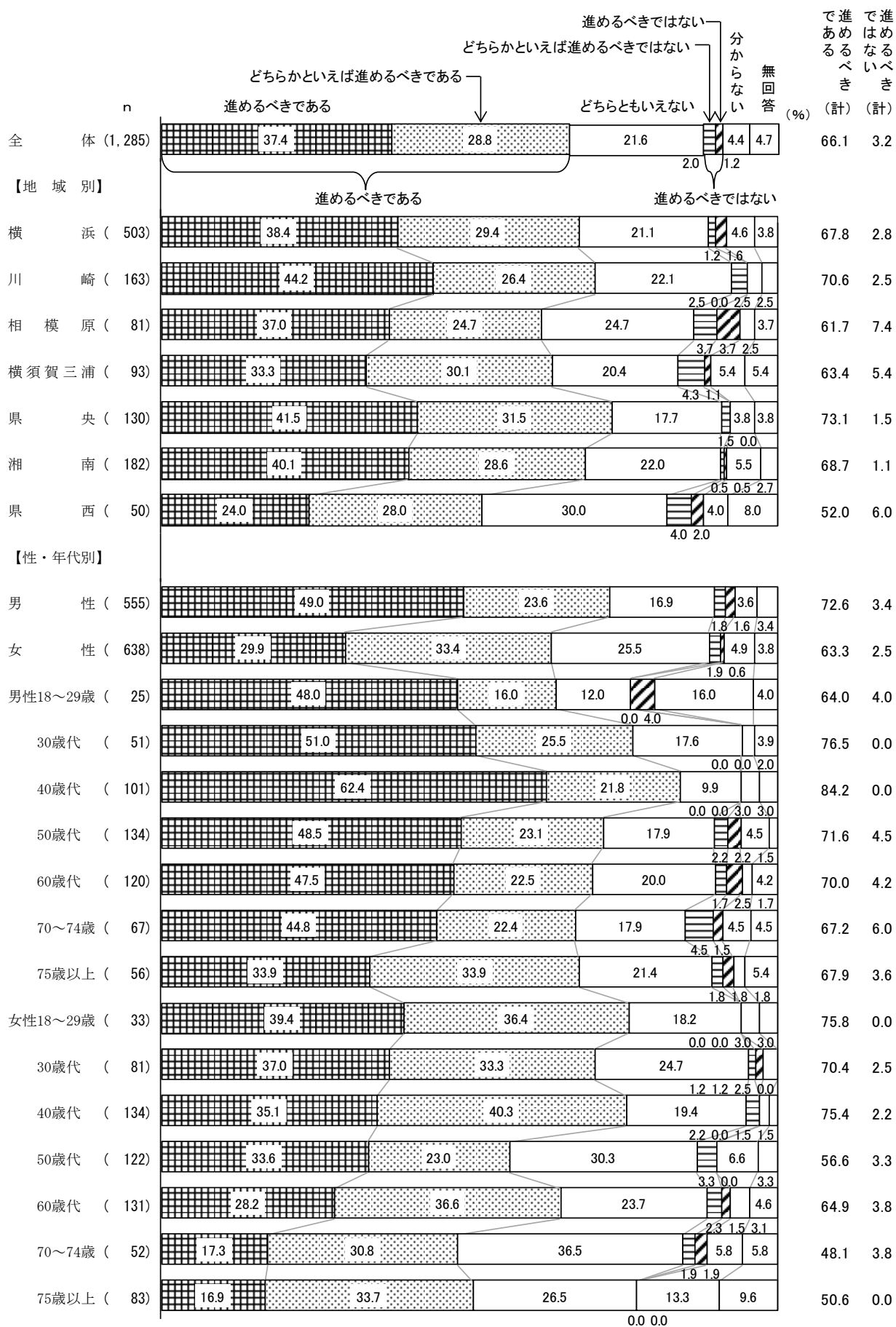
少子高齢化や自然災害の増加など、複雑化・多様化する社会課題を解決するため、デジタル化をさらに進めるべきだと思うか尋ねたところ、「進めるべきである」(37.4%)と「どちらかといえば進めるべきである」(28.8%)を合わせた《進めるべきである》は66.1%であった。

一方、「進めるべきではない」(1.2%)と「どちらかといえば進めるべきではない」(2.0%)を合わせた《進めるべきではない》は3.2%であった。(図表6-1-1)

図表6-1-1 デジタル化推進に関する意向



図表6-1-2 デジタル化推進に関する意向—地域別、性・年代別



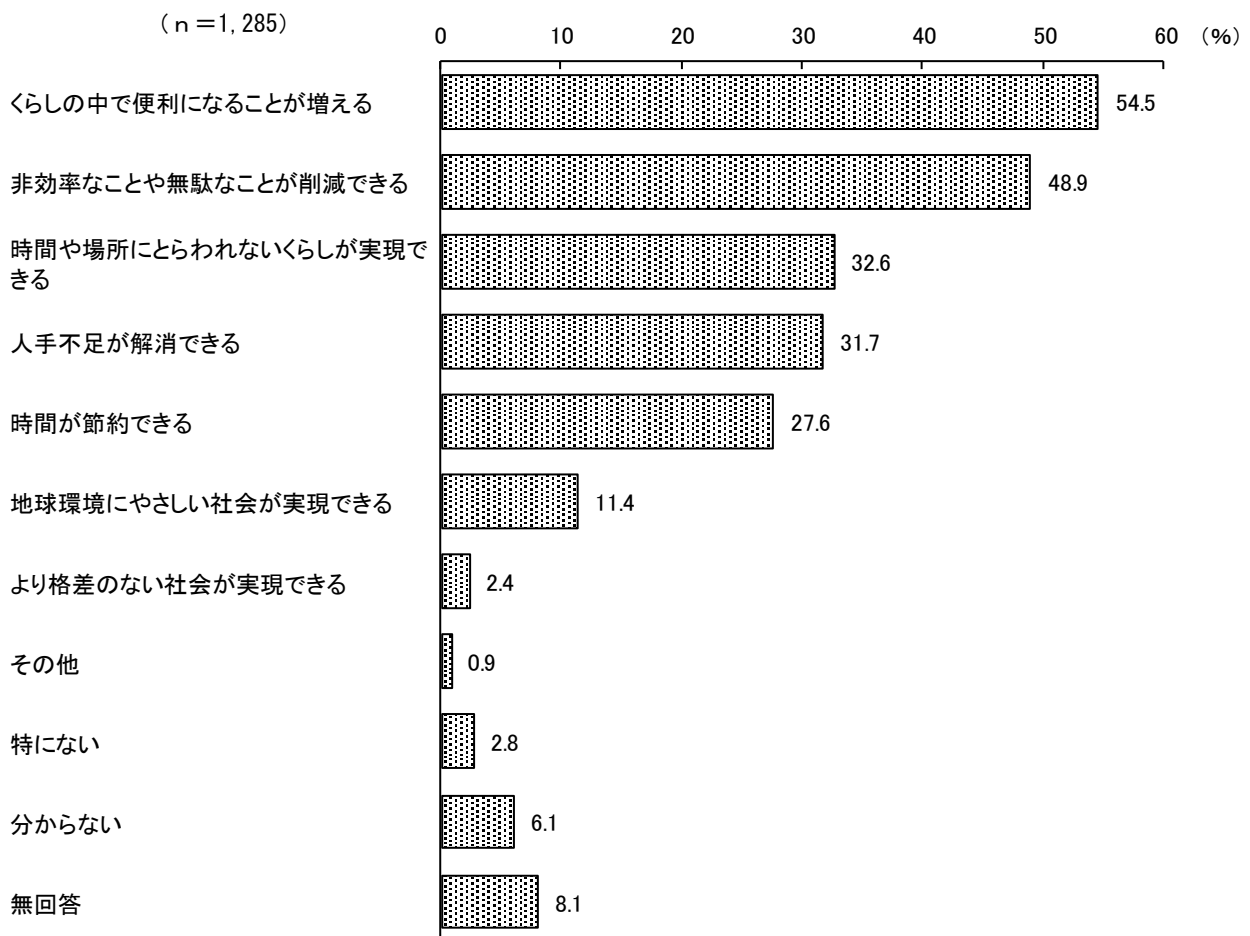


## 2 デジタル化が進むことで期待できると思うこと【問23】

### 【全体の状況】

日常生活や社会においてデジタル化が進むことで、特に期待できると思うことを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「暮らしの中で便利になることが増える」が54.5%で最も多く、次いで「非効率なことや無駄なことが削減できる」が48.9%であった。（図表6-2-1）

図表6-2-1 デジタル化が進むことで期待できると思うこと（複数回答）



図表6-2-2 デジタル化が進むことで期待できると思うこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

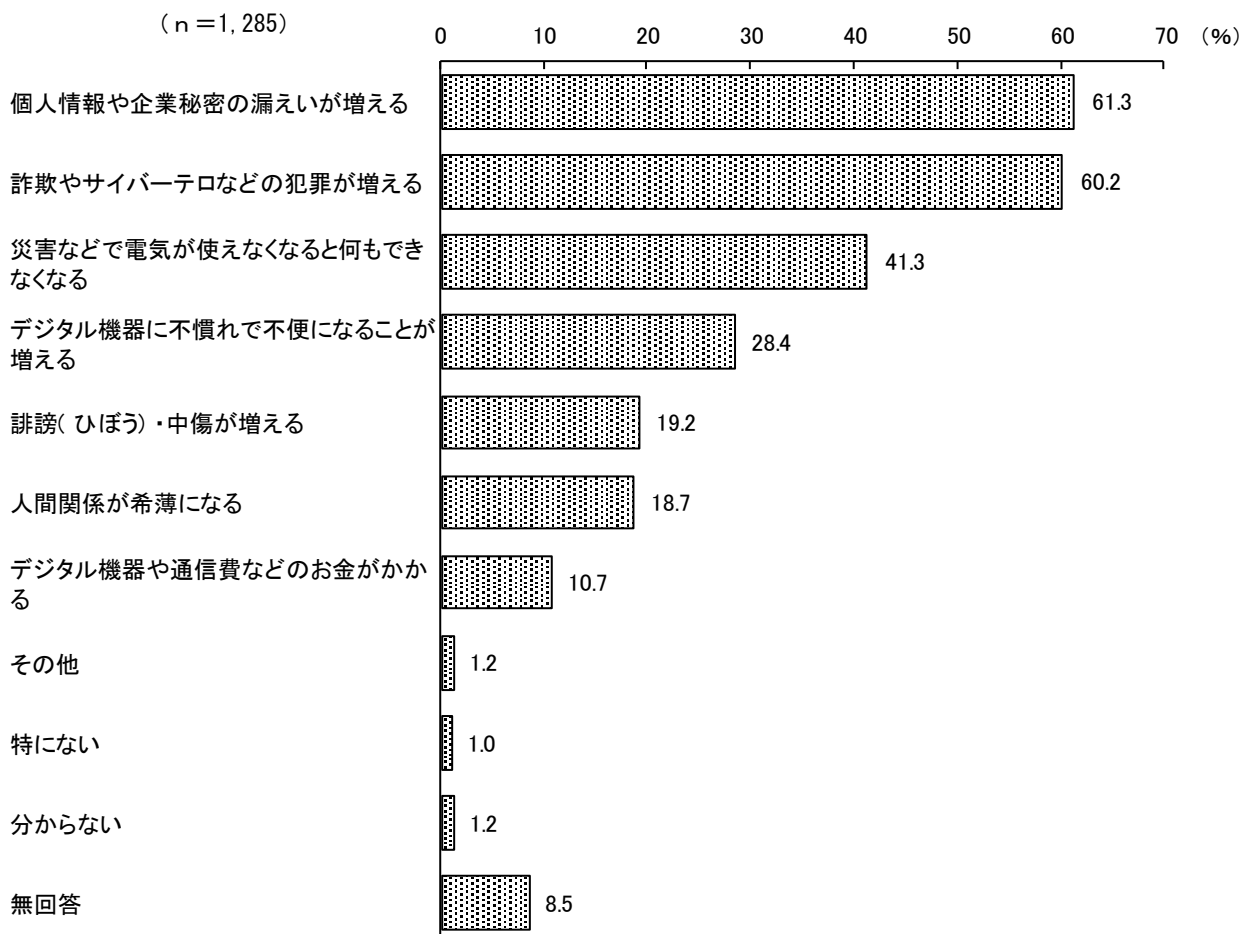
	n	くらしの中で便利になることが増える	非効率なことや無駄なことが削減できる	時間や場所にとられなくくらしが実現できる	人手不足が解消できる	時間が節約できる	地球環境にやさしい社会が実現できる	より格差のない社会が実現できる	その他	特にない	分からない	無回答
全 体	1,285	54.5	48.9	32.6	31.7	27.6	11.4	2.4	0.9	2.8	6.1	8.1
【地 域 別】												
横 浜	503	53.9	49.5	33.0	30.8	30.2	11.7	1.6	0.8	2.8	6.4	7.4
川 崎	163	58.3	49.1	39.9	38.0	30.1	6.7	0.6	-	3.7	4.9	6.1
相 模 原	81	55.6	56.8	28.4	19.8	29.6	8.6	4.9	1.2	4.9	6.2	3.7
横 須 賀 三 浦	93	47.3	43.0	36.6	34.4	20.4	11.8	4.3	2.2	4.3	6.5	11.8
県 央	130	56.9	46.2	27.7	28.5	26.9	15.4	1.5	0.8	2.3	6.9	8.5
湘 南	182	57.1	52.2	35.2	36.3	29.1	12.1	3.3	0.5	1.1	6.0	6.0
県 西	50	54.0	50.0	30.0	28.0	20.0	18.0	6.0	6.0	2.0	2.0	6.0
【性・年代別】												
男 性	555	54.1	56.4	32.4	36.6	28.6	8.3	1.8	1.4	2.7	6.1	6.5
女 性	638	56.0	44.0	34.3	27.7	28.7	14.4	2.8	0.6	3.0	5.8	7.5
男性18～29歳	25	56.0	56.0	40.0	36.0	44.0	8.0	-	-	4.0	4.0	4.0
30歳代	51	52.9	70.6	33.3	33.3	39.2	3.9	2.0	-	2.0	2.0	11.8
40歳代	101	63.4	58.4	41.6	44.6	36.6	4.0	1.0	-	-	3.0	5.0
50歳代	134	53.0	54.5	36.6	40.3	23.1	7.5	-	1.5	1.5	6.0	7.5
60歳代	120	55.0	52.5	28.3	35.8	33.3	10.8	2.5	2.5	3.3	4.2	5.8
70～74歳	67	47.8	58.2	28.4	25.4	14.9	10.4	-	3.0	3.0	14.9	4.5
75歳以上	56	46.4	51.8	16.1	32.1	17.9	14.3	8.9	1.8	7.1	10.7	7.1
女性18～29歳	33	60.6	54.5	45.5	39.4	36.4	3.0	3.0	-	3.0	3.0	3.0
30歳代	81	72.8	56.8	42.0	21.0	38.3	6.2	3.7	-	2.5	-	8.6
40歳代	134	55.2	47.0	44.0	30.6	29.9	14.2	4.5	-	2.2	3.7	5.2
50歳代	122	60.7	37.7	35.2	24.6	32.0	17.2	2.5	0.8	2.5	1.6	8.2
60歳代	131	55.7	43.5	32.1	28.2	27.5	17.6	1.5	0.8	4.6	5.3	7.6
70～74歳	52	42.3	38.5	23.1	25.0	17.3	11.5	1.9	-	3.8	15.4	9.6
75歳以上	83	42.2	37.3	16.9	31.3	19.3	20.5	2.4	2.4	1.2	15.7	9.6

### 3 デジタル化が進むことで不安を感じる事【問24】

#### 【全体の状況】

日常生活や社会においてデジタル化が進むことで、特に不安を感じることを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「個人情報や企業秘密の漏えいが増える」が61.3%で最も多く、次いで「詐欺やサイバーテロなどの犯罪が増える」が60.2%であった。（図表6-3-1）

図表6-3-1 デジタル化が進むことで不安を感じる事（複数回答）



図表6-3-2 デジタル化が進むことで不安を感じる事（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	個人情報や企業秘密の漏えいが増える	詐欺やサイバーテロなどの犯罪が増える	災害などで電気が使えなくなると何もできなくなる	デジタル機器に慣れて不便になることが増える	誹謗（ひぼう）・中傷が増える	人間関係が希薄になる	デジタル機器や通信費などのお金がかかる	その他	特にない	分からない	無回答
全体	1,285	61.3	60.2	41.3	28.4	19.2	18.7	10.7	1.2	1.0	1.2	8.5
【地域別】												
横浜	503	62.8	62.2	45.1	27.4	16.5	18.1	11.9	0.6	0.8	1.2	8.0
川崎	163	65.0	57.7	47.2	23.3	20.9	22.1	12.9	1.8	1.2	1.2	7.4
相模原	81	55.6	60.5	30.9	27.2	21.0	22.2	16.0	1.2	1.2	1.2	9.9
横須賀三浦	93	61.3	54.8	36.6	17.2	19.4	20.4	9.7	2.2	2.2	2.2	12.9
県央	130	66.9	62.3	39.2	33.1	22.3	16.2	6.2	-	-	1.5	6.9
湘南	182	58.8	63.2	41.2	29.7	22.5	17.6	7.1	2.2	2.2	1.1	4.4
県西	50	58.0	56.0	30.0	44.0	20.0	22.0	12.0	6.0	-	-	8.0
【性・年代別】												
男性	555	60.2	64.3	38.9	22.5	24.0	18.9	12.6	1.3	1.8	1.6	5.9
女性	638	64.3	57.8	44.4	32.1	15.5	19.0	9.4	1.4	0.5	0.9	9.1
男性18～29歳	25	52.0	40.0	48.0	8.0	24.0	12.0	16.0	-	12.0	4.0	4.0
30歳代	51	64.7	62.7	39.2	9.8	19.6	15.7	15.7	-	2.0	-	5.9
40歳代	101	63.4	65.3	48.5	15.8	25.7	24.8	8.9	2.0	2.0	1.0	3.0
50歳代	134	61.9	66.4	44.0	20.1	29.1	17.2	9.7	3.0	0.7	2.2	6.7
60歳代	120	60.0	63.3	38.3	28.3	23.3	16.7	10.8	-	2.5	0.8	8.3
70～74歳	67	61.2	70.1	29.9	26.9	17.9	14.9	13.4	1.5	-	3.0	6.0
75歳以上	56	50.0	64.3	17.9	39.3	19.6	28.6	25.0	-	-	1.8	5.4
女性18～29歳	33	66.7	42.4	51.5	15.2	39.4	18.2	15.2	-	-	3.0	6.1
30歳代	81	74.1	55.6	51.9	16.0	18.5	23.5	4.9	2.5	1.2	-	7.4
40歳代	134	73.9	64.2	48.5	22.4	15.7	16.4	9.7	-	1.5	-	8.2
50歳代	122	59.0	62.3	51.6	27.9	14.8	17.2	9.8	5.7	-	-	9.8
60歳代	131	67.9	62.6	39.7	43.5	10.7	15.3	12.2	-	-	-	9.2
70～74歳	52	53.8	57.7	34.6	42.3	9.6	23.1	7.7	-	-	1.9	13.5
75歳以上	83	45.8	41.0	31.3	53.0	14.5	25.3	7.2	-	-	4.8	9.6

## 第7章 将来の住まい【問25～問26】

### 1 将来の住まいに対する不安【問25】

#### 【全体の状況】

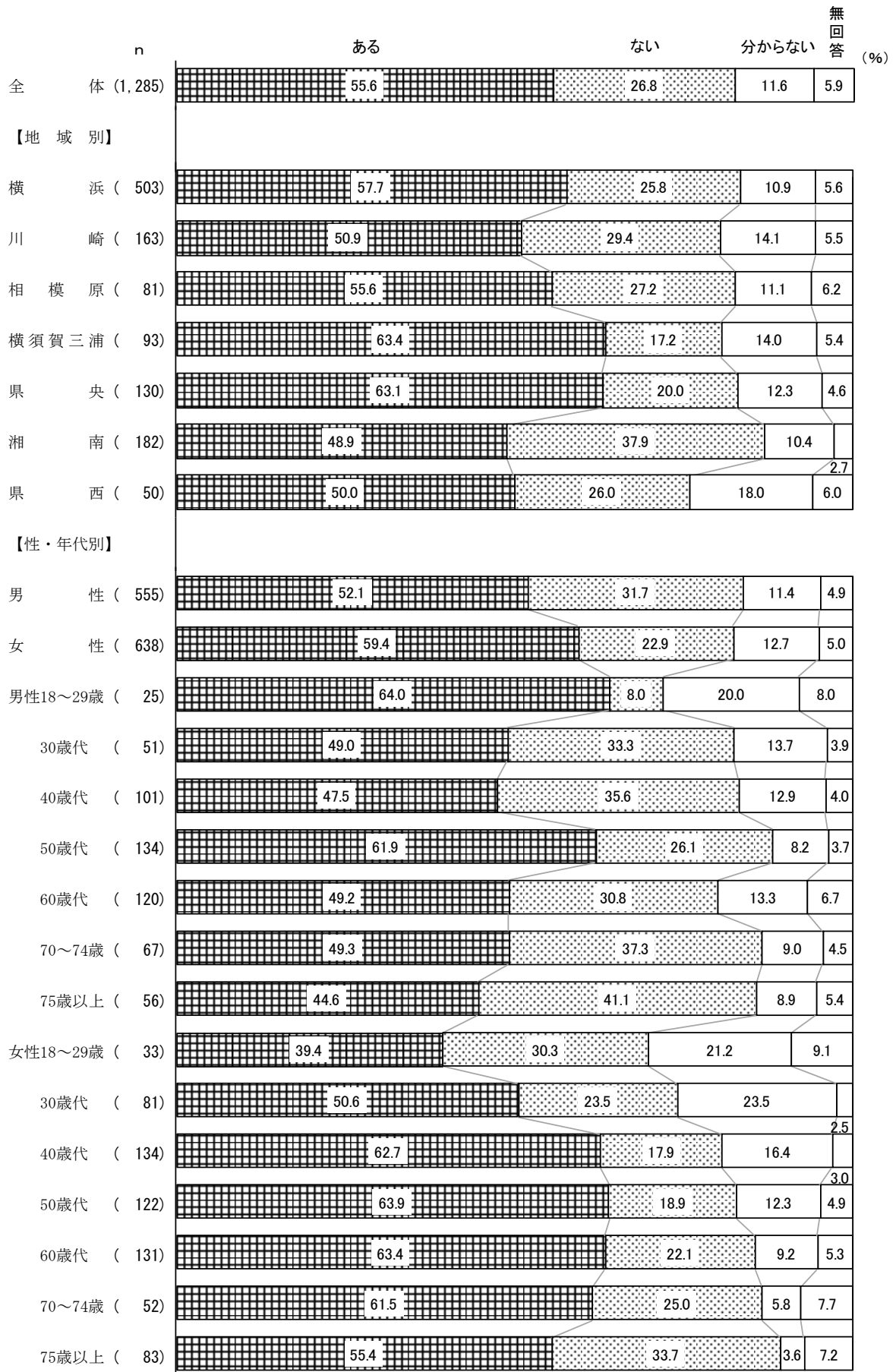
高齢者の方に対しては現在、それ以外の年代の方には将来高齢者になったとき、現在の住まいに不安があるかどうか尋ねたところ、「ある」が55.6%となった。

一方、「ない」は26.8%であった。(図表7-1-1)

図表7-1-1 将来の住まいに対する不安



図表7-1-2 将来の住まいに対する不安—地域別、性・年代別

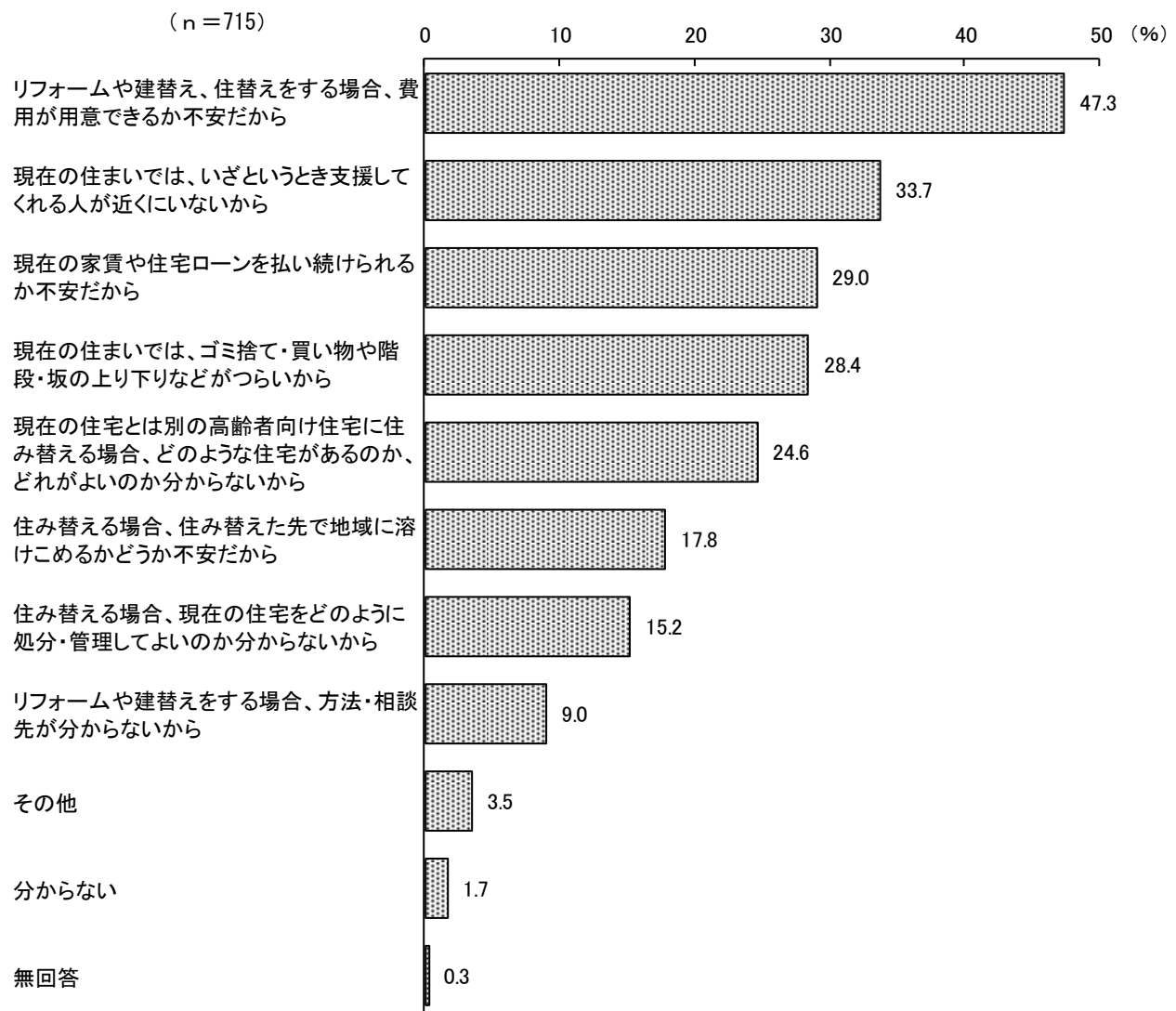


## 2 将来の住まいに不安を抱く理由【問25-1】

### 【全体の状況】

将来の住まいに対する不安（問25）で、「ある」と回答した715人に、不安だと思う理由を複数回答で尋ねたところ、「リフォームや建替え、住替えをする場合、費用が用意できるか不安だから」が47.3%で最も多く、次いで「現在の住まいでは、いざというとき支援してくれる人が近くにいないから」が33.7%であった。（図表7-2-1）

図表7-2-1 将来の住まいに不安を抱く理由（複数回答）



図表7-2-2 将来の住まいに不安を抱く理由（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	リフォームや建替え、住替えをす る場合、費用が用意できるか不安 だから	現在の住まいでは、いざという とき支援してくれる人が近くにいな いから	現在の家賃や住宅ローンを払い続 けられるか不安だから	現在の住まいでは、ゴミ捨て・買 ついたり階段・坂の上り下りなどが	住宅があるのか、どれがよいのか 分からないから	現在の住宅とは別の高齢者向け住 宅に住み替える場合、どのような 住宅があるのか、どれがよいのか 分からないから	住み替える場合、住み替えた先で 地域に溶けこめるかどうか不安だ から	住み替える場合、現在の住宅をど のように処分・管理してよいのか 分からないから	リフォームや建替えをする場合、 方法・相談先が分からないから	その他	分からない	無回答
全 体	715	47.3	33.7	29.0	28.4	24.6	17.8	15.2	9.0	3.5	1.7	0.3	
【地 域 別】													
横 浜	290	47.9	30.3	24.1	30.0	27.2	19.0	14.1	7.9	2.1	2.1	-	
川 崎	83	48.2	42.2	41.0	31.3	26.5	25.3	13.3	12.0	3.6	1.2	-	
相 模 原	45	55.6	42.2	28.9	11.1	17.8	13.3	20.0	13.3	2.2	-	-	
横 須 賀 三 浦	59	42.4	40.7	25.4	44.1	18.6	16.9	10.2	6.8	8.5	-	-	
県 央	82	40.2	31.7	29.3	18.3	19.5	14.6	14.6	7.3	3.7	2.4	2.4	
湘 南	89	50.6	34.8	40.4	28.1	27.0	12.4	15.7	12.4	5.6	-	-	
県 西	25	60.0	24.0	24.0	16.0	20.0	12.0	28.0	8.0	-	4.0	-	
【性・年代別】													
男 性	289	48.8	32.5	33.2	22.5	26.6	17.3	17.0	10.4	4.5	1.4	-	
女 性	379	46.7	34.8	25.6	32.5	23.0	17.9	13.5	8.2	2.6	1.6	0.5	
男性 18～29歳	16	25.0	50.0	31.3	25.0	6.3	18.8	12.5	6.3	18.8	6.3	-	
30 歳 代	25	36.0	28.0	40.0	36.0	16.0	16.0	12.0	-	4.0	-	-	
40 歳 代	48	54.2	37.5	47.9	18.8	18.8	10.4	12.5	14.6	2.1	-	-	
50 歳 代	83	51.8	25.3	48.2	16.9	31.3	19.3	20.5	13.3	1.2	3.6	-	
60 歳 代	59	52.5	33.9	15.3	23.7	28.8	15.3	15.3	15.3	10.2	-	-	
70～74歳	33	48.5	33.3	9.1	30.3	42.4	18.2	24.2	3.0	3.0	-	-	
75歳以上	25	48.0	36.0	24.0	20.0	24.0	28.0	16.0	4.0	-	-	-	
女性 18～29歳	13	23.1	46.2	46.2	30.8	-	15.4	15.4	-	-	15.4	-	
30 歳 代	41	46.3	36.6	39.0	43.9	7.3	17.1	14.6	2.4	4.9	-	-	
40 歳 代	84	59.5	32.1	25.0	27.4	22.6	21.4	15.5	10.7	2.4	2.4	-	
50 歳 代	78	48.7	38.5	28.2	28.2	29.5	15.4	17.9	10.3	2.6	1.3	-	
60 歳 代	83	42.2	34.9	20.5	31.3	21.7	16.9	9.6	6.0	3.6	-	-	
70～74歳	32	34.4	40.6	18.8	37.5	28.1	18.8	9.4	9.4	3.1	3.1	-	
75歳以上	46	43.5	23.9	19.6	37.0	30.4	17.4	8.7	6.5	-	-	4.3	

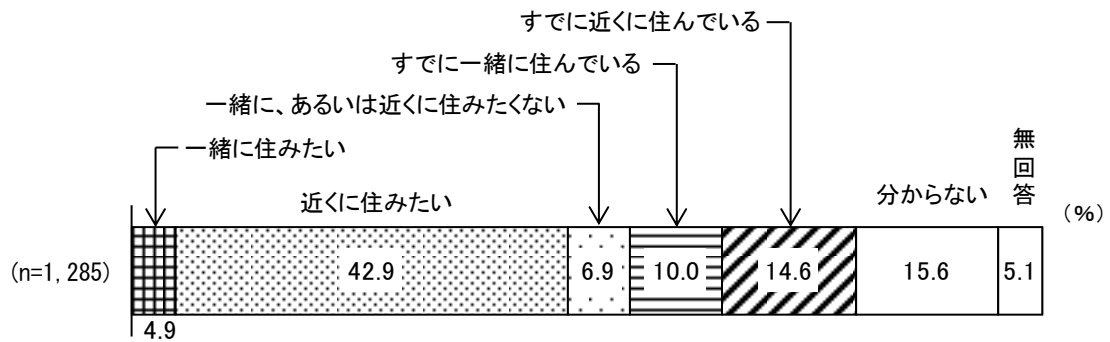


### 3 親族との同居意向【問26】

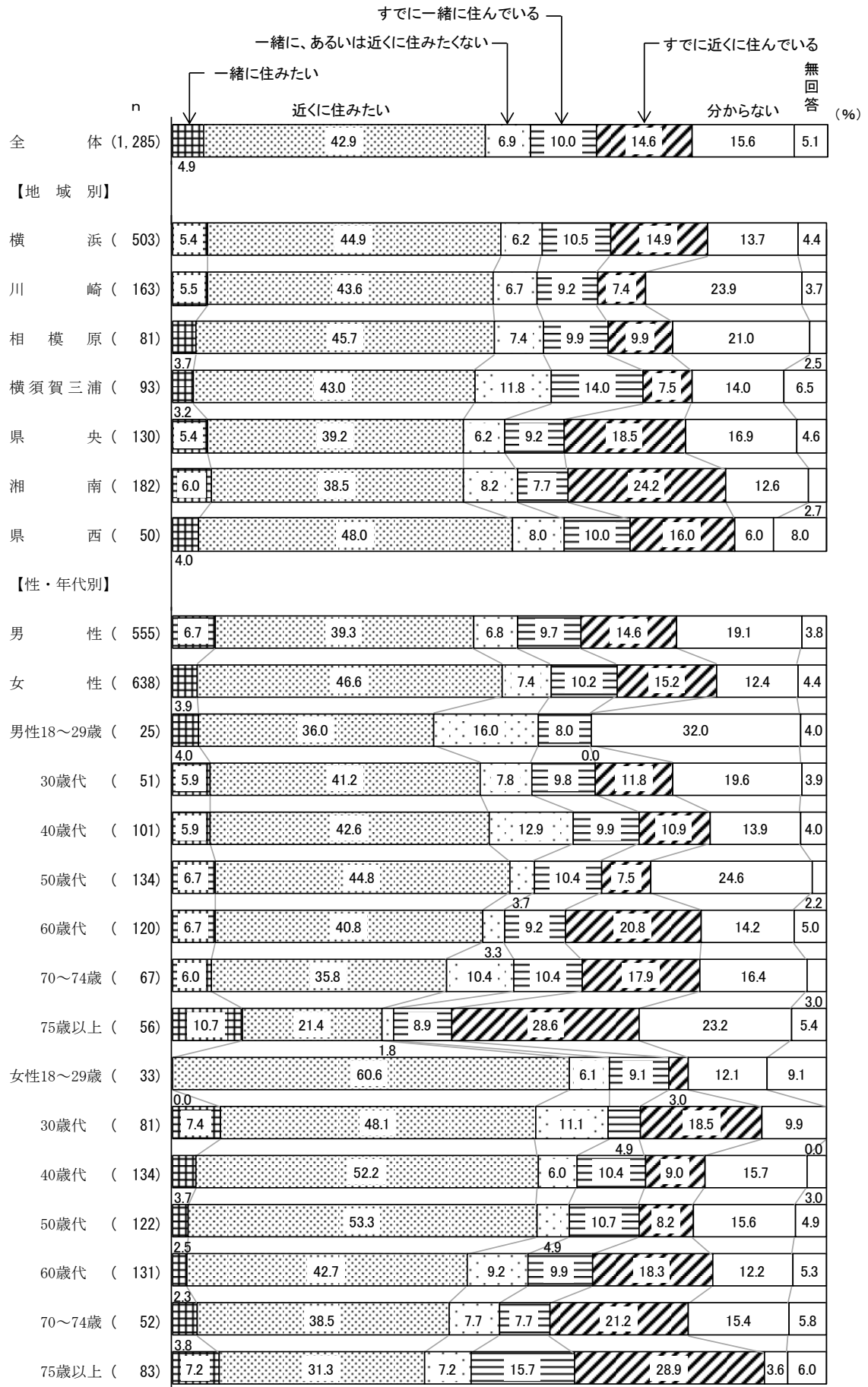
#### 【全体の状況】

将来、親や子、親族の近くに住みたいという考えがあるかどうか尋ねたところ、「近くに住みたい」が42.9%で最も多く、次いで「すでに近くに住んでいる」が14.6%であった。（図表7-3-1）

図表7-3-1 親族との同居意向



図表7-3-2 親族との同居意向—地域別、性・年代別



## 第8章 地域社会との関わり【問27】

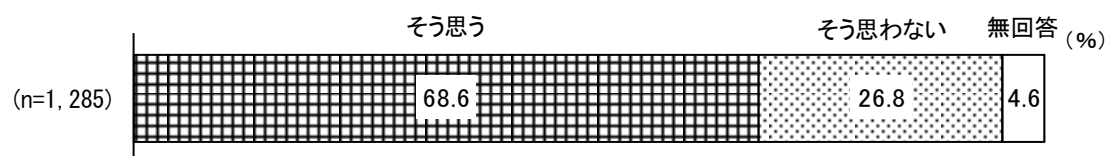
### 1 地域社会との関わりを大切にする意識【問27】

#### 【全体の状況】

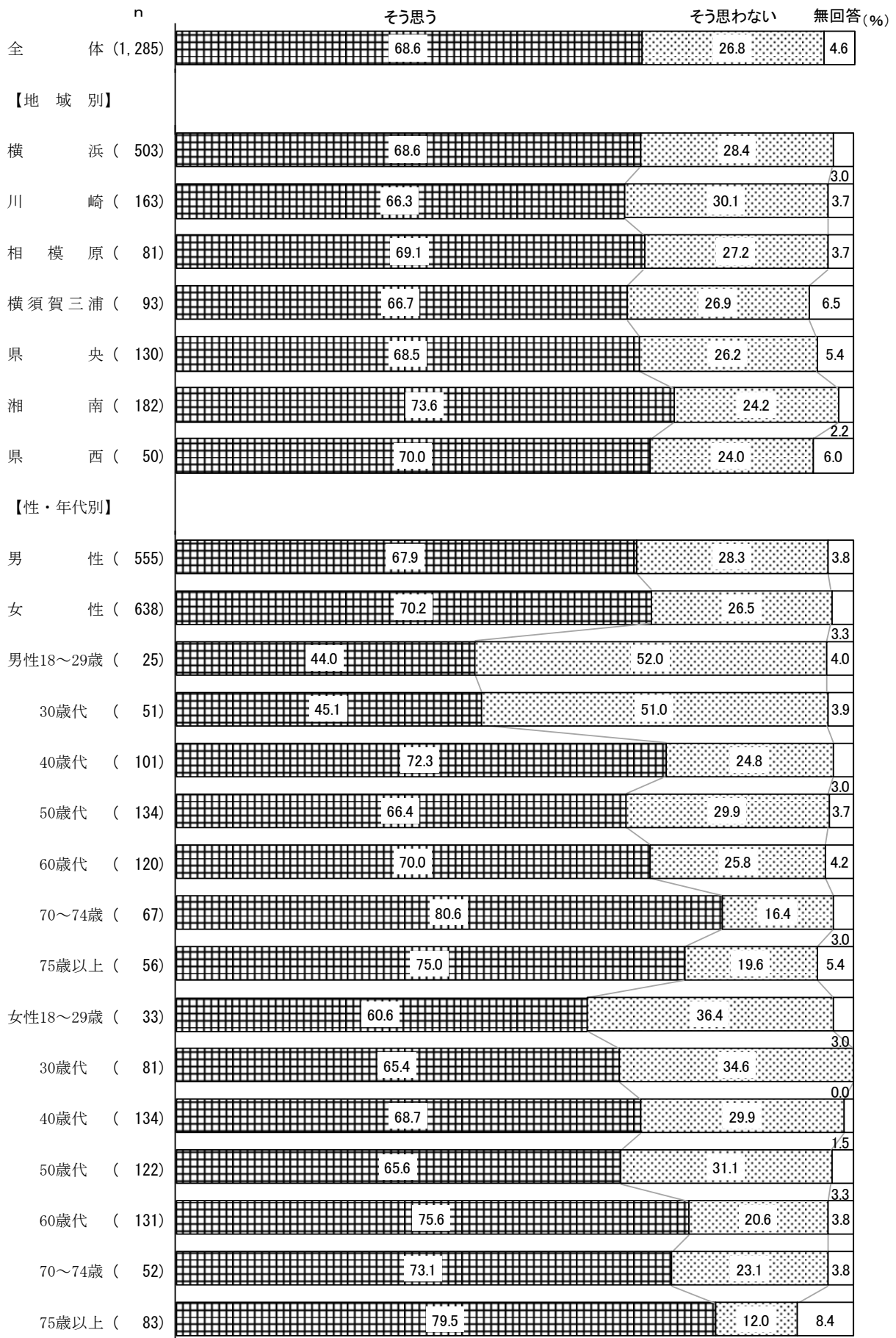
長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が68.6%であった。

一方、「そう思わない」が26.8%であった。(図表8-1-1)

図表8-1-1 地域社会との関わりを大切にする意識



図表8-1-2 地域社会との関わりを大切にする意識－地域別、性・年代別



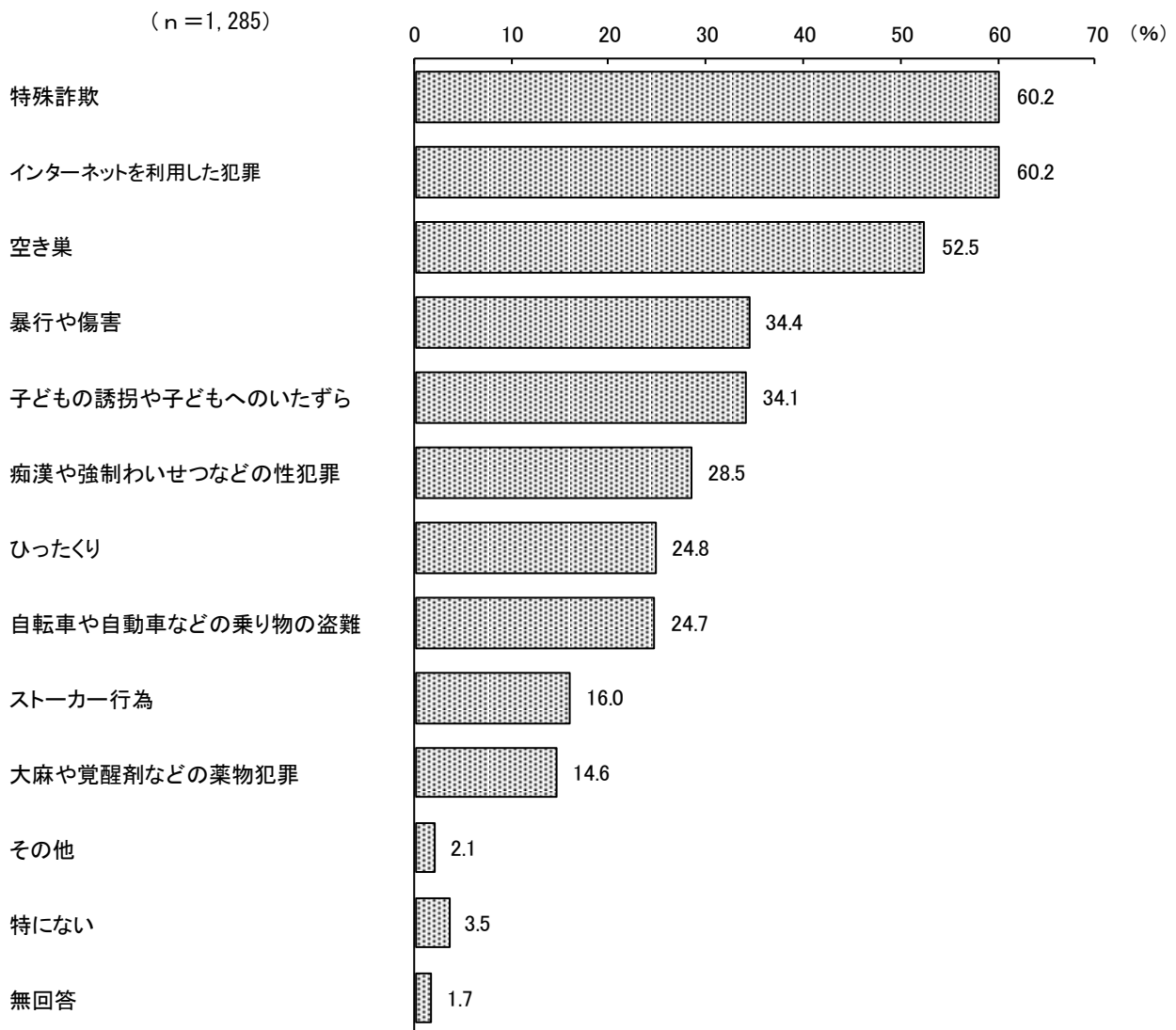
## 第9章 治安対策【問28～問30】

### 1 不安に感じる犯罪【問28】

#### 【全体の状況】

不安に感じる身近な犯罪を複数回答で尋ねたところ、「特殊詐欺」と「インターネットを利用した犯罪」が60.2%で最も多く、次いで「空き巣」が52.5%であった。(図表9-1-1)

図表9-1-1 不安に感じる犯罪（複数回答）



図表9-1-2 不安に感じる犯罪（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

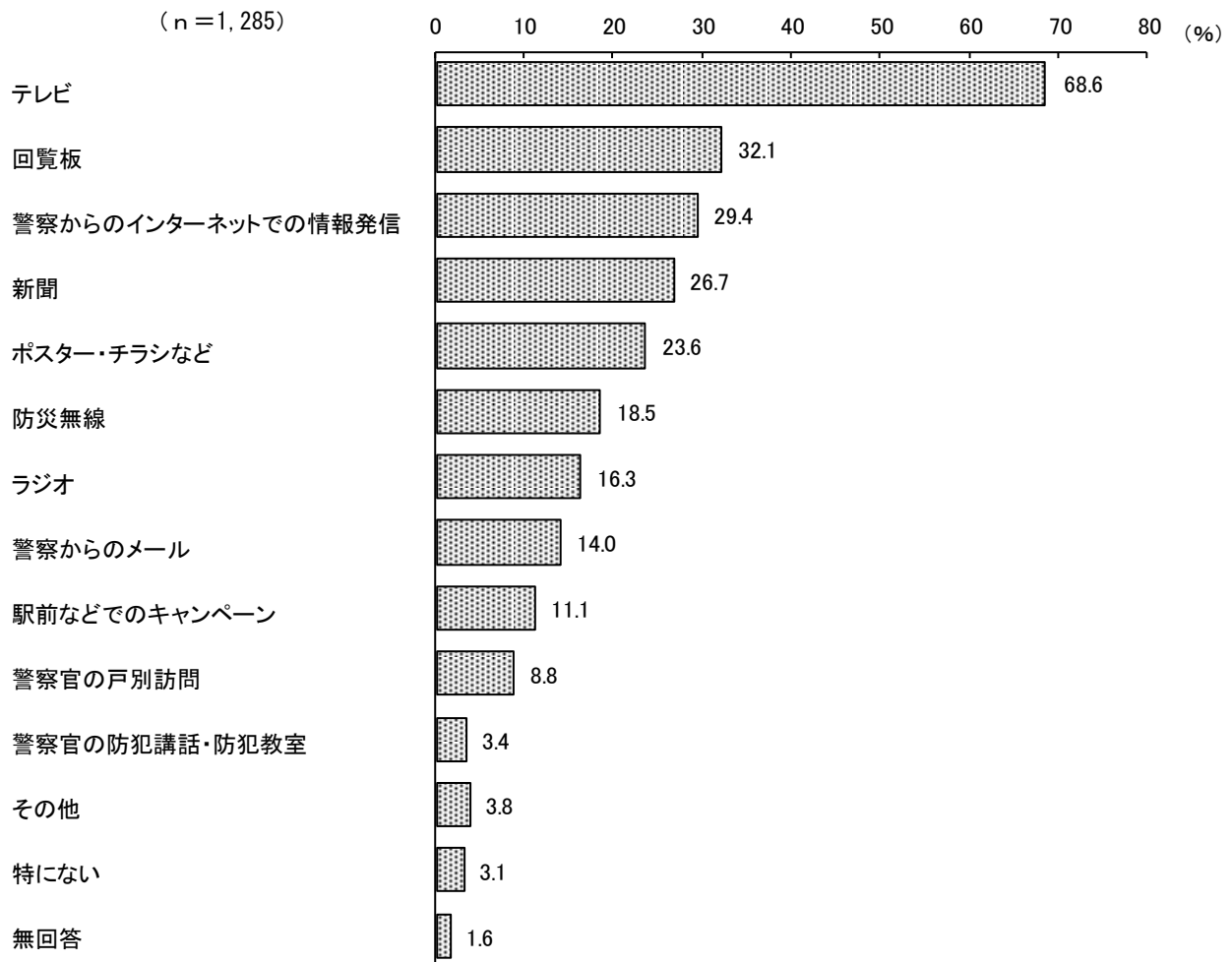
	n	特殊詐欺	インターネットを利用した犯罪	空き巣	暴行や傷害	子どもの誘拐や子どもへのいたずら	痴漢や強制わいせつなどの性犯罪	ひったくり	難	自転車や自動車などの乗り物の盗	ストーカー行為	大麻や覚醒剤などの薬物犯罪	その他	特にない	無回答
全 体	1,285	60.2	60.2	52.5	34.4	34.1	28.5	24.8	24.7	16.0	14.6	2.1	3.5	1.7	
【地 域 別】															
横 浜	503	61.0	61.4	51.9	34.8	34.0	30.6	23.3	22.7	18.1	15.7	1.8	3.6	0.8	
川 崎	163	51.5	58.9	47.2	39.9	39.9	31.3	31.3	28.2	15.3	11.0	1.8	3.7	0.6	
相 模 原	81	58.0	60.5	56.8	29.6	29.6	32.1	29.6	28.4	16.0	11.1	2.5	2.5	2.5	
横 須 賀 三 浦	93	60.2	64.5	57.0	45.2	43.0	34.4	21.5	30.1	22.6	18.3	3.2	3.2	-	
県 央	130	60.8	63.8	53.8	33.8	27.7	24.6	25.4	23.8	10.8	20.8	3.8	3.1	3.1	
湘 南	182	61.0	58.2	56.0	28.6	37.4	24.7	23.6	26.4	14.3	12.6	2.2	3.8	1.1	
県 西	50	68.0	56.0	66.0	26.0	34.0	26.0	20.0	32.0	14.0	12.0	-	6.0	-	
【性・年代別】															
男 性	555	57.7	60.2	53.2	38.6	30.5	22.9	20.7	25.8	11.7	14.4	2.9	3.4	1.3	
女 性	638	61.3	61.6	53.8	30.9	38.9	35.0	28.4	25.4	20.2	15.5	1.6	3.6	0.8	
男性 18～29歳	25	40.0	56.0	48.0	36.0	16.0	16.0	24.0	44.0	20.0	28.0	-	8.0	-	
30 歳 代	51	29.4	58.8	49.0	45.1	51.0	29.4	17.6	27.5	15.7	7.8	-	3.9	-	
40 歳 代	101	47.5	54.5	47.5	41.6	61.4	38.6	16.8	27.7	14.9	19.8	3.0	2.0	1.0	
50 歳 代	134	62.7	61.9	60.4	41.0	28.4	26.9	24.6	32.8	15.7	19.4	3.7	2.2	1.5	
60 歳 代	120	66.7	70.8	61.7	35.8	17.5	13.3	20.0	21.7	7.5	6.7	3.3	3.3	-	
70～74歳	67	65.7	52.2	46.3	35.8	17.9	14.9	17.9	17.9	7.5	11.9	3.0	3.0	6.0	
75歳以上	56	67.9	57.1	41.1	32.1	10.7	12.5	25.0	12.5	3.6	12.5	3.6	7.1	-	
女性 18～29歳	33	21.2	57.6	24.2	36.4	18.2	48.5	9.1	15.2	30.3	15.2	-	6.1	-	
30 歳 代	81	39.5	60.5	44.4	28.4	75.3	49.4	22.2	32.1	28.4	18.5	2.5	3.7	-	
40 歳 代	134	56.7	61.2	60.4	36.6	56.0	48.5	24.6	32.8	28.4	23.9	1.5	1.5	-	
50 歳 代	122	67.2	72.1	53.3	27.9	24.6	34.4	27.0	24.6	23.0	13.9	2.5	4.9	-	
60 歳 代	131	73.3	67.2	58.0	31.3	32.8	19.8	33.6	22.9	10.7	5.3	-	-	2.3	
70～74歳	52	75.0	61.5	53.8	26.9	28.8	23.1	38.5	19.2	9.6	17.3	1.9	3.8	1.9	
75歳以上	83	68.7	39.8	56.6	26.5	20.5	25.3	33.7	18.1	12.0	15.7	2.4	9.6	1.2	

## 2 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法【問29】

### 【全体の状況】

地域の犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、得やすい方法を複数回答で尋ねたところ、「テレビ」が68.6%で最も多く、次いで「回覧板」が32.1%であった。(図表9-2-1)

図表9-2-1 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法（複数回答）



図表9-2-2 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	テレビ	回覧板	警察からのインターネットでの情報発信	新聞	ポスター・チラシなど	防災無線	ラジオ	警察からのメール	駅前などでのキャンペーン	警察官の戸別訪問	警察官の防犯講話・防犯教室	その他	特にない	無回答	
全体	1,285	68.6	32.1	29.4	26.7	23.6	18.5	16.3	14.0	11.1	8.8	3.4	3.8	3.1	1.6	
<b>【地域別】</b>																
横浜	503	72.0	33.0	30.8	29.0	24.3	5.6	17.7	14.3	12.5	9.1	3.6	4.6	4.0	0.6	
川崎	163	65.0	20.9	38.7	19.0	28.8	7.4	14.7	17.8	19.6	9.2	2.5	3.1	1.8	0.6	
相模原	81	59.3	21.0	28.4	23.5	21.0	28.4	13.6	17.3	4.9	6.2	3.7	2.5	4.9	2.5	
横須賀三浦	93	66.7	31.2	34.4	21.5	24.7	21.5	19.4	15.1	11.8	7.5	7.5	4.3	2.2	-	
県央	130	72.3	30.0	23.8	27.7	20.0	37.7	15.4	14.6	7.7	8.5	4.6	2.3	3.8	2.3	
湘南	182	63.2	43.4	26.9	28.0	22.0	37.9	17.6	11.0	9.3	8.2	1.6	4.9	2.7	1.1	
県西	50	64.0	42.0	16.0	24.0	14.0	42.0	6.0	12.0	-	10.0	2.0	4.0	-	2.0	
<b>【性・年代別】</b>																
男性	555	66.7	31.7	31.5	27.2	24.0	17.5	17.7	12.6	11.4	11.2	3.2	3.6	4.0	0.9	
女性	638	69.6	32.1	29.2	25.5	23.5	19.7	15.5	16.1	11.3	6.4	3.8	4.2	2.5	0.9	
男性18～29歳	25	52.0	16.0	60.0	16.0	36.0	4.0	8.0	16.0	16.0	16.0	12.0	4.0	4.0	-	
30歳代	51	54.9	25.5	39.2	11.8	35.3	9.8	5.9	11.8	9.8	5.9	2.0	3.9	3.9	-	
40歳代	101	56.4	32.7	40.6	19.8	24.8	16.8	14.9	16.8	15.8	12.9	3.0	5.9	4.0	1.0	
50歳代	134	64.2	23.1	36.6	20.1	15.7	20.1	22.4	17.9	14.2	8.2	3.0	3.7	6.7	0.7	
60歳代	120	73.3	37.5	27.5	33.3	23.3	15.8	16.7	9.2	5.8	11.7	1.7	-	4.2	-	
70～74歳	67	74.6	44.8	16.4	35.8	29.9	23.9	19.4	10.4	10.4	13.4	3.0	6.0	1.5	4.5	
75歳以上	56	83.9	35.7	10.7	51.8	21.4	19.6	25.0	1.8	8.9	14.3	5.4	3.6	-	-	
女性18～29歳	33	63.6	12.1	12.1	12.1	21.2	-	9.1	6.1	12.1	-	3.0	9.1	6.1	-	
30歳代	81	53.1	18.5	46.9	7.4	27.2	11.1	3.7	14.8	21.0	4.9	6.2	8.6	2.5	-	
40歳代	134	58.2	22.4	41.8	9.0	26.9	18.7	9.7	29.9	9.0	3.0	2.2	3.7	5.2	-	
50歳代	122	65.6	31.1	32.8	18.0	21.3	20.5	12.3	23.0	9.8	6.6	5.7	2.5	2.5	0.8	
60歳代	131	80.9	39.7	27.5	30.5	19.1	28.2	25.2	12.2	9.9	6.9	2.3	3.1	0.8	2.3	
70～74歳	52	76.9	34.6	11.5	53.8	21.2	19.2	17.3	3.8	7.7	7.7	1.9	5.8	1.9	1.9	
75歳以上	83	90.4	56.6	6.0	60.2	26.5	24.1	26.5	2.4	10.8	14.5	4.8	2.4	-	1.2	

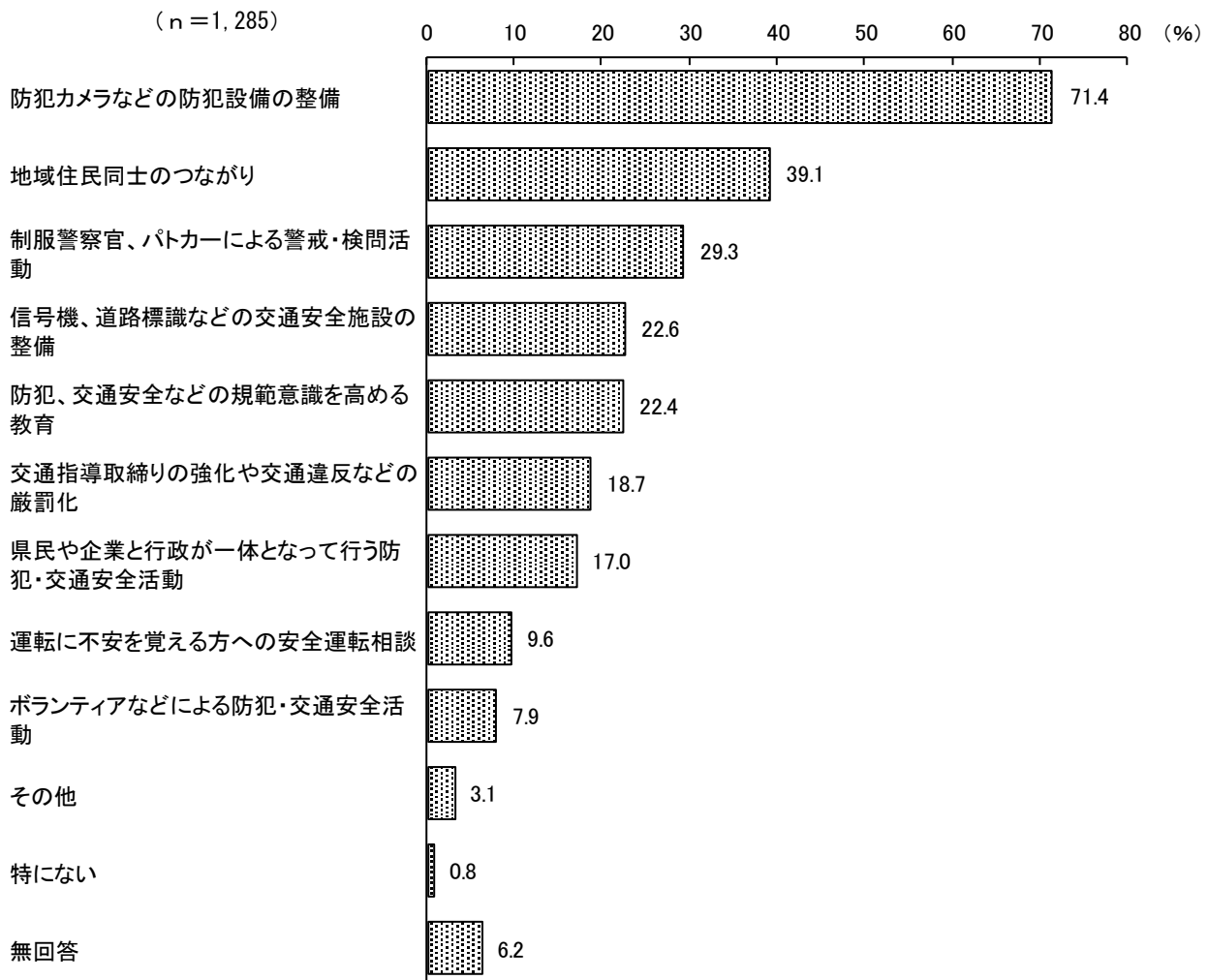


### 3 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの【問30】

#### 【全体の状況】

犯罪や交通事故がなく、より安心してくらすために重要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「防犯カメラなどの防犯設備の整備」が71.4%で最も多く、次いで「地域住民同士のつながり」が39.1%であった。（図表9-3-1）

図表9-3-1 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの（複数回答）



図表9-3-2 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	防犯カメラなどの防犯設備の整備	地域住民同士のつながり	制服警察官、パトカーによる警戒・検問活動	信号機、道路標識などの交通安全施設の整備	防犯、交通安全などの規範意識を高める教育	交通指導取締りの強化や交通違反などの厳罰化	県民や企業と行政が一体となって行う防犯・交通安全活動	運転に不安を覚える方への安全運転相談	ボランティアなどによる防犯・交通安全活動	その他	特にない	無回答
全体	1,285	71.4	39.1	29.3	22.6	22.4	18.7	17.0	9.6	7.9	3.1	0.8	6.2
【地域別】													
横浜	503	74.2	37.6	29.0	25.0	26.4	20.7	15.1	10.5	7.6	3.0	0.8	4.2
川崎	163	73.6	46.6	32.5	17.8	22.1	22.1	16.0	11.0	8.6	3.7	0.6	4.9
相模原	81	74.1	32.1	24.7	24.7	16.0	21.0	21.0	7.4	4.9	6.2	3.7	4.9
横須賀三浦	93	63.4	43.0	35.5	14.0	20.4	9.7	20.4	6.5	14.0	5.4	1.1	7.5
県央	130	74.6	40.8	28.5	24.6	14.6	16.9	23.1	6.2	5.4	1.5	-	8.5
湘南	182	66.5	36.3	27.5	23.6	25.8	20.9	17.0	11.5	8.2	2.2	0.5	5.5
県西	50	68.0	40.0	30.0	22.0	20.0	6.0	16.0	12.0	10.0	4.0	-	8.0
【性・年代別】													
男性	555	73.9	38.6	31.5	25.0	21.8	22.0	16.4	9.4	6.5	4.0	1.3	3.8
女性	638	70.2	39.7	27.9	20.8	24.3	16.9	17.9	10.2	9.4	2.7	0.3	6.7
男性18~29歳	25	52.0	16.0	36.0	40.0	28.0	24.0	20.0	12.0	8.0	4.0	4.0	-
30歳代	51	70.6	19.6	27.5	29.4	27.5	19.6	15.7	17.6	3.9	5.9	-	7.8
40歳代	101	75.2	39.6	45.5	22.8	16.8	24.8	17.8	11.9	3.0	3.0	-	2.0
50歳代	134	75.4	36.6	32.1	21.6	21.6	26.1	11.9	7.5	9.7	3.0	3.0	5.2
60歳代	120	75.0	43.3	25.8	28.3	28.3	19.2	15.8	9.2	4.2	4.2	0.8	2.5
70~74歳	67	73.1	43.3	26.9	20.9	16.4	22.4	14.9	4.5	10.4	4.5	1.5	7.5
75歳以上	56	80.4	53.6	25.0	23.2	16.1	14.3	26.8	7.1	7.1	5.4	-	-
女性18~29歳	33	66.7	24.2	27.3	27.3	33.3	21.2	18.2	12.1	3.0	3.0	-	-
30歳代	81	65.4	35.8	18.5	19.8	27.2	25.9	18.5	12.3	18.5	1.2	1.2	7.4
40歳代	134	68.7	36.6	29.9	17.9	23.9	18.7	22.4	15.7	6.7	3.7	-	6.0
50歳代	122	67.2	35.2	32.8	22.1	29.5	17.2	13.9	9.8	8.2	4.1	0.8	6.6
60歳代	131	72.5	38.9	29.8	24.4	22.9	10.7	19.1	8.4	7.6	1.5	-	10.7
70~74歳	52	71.2	50.0	23.1	23.1	23.1	17.3	13.5	3.8	5.8	3.8	-	7.7
75歳以上	83	78.3	56.6	27.7	14.5	14.5	12.0	16.9	6.0	14.5	-	-	3.6

## 第10章 とともに生きる社会かながわ【問31～問38】

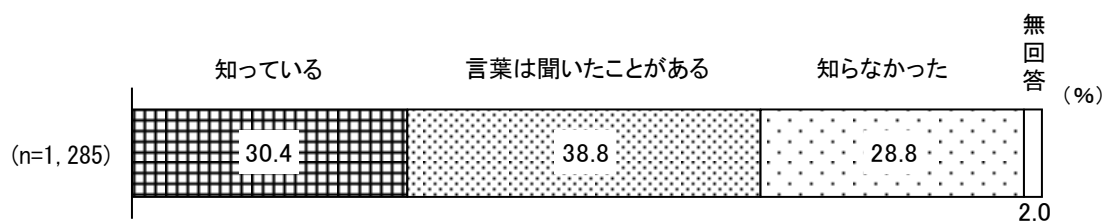
### 1 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度【問31】

#### 【全体の状況】

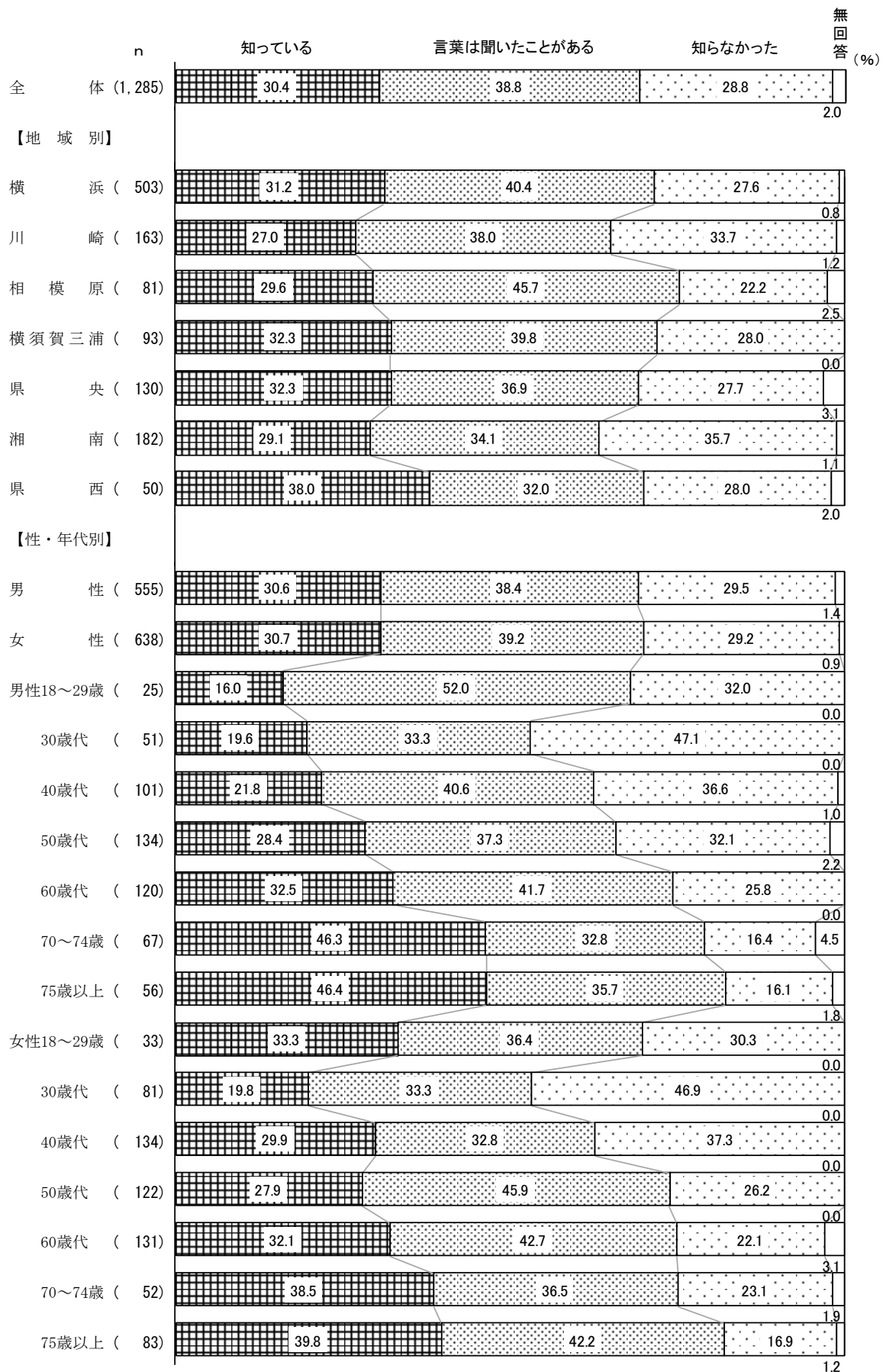
共生社会（ともに生きる社会）という考え方を知っているか尋ねたところ、「知っている」が30.4%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が38.8%であった。

一方、「知らなかった」が28.8%であった。（図表10-1-1）

図表10-1-1 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度



図表10-1-2 共生社会（ともに生きる社会）という考え方の認知度—地域別、性・年代別



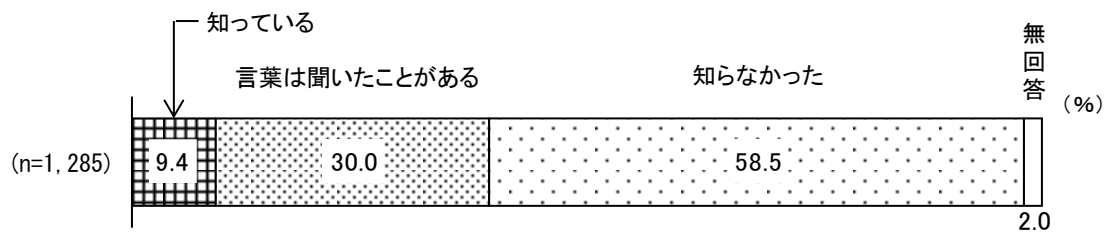
## 2 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度【問32】

### 【全体の状況】

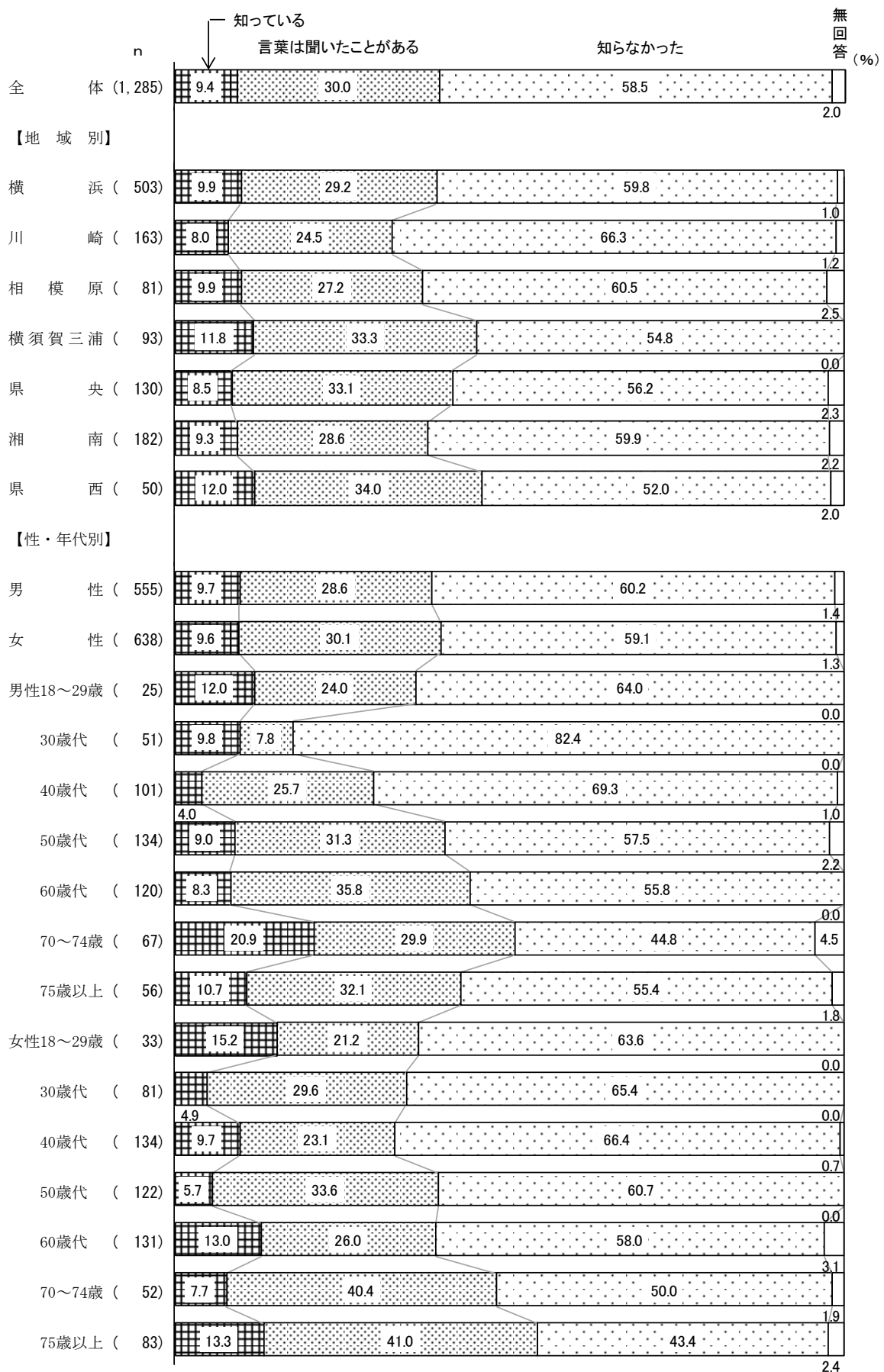
「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が9.4%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が30.0%であった。

一方、「知らなかった」が58.5%であった。(図表10-2-1)

図表10-2-1 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度



図表10-2-2 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度—地域別、性・年代別



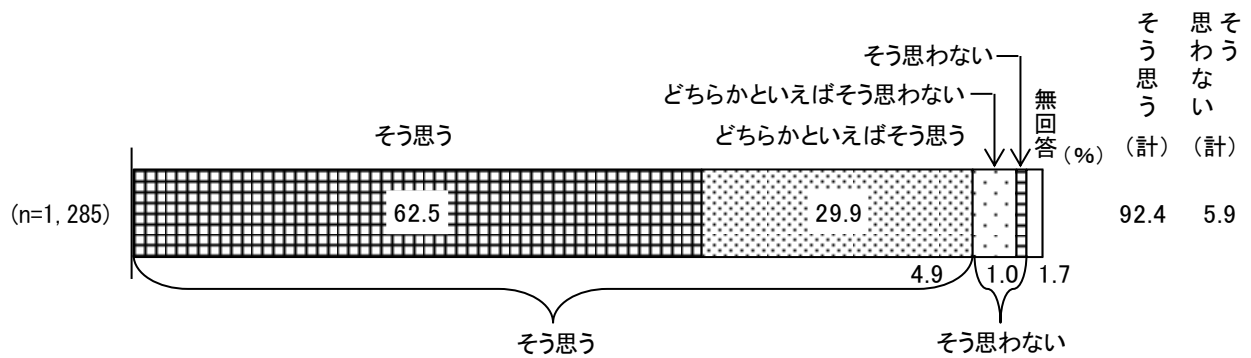
### 3 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方【問33】

#### 【全体の状況】

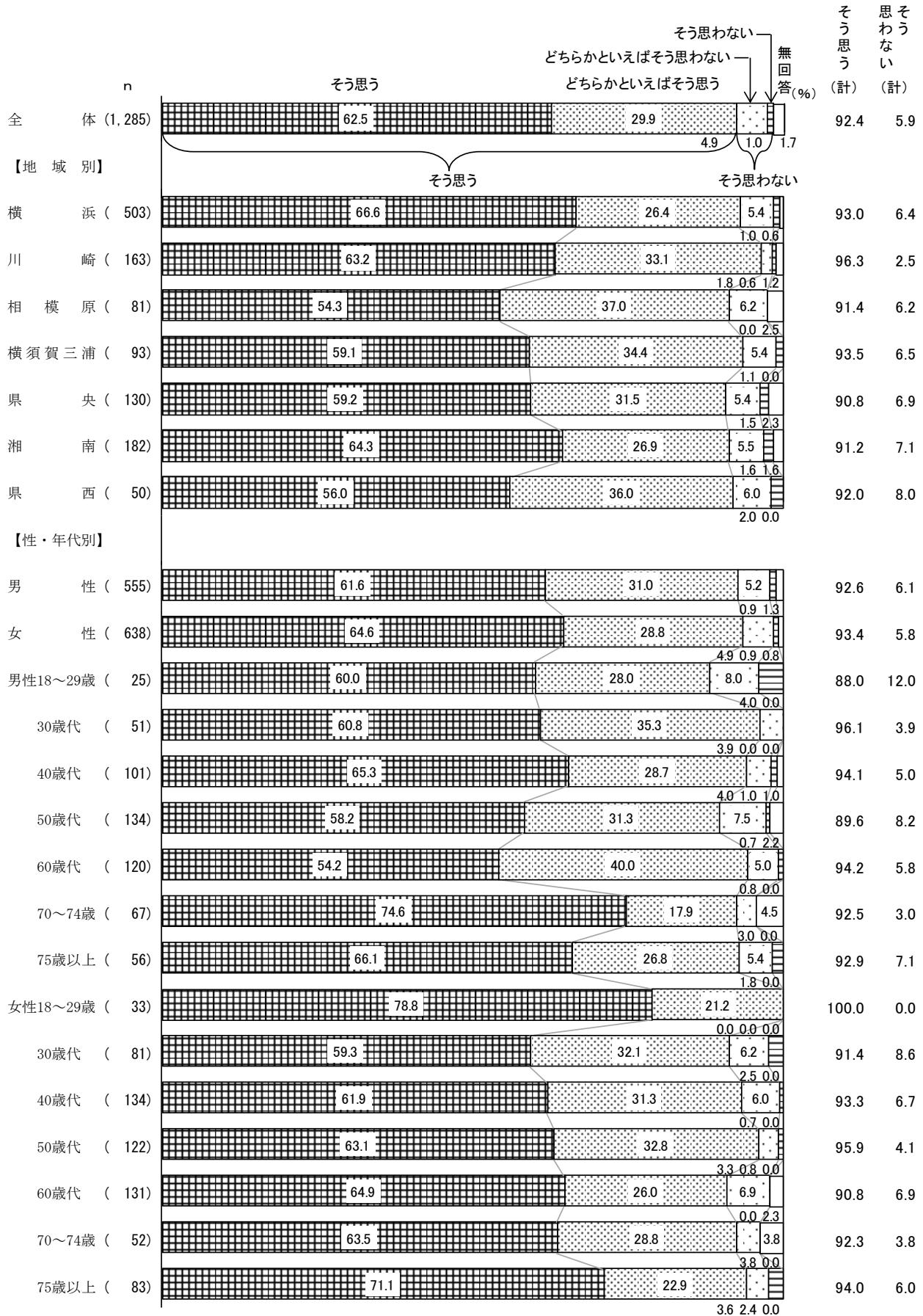
障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方についてどう思うか尋ねたところ、「そう思う」(62.5%)と「どちらかといえばそう思う」(29.9%)を合わせた《そう思う》は92.4%であった。

一方、「そう思わない」(1.0%)と「どちらかといえばそう思わない」(4.9%)を合わせた《そう思わない》は5.9%であった。(図表 10-3-1)

図表10-3-1 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方



図表10-3-2 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方  
—地域別、性・年代別





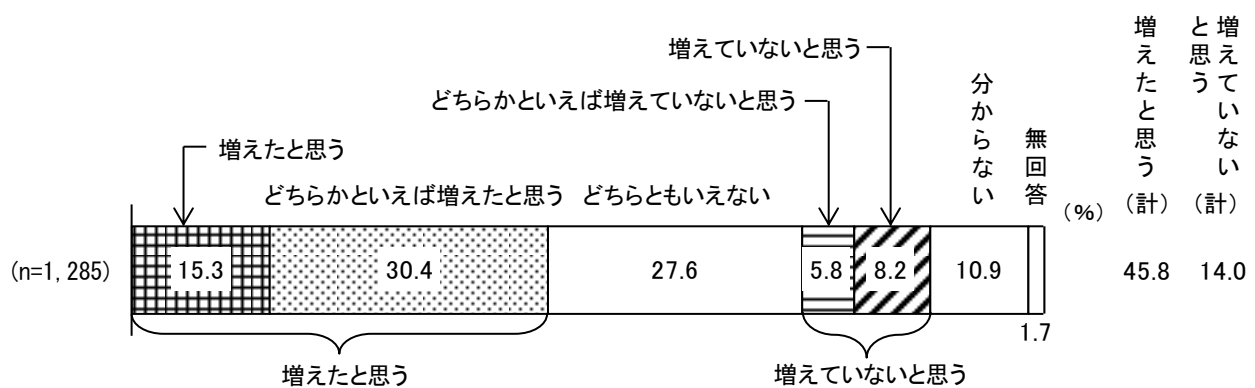
#### 4 障がい者に配慮した行動をとる人【問34】

##### 【全体の状況】

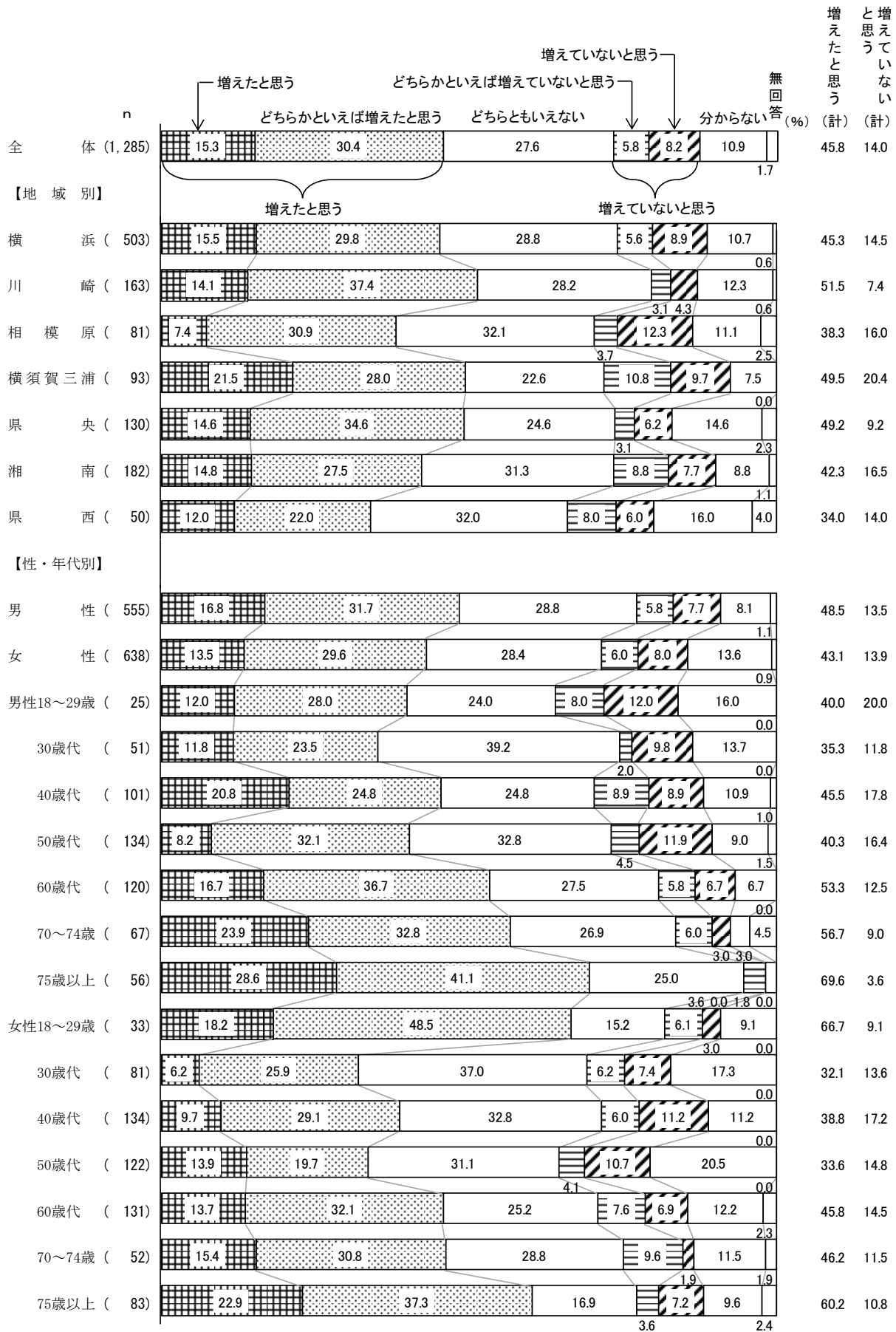
5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「増えたと思う」(15.3%)と「どちらかといえば増えたと思う」(30.4%)を合わせた《増えたと思う》は45.8%であった。

一方、「増えていないと思う」(8.2%)と「どちらかといえば増えていないと思う」(5.8%)を合わせた《増えていないと思う》は14.0%であった。(図表10-4-1)

図表10-4-1 障がい者に配慮した行動をとる人



図表10-4-2 障がい者に配慮した行動をとる人—地域別、性・年代別



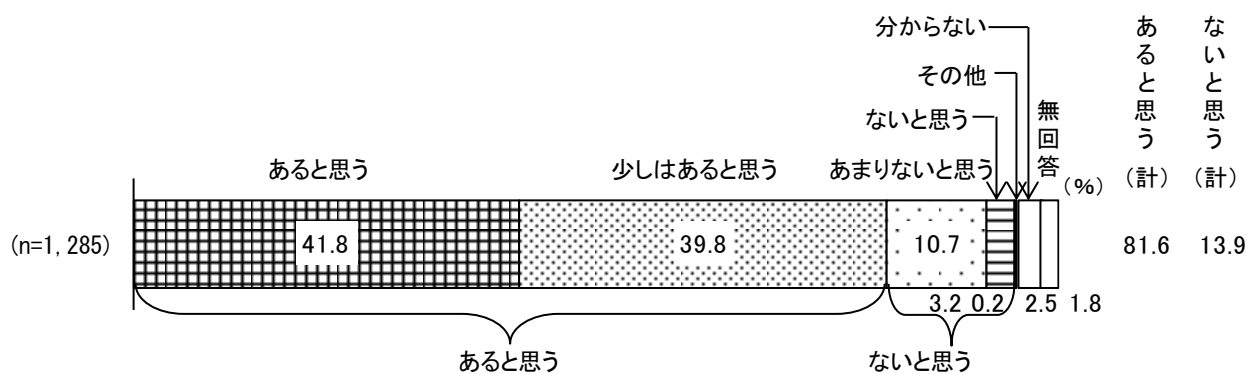
## 5 障がい者への差別・偏見の有無【問35】

### 【全体の状況】

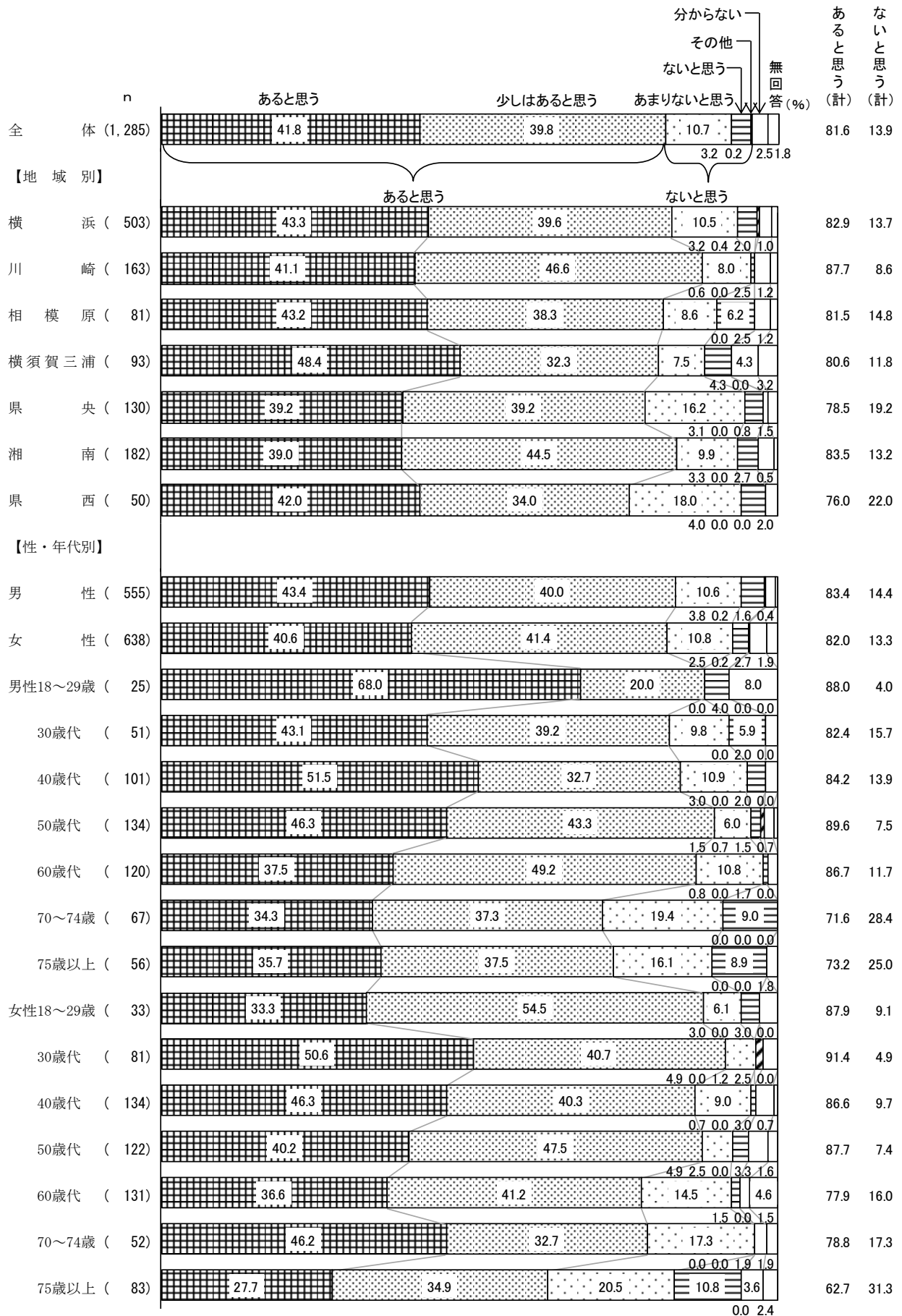
障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(41.8%)と「少しはあると思う」(39.8%)を合わせた《あると思う》は81.6%であった。

一方、「ないと思う」(3.2%)と「あまりないと思う」(10.7%)を合わせた《ないと思う》は13.9%であった。(図表10-5-1)

図表10-5-1 障がい者への差別・偏見の有無



図表10-5-2 障がい者への差別・偏見の有無—地域別、性・年代別

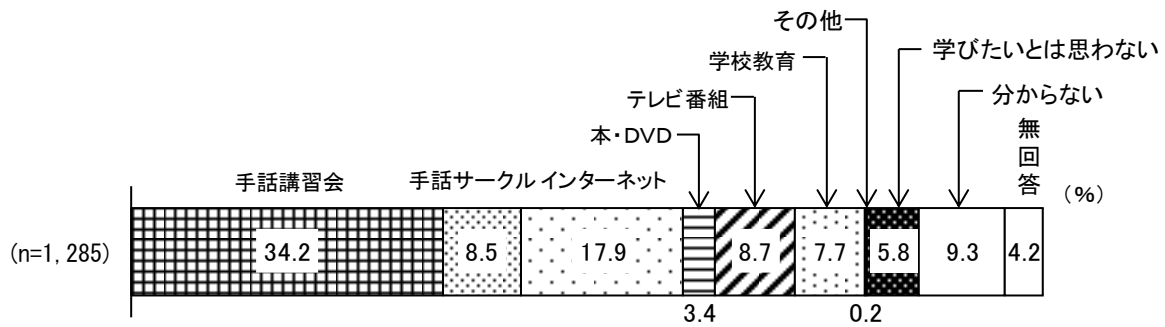


## 6 希望する手話の学習方法【問36】

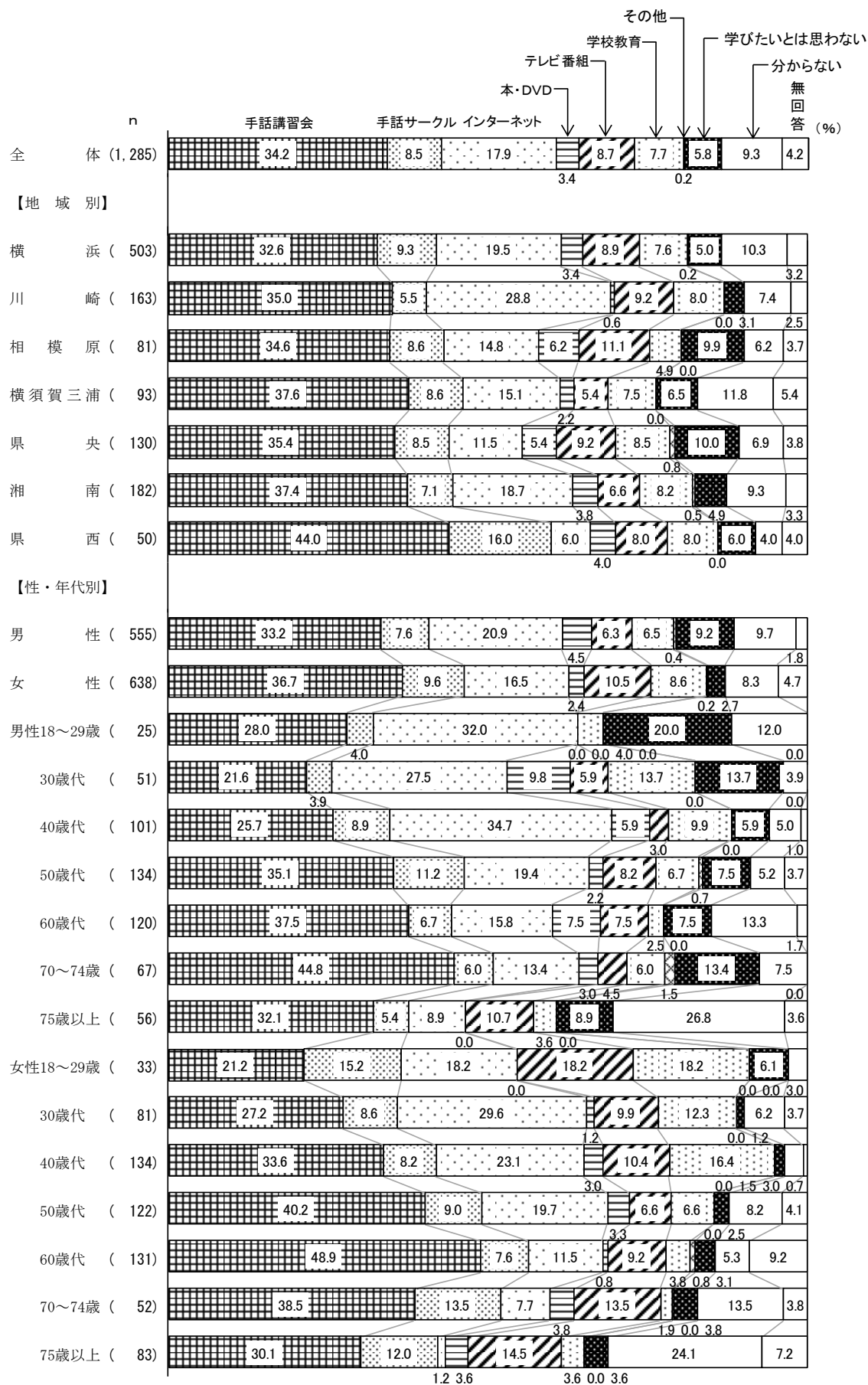
### 【全体の状況】

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が34.2%で最も多く、次いで「インターネット」が17.9%であった。(図表10-6-1)

図表10-6-1 希望する手話の学習方法



図表10-6-2 希望する手話の学習方法—地域別、性・年代別

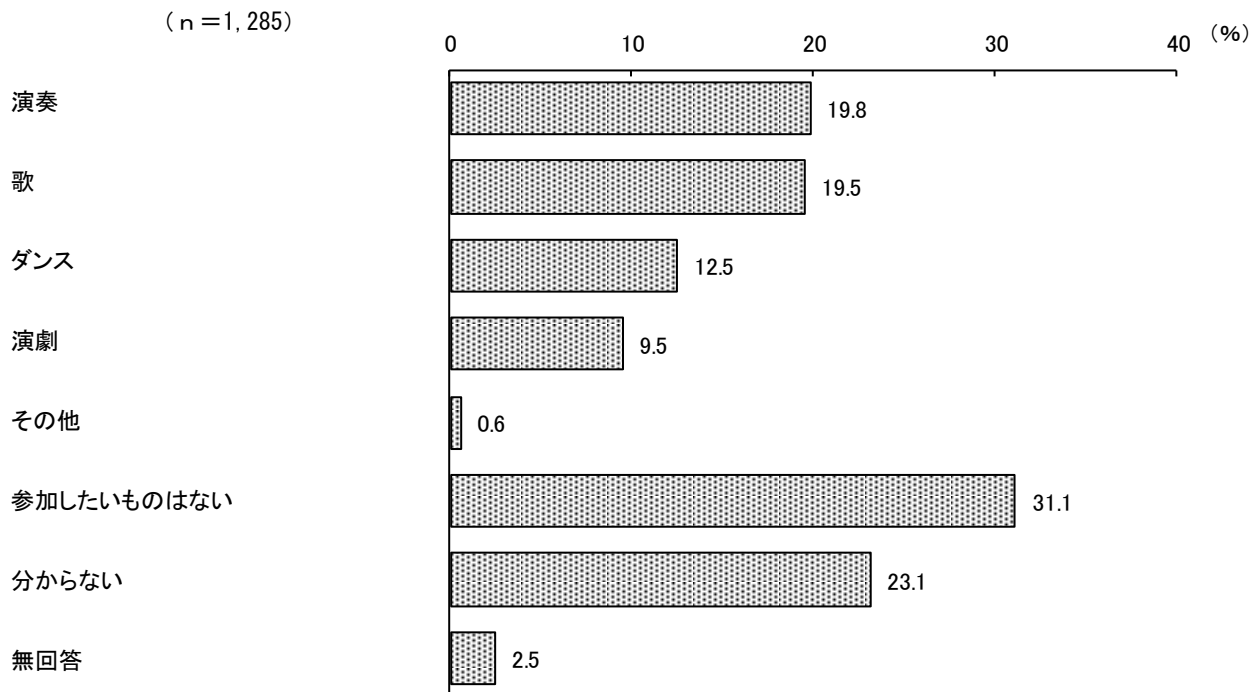


## 7 障がいの程度や状態にかかわらず参加したいと思うワークショップ【問37】

### 【全体の状況】

県で実施している障がいの程度や状態にかかわらず、すべての人が参加できる舞台芸術に関するワークショップのうち参加したいものを複数回答で尋ねたところ、「演奏」が19.8%で最も多く、次いで「歌」が19.5%であった。(図表10-7-1)

図表10-7-1 障がいの程度や状態にかかわらず参加したいと思うワークショップ（複数回答）



図表10-7-2 障がいの程度や状態にかかわらず参加したいと思うワークショップ（複数回答）  
—地域別、性・年代別

		(%)							
	n	演奏	歌	ダンス	演劇	その他	参加したいものはない	分からない	無回答
全体	1,285	19.8	19.5	12.5	9.5	0.6	31.1	23.1	2.5
【地域別】									
横浜	503	19.1	19.9	13.7	9.7	0.8	32.6	20.9	2.0
川崎	163	24.5	17.8	16.6	11.7	1.2	34.4	14.1	2.5
相模原	81	19.8	19.8	8.6	9.9	-	34.6	24.7	2.5
横須賀三浦	93	17.2	20.4	12.9	8.6	-	21.5	29.0	4.3
県央	130	18.5	20.8	5.4	9.2	-	30.0	28.5	0.8
湘南	182	19.2	13.7	14.8	8.8	1.1	33.5	26.4	1.1
県西	50	26.0	24.0	10.0	8.0	-	22.0	30.0	2.0
【性・年代別】									
男性	555	16.9	13.9	8.1	9.7	0.5	38.0	25.0	1.1
女性	638	22.9	23.0	17.1	9.7	0.8	26.0	21.0	2.7
男性18～29歳	25	20.0	16.0	8.0	12.0	-	56.0	4.0	-
30歳代	51	23.5	15.7	9.8	15.7	-	45.1	15.7	-
40歳代	101	13.9	13.9	17.8	12.9	-	36.6	20.8	1.0
50歳代	134	20.9	14.9	7.5	10.4	-	37.3	21.6	0.7
60歳代	120	15.0	8.3	3.3	7.5	0.8	38.3	34.2	-
70～74歳	67	20.9	17.9	4.5	7.5	-	34.3	26.9	3.0
75歳以上	56	5.4	16.1	5.4	3.6	3.6	30.4	37.5	3.6
女性18～29歳	33	30.3	18.2	24.2	6.1	-	30.3	9.1	-
30歳代	81	32.1	16.0	21.0	17.3	-	34.6	13.6	-
40歳代	134	31.3	29.1	25.4	9.7	-	19.4	16.4	-
50歳代	122	18.0	23.8	14.8	7.4	1.6	33.6	18.9	0.8
60歳代	131	23.7	22.9	16.8	10.7	2.3	19.8	24.4	3.8
70～74歳	52	11.5	23.1	5.8	7.7	-	30.8	26.9	5.8
75歳以上	83	10.8	21.7	8.4	7.2	-	20.5	34.9	9.6



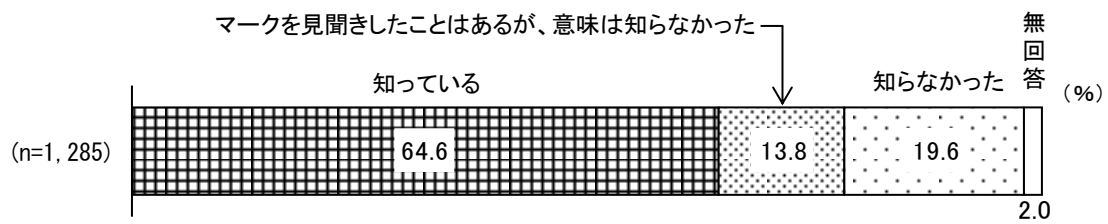
## 8 「ヘルプマーク」の認知度【問38】

### 【全体の状況】

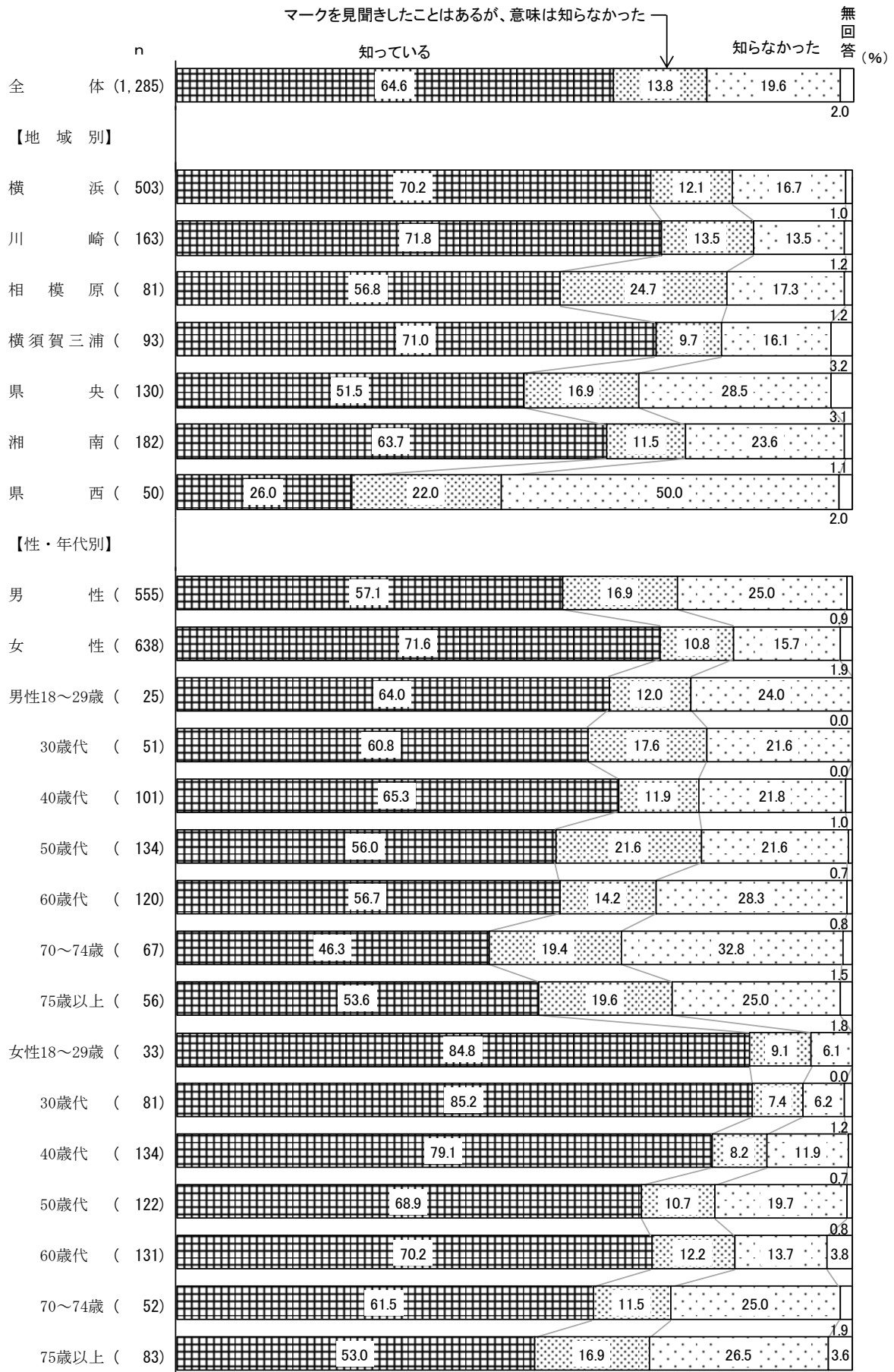
「ヘルプマーク」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が64.6%であった。また、「マークを見聞きしたことはあるが、意味は知らなかった」が13.8%であった。

一方、「知らなかった」が19.6%であった。(図表10-8-1)

図表10-8-1 「ヘルプマーク」の認知度



図表10-8-2 「ヘルプマーク」の認知度—地域別、性・年代別



## 第11章 生活に不安や課題がある人への支援【問39～問41】

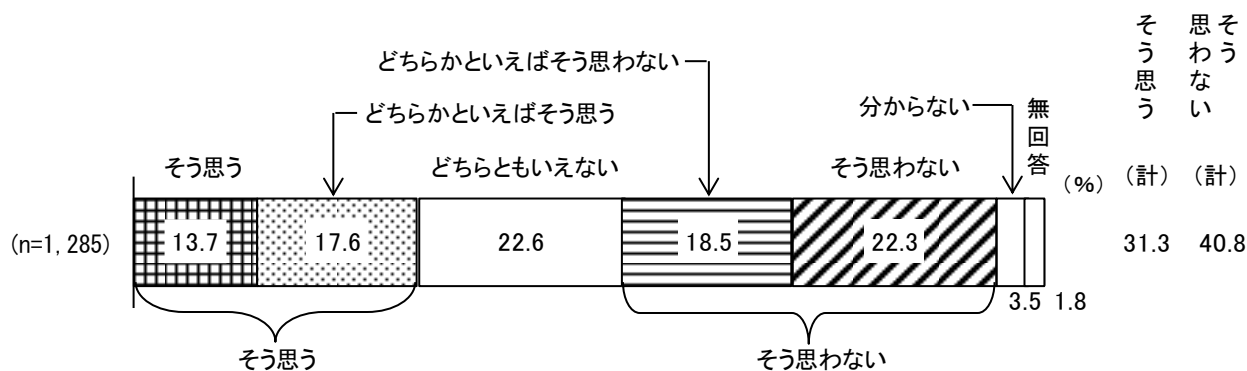
### 1 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度【問39】

#### 【全体の状況】

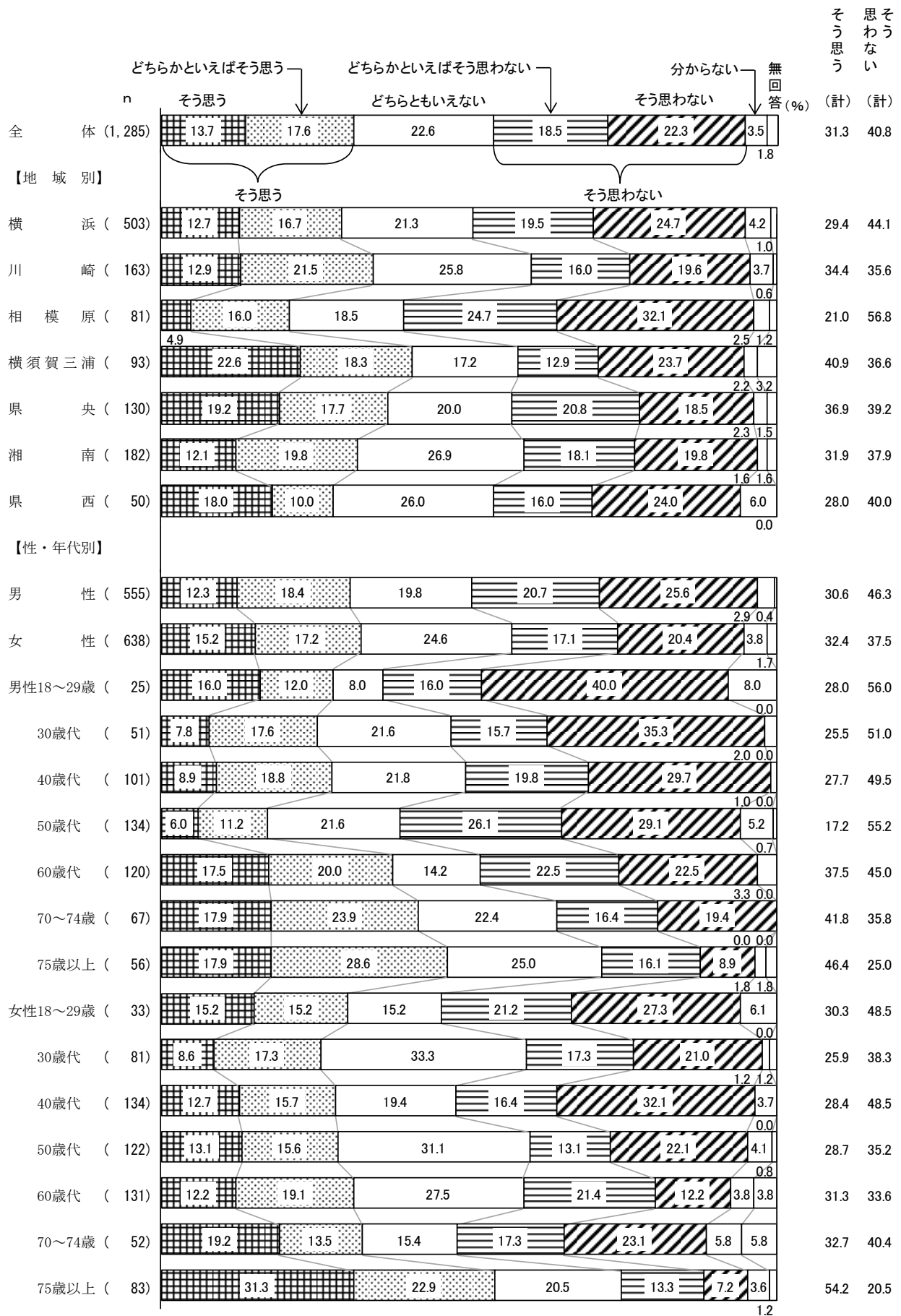
私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思うか尋ねたところ、「そう思う」(13.7%)と「どちらかといえばそう思う」(17.6%)を合わせた《そう思う》は31.3%であった。

一方、「そう思わない」(22.3%)と「どちらかといえばそう思わない」(18.5%)を合わせた《そう思わない》は40.8%であった。(図表11-1-1)

図表11-1-1 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度



図表11-1-2 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度—地域別、性・年代別



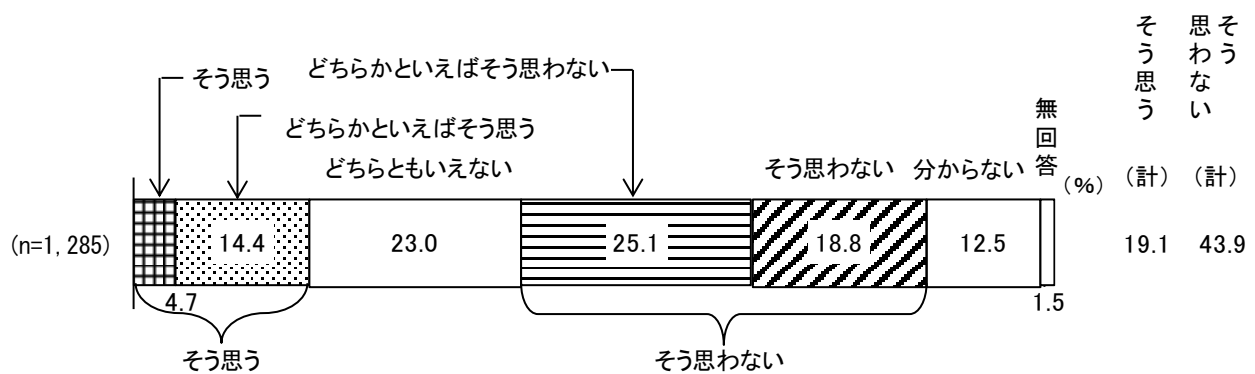
## 2 ひとり親家庭への支援状況【問40】

### 【全体の状況】

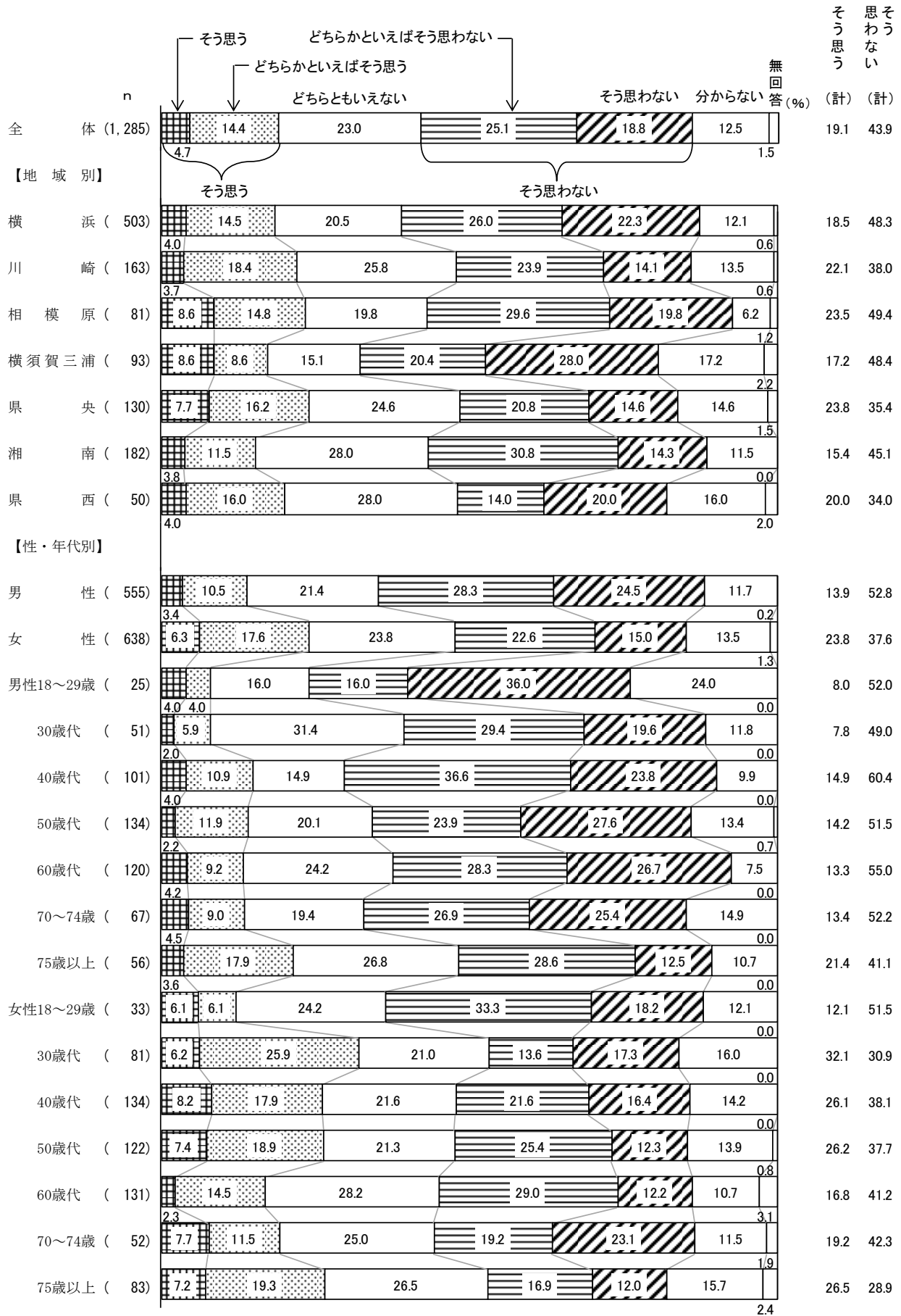
ひとり親家庭を社会全体で支援できていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(4.7%)と「どちらかといえばそう思う」(14.4%)を合わせた《そう思う》は19.1%であった。

一方、「そう思わない」(18.8%)と「どちらかといえばそう思わない」(25.1%)を合わせた《そう思わない》は43.9%であった。(図表11-2-1)

図表11-2-1 ひとり親家庭への支援状況



図表11-2-2 ひとり親家庭への支援状況—地域別、性・年代別



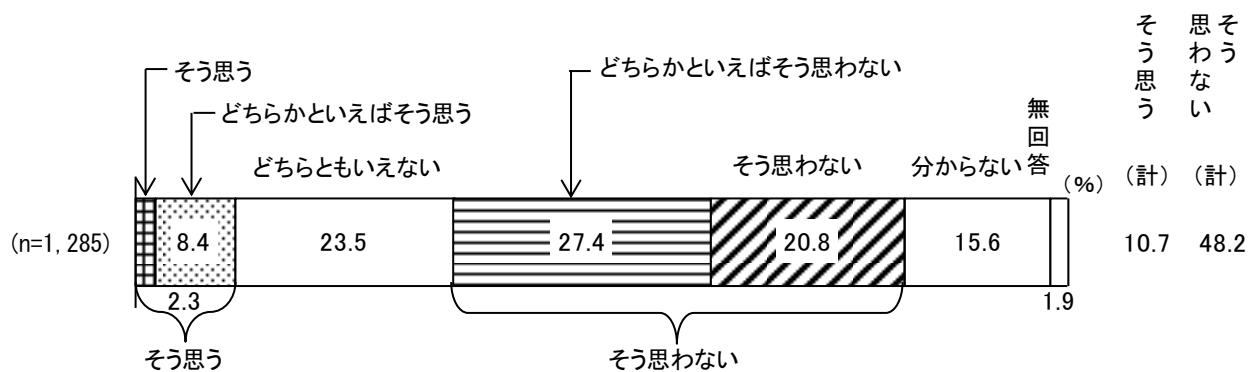
### 3 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況【問41】

#### 【全体の状況】

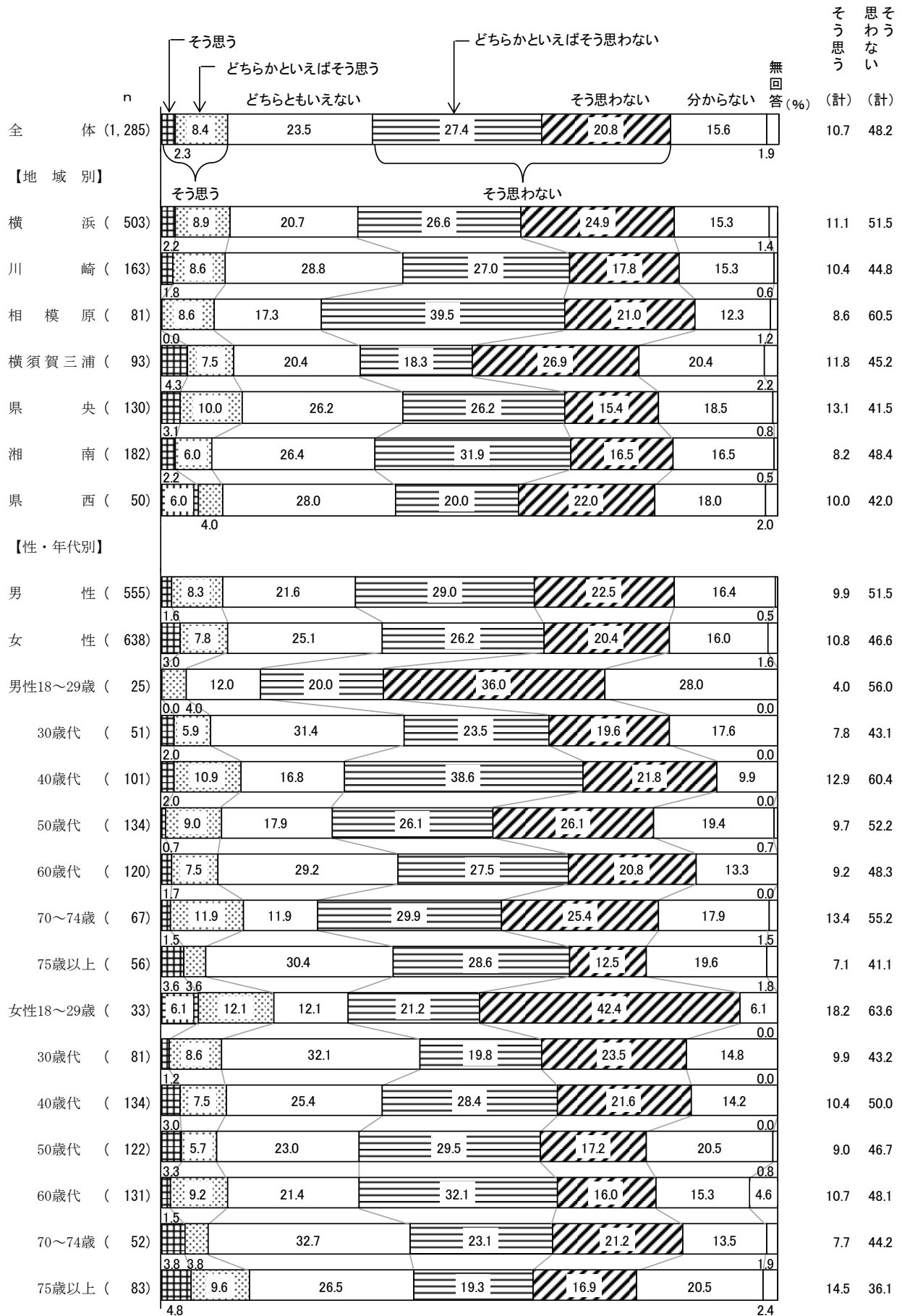
日々の生活に悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(2.3%)と「どちらかといえばそう思う」(8.4%)を合わせた《そう思う》は10.7%であった。

一方、「そう思わない」(20.8%)と「どちらかといえばそう思わない」(27.4%)を合わせた《そう思わない》は48.2%であった。(図表 11-3-1)

図表11-3-1 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況



図表11-3-2 日々の生活に悩みや課題を抱える女性への支援状況—地域別、性・年代別





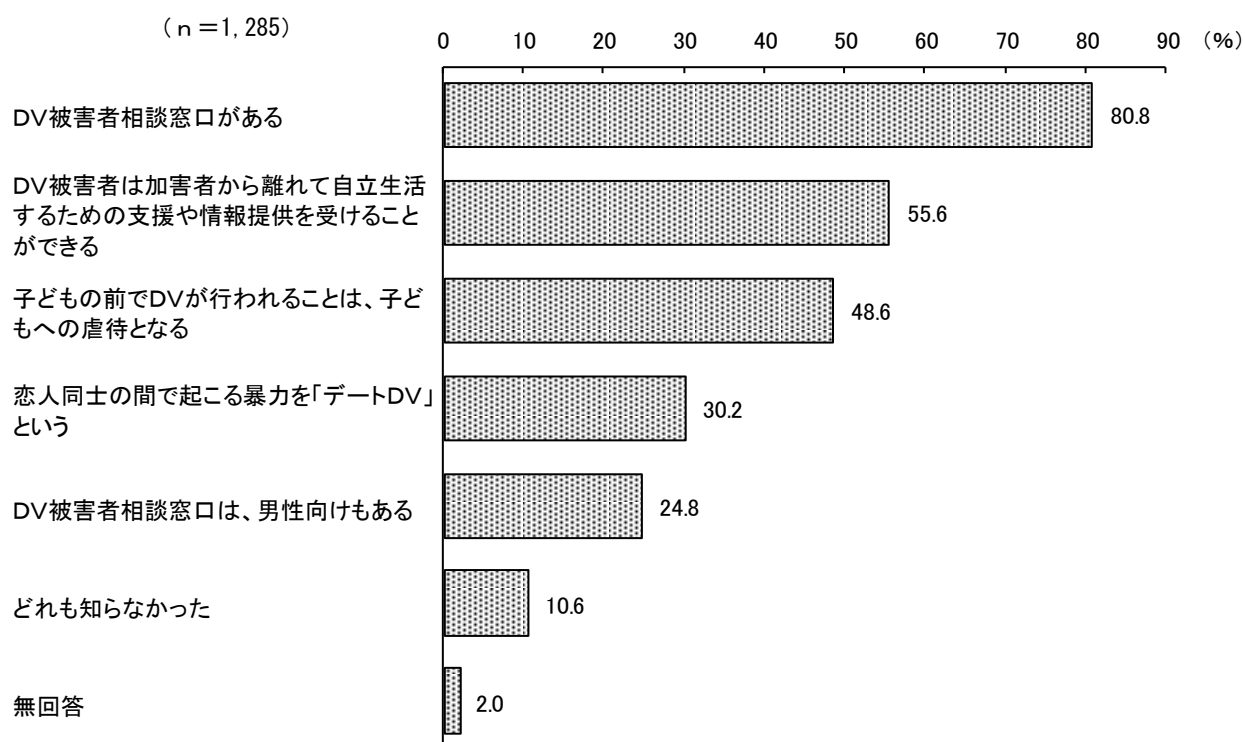
## 第12章 配偶者等からの暴力【問42】

### 1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと【問42】

#### 【全体の状況】

配偶者等からの暴力（DV）について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が80.8%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が55.6%であった。（図表12-1-1）

図表12-1-1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）



図表12-1-2 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	D V 被 害 者 相 談 窓 口 が あ る	立 生 活 す る こ と が で き る 支 援 や 情 報 提 供	D V 被 害 者 は 加 害 者 か ら 離 れ て 自 立 す る た め の 支 援 が あ る	子 ど も の 前 で D V が 行 わ れ る こ と は 、 子 ど も へ の 虐 待 と な る	「 デ ー ト D V 」 と い う 恋 人 同 士 の 間 で 起 こ る 暴 力 を	D V 被 害 者 相 談 窓 口 は 、 男 性 向 け も あ る	ど れ も 知 ら な か つ た	無 回 答
全 体	1,285	80.8	55.6	48.6	30.2	24.8	10.6	2.0	
【地 域 別】									
横 浜	503	82.5	57.9	49.3	33.6	25.2	10.1	1.0	
川 崎	163	82.2	58.9	49.1	33.1	27.6	9.8	1.2	
相 模 原	81	80.2	46.9	43.2	34.6	29.6	13.6	2.5	
横 須 賀 三 浦	93	79.6	57.0	57.0	35.5	25.8	9.7	2.2	
県 央	130	77.7	52.3	50.8	22.3	22.3	11.5	2.3	
湘 南	182	83.5	57.7	44.5	26.9	25.3	11.0	0.5	
県 西	50	82.0	54.0	42.0	18.0	16.0	10.0	2.0	
【性・年代別】									
男 性	555	77.5	49.2	43.8	26.8	22.2	13.7	0.7	
女 性	638	85.3	62.7	52.5	34.5	28.1	7.8	1.9	
男性18～29歳	25	72.0	40.0	40.0	48.0	36.0	20.0	-	
30歳代	51	72.5	43.1	43.1	33.3	29.4	13.7	-	
40歳代	101	85.1	46.5	47.5	32.7	23.8	10.9	-	
50歳代	134	77.6	54.5	46.3	35.1	19.4	10.4	0.7	
60歳代	120	78.3	49.2	47.5	20.8	19.2	10.0	0.8	
70～74歳	67	77.6	50.7	44.8	19.4	22.4	16.4	3.0	
75歳以上	56	69.6	50.0	25.0	3.6	19.6	26.8	-	
女性18～29歳	33	78.8	39.4	48.5	45.5	12.1	15.2	-	
30歳代	81	88.9	53.1	58.0	40.7	33.3	7.4	-	
40歳代	134	91.0	67.2	58.2	45.5	40.3	5.2	-	
50歳代	122	88.5	65.6	49.2	45.1	36.1	5.7	0.8	
60歳代	131	86.3	73.3	51.9	29.8	22.1	6.1	2.3	
70～74歳	52	86.5	67.3	48.1	7.7	19.2	7.7	1.9	
75歳以上	83	67.5	49.4	49.4	15.7	10.8	15.7	8.4	

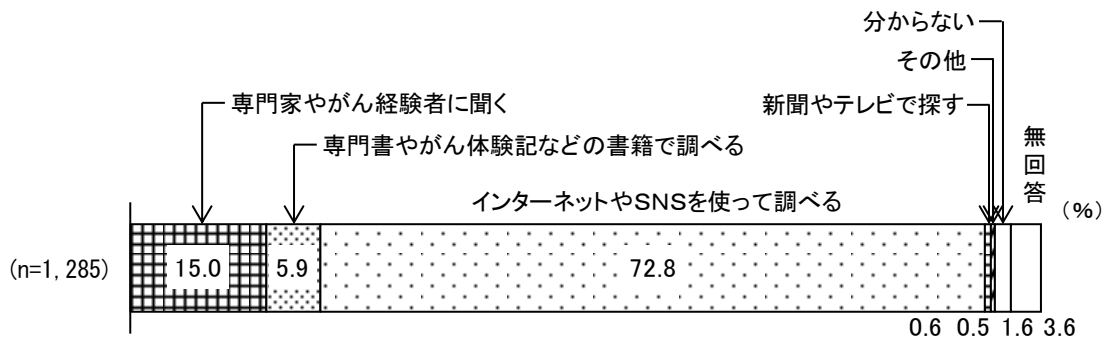
## 第13章 がん対策【問43～問45】

### 1 身近な人ががんになったときの対応【問43】

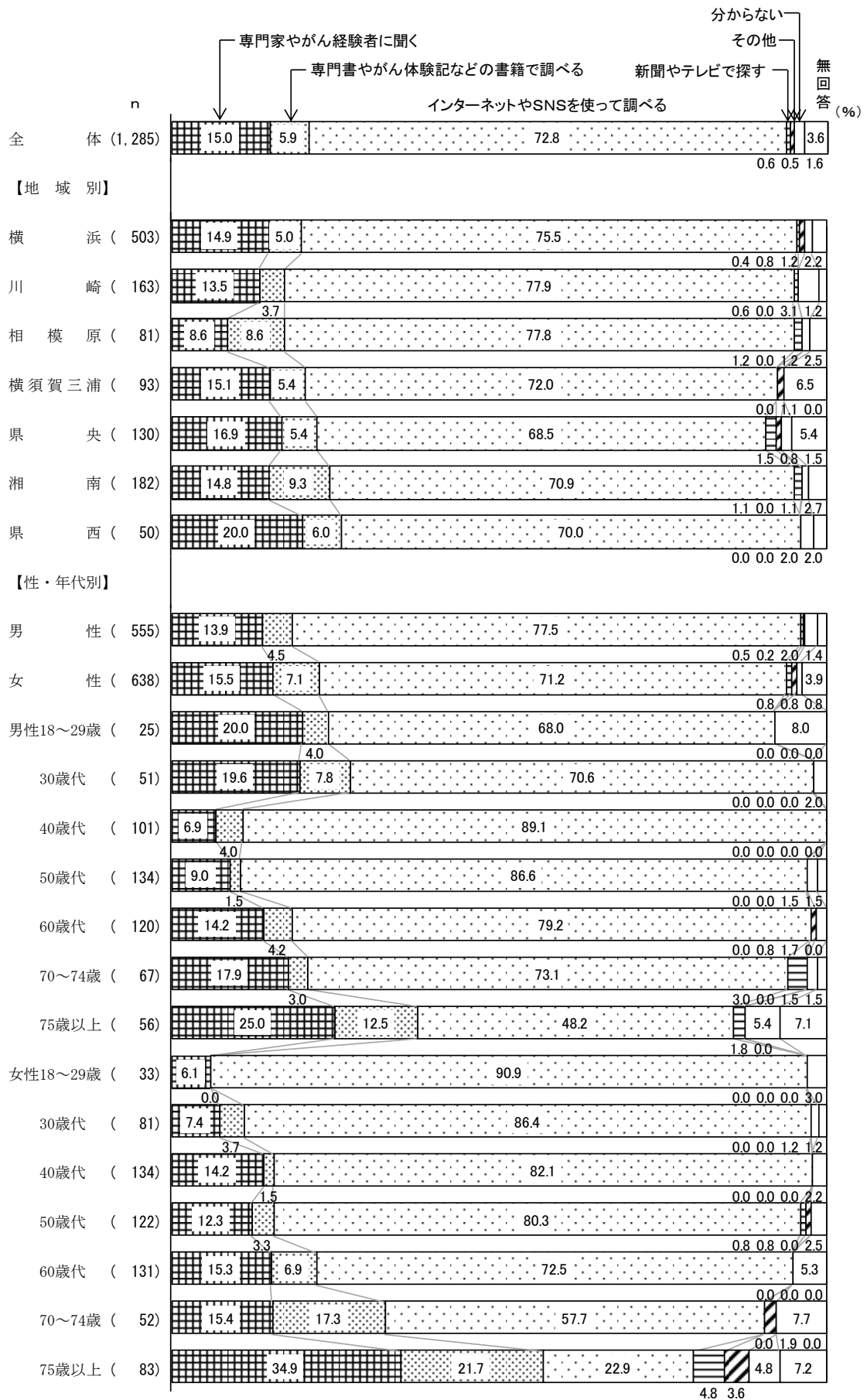
#### 【全体の状況】

身近な人ががんになって、がんのことを調べようと思った場合、最初にどうするか尋ねたところ、「インターネットやSNSを使って調べる」が72.8%で最も多く、次いで「専門家やがん経験者に聞く」が15.0%であった。（図表13-1-1）

図表13-1-1 身近な人ががんになったときの対応



図表13-1-2 身近な人ががんになったときの対応—地域別、性・年代別

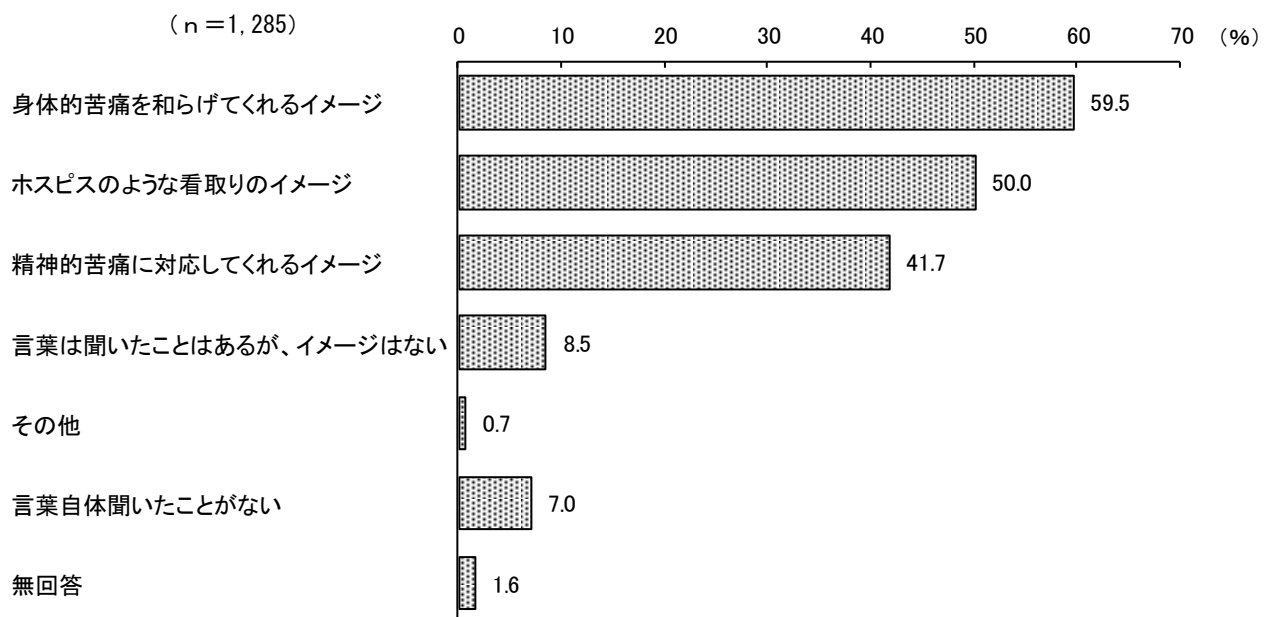


## 2 「緩和ケア」に対するイメージ【問44】

### 【全体の状況】

「緩和ケア」についてどのようなイメージを持っているか複数回答で尋ねたところ、「身体的苦痛を和らげてくれるイメージ」が59.5%で最も多く、次いで「ホスピスのような看取りのイメージ」が50.0%であった。(図表13-2-1)

図表13-2-1 「緩和ケア」に対するイメージ（複数回答）



図表13-2-2 「緩和ケア」のイメージ（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	身体的苦痛を和らげてくれるイメージ	ホスピスのような看取りのイメージ	精神的苦痛に対応してくれるイメージ	言葉は聞いたことはあるが、イメージはない	その他	言葉自体聞いたことがない	無回答
全体	1,285	59.5	50.0	41.7	8.5	0.7	7.0	1.6
【地域別】								
横浜	503	61.4	53.1	39.2	7.8	1.0	5.8	0.8
川崎	163	62.6	50.9	46.6	9.2	0.6	6.7	0.6
相模原	81	67.9	53.1	44.4	7.4	-	6.2	1.2
横須賀三浦	93	58.1	50.5	48.4	7.5	-	6.5	2.2
県央	130	50.8	43.8	38.5	10.8	0.8	13.1	0.8
湘南	182	59.3	47.3	48.9	7.1	0.5	7.1	-
県西	50	52.0	52.0	30.0	6.0	-	18.0	4.0
【性・年代別】								
男性	555	55.7	43.2	39.1	11.0	0.4	11.9	0.2
女性	638	63.8	57.2	45.3	5.3	0.9	3.8	1.4
男性18～29歳	25	28.0	20.0	20.0	16.0	-	40.0	-
30歳代	51	43.1	31.4	25.5	7.8	2.0	31.4	-
40歳代	101	61.4	45.5	44.6	7.9	-	7.9	-
50歳代	134	56.7	50.7	41.8	9.0	-	6.0	0.7
60歳代	120	55.0	45.8	35.8	12.5	-	9.2	-
70～74歳	67	67.2	49.3	44.8	10.4	-	6.0	-
75歳以上	56	55.4	30.4	44.6	17.9	1.8	16.1	-
女性18～29歳	33	48.5	33.3	54.5	15.2	-	9.1	-
30歳代	81	66.7	48.1	45.7	4.9	2.5	7.4	-
40歳代	134	67.9	59.7	45.5	2.2	0.7	4.5	-
50歳代	122	61.5	63.9	41.0	3.3	0.8	3.3	0.8
60歳代	131	62.6	66.4	41.2	2.3	0.8	0.8	2.3
70～74歳	52	69.2	50.0	40.4	11.5	1.9	1.9	1.9
75歳以上	83	62.7	50.6	56.6	10.8	-	3.6	4.8

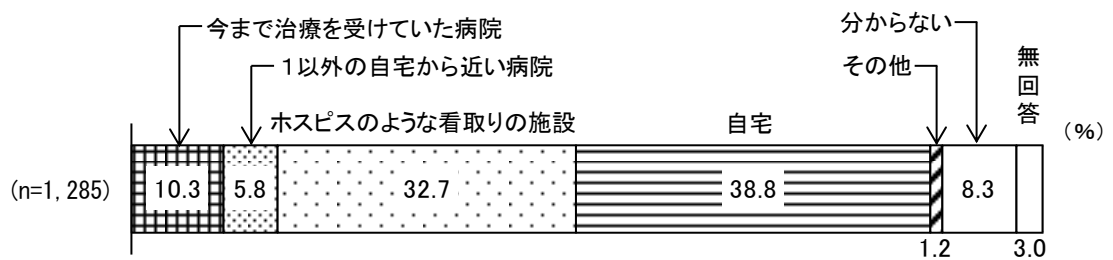
### 3 がんの最終段階だと言われた場合に過ごしたい場所【問45】

#### 【全体の状況】

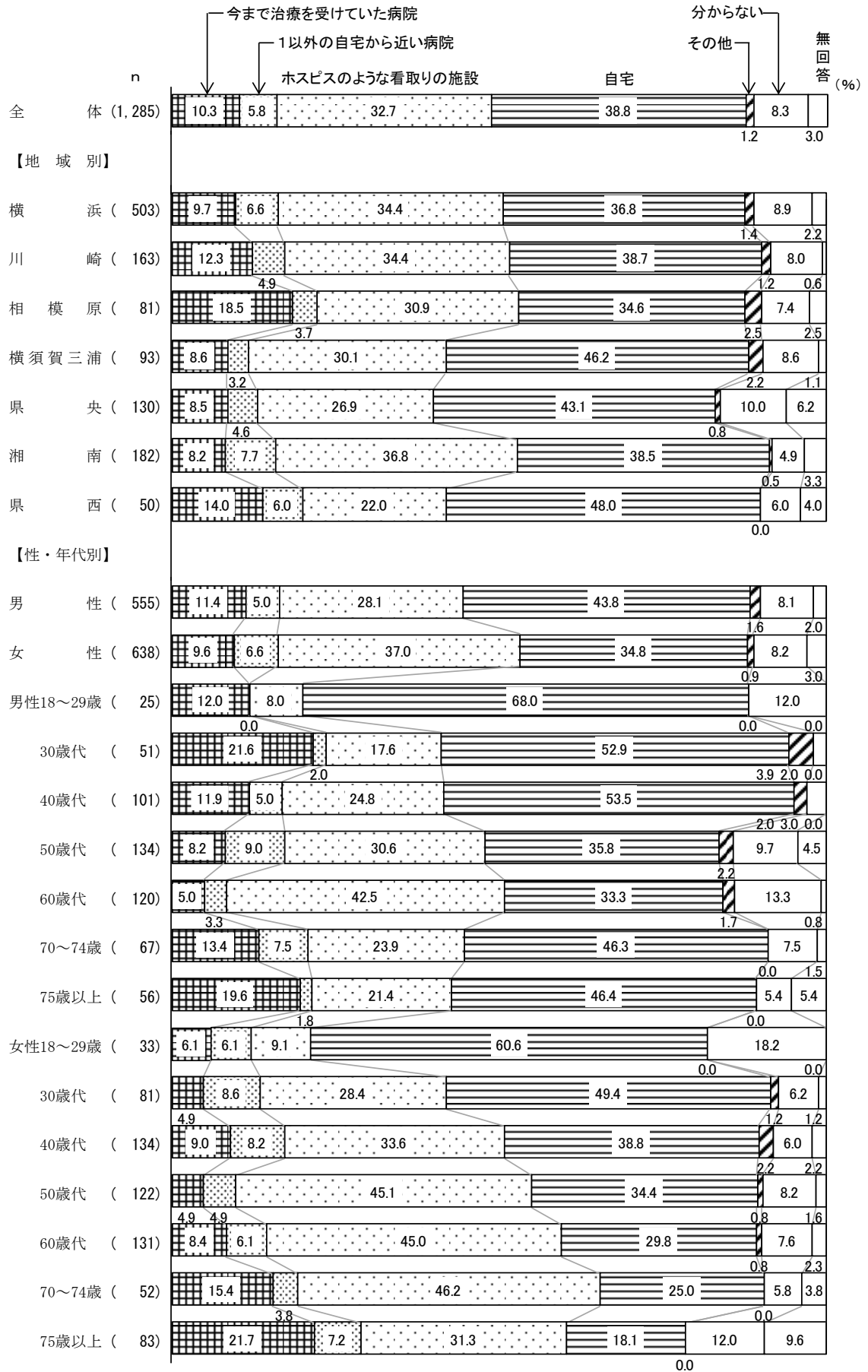
がんになって、治療を続けた後に、最終段階だと言われた場合、どこで過ごしたいか尋ねたところ、「自宅」が38.8%で最も多く、次いで「ホスピスのような看取りの施設」が32.7%であった。

(図表13-3-1)

図表13-3-1 がんの最終段階だと言われた場合に過ごしたい場所



図表13-3-2 がんの最終段階だと言われた場合に過ごしたい場所—地域別、性・年代別





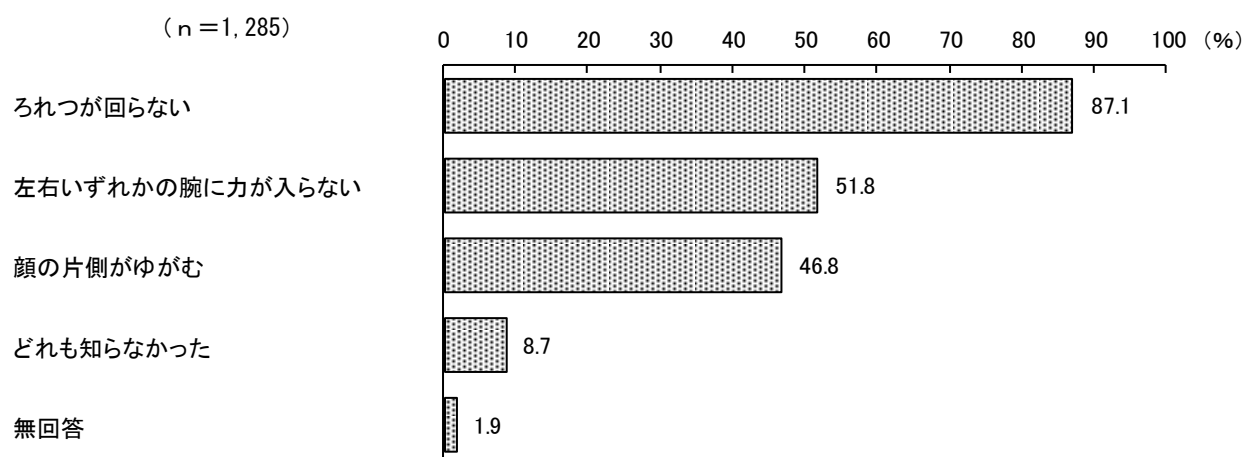
## 第14章 循環器病対策【問46～問48】

### 1 脳卒中の主な初期症状の認知度【問46】

#### 【全体の状況】

脳卒中の主な初期症状について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「ろれつが回らない」が87.1%で最も多く、次いで「左右いずれかの腕に力が入らない」が51.8%であった。(図表14-1-1)

図表14-1-1 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）



図表14-1-2 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	ろれつが回らない	左右いずれかの腕に力が入らない	顔の片側がゆがむ	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,285	87.1	51.8	46.8	8.7	1.9
<b>【地 域 別】</b>						
横 浜	503	86.9	55.3	48.5	9.9	1.8
川 崎	163	93.3	49.1	49.7	6.1	-
相 模 原	81	84.0	46.9	45.7	11.1	1.2
横 須 賀 三 浦	93	82.8	52.7	40.9	14.0	-
県 央	130	83.8	52.3	53.8	9.2	4.6
湘 南	182	86.8	48.4	40.7	7.7	2.2
県 西	50	88.0	36.0	44.0	4.0	2.0
<b>【性・年代別】</b>						
男 性	555	86.5	46.1	42.9	10.5	1.6
女 性	638	87.5	56.4	50.5	8.0	1.7
男性18~29歳	25	64.0	32.0	44.0	36.0	-
30 歳 代	51	80.4	31.4	31.4	17.6	-
40 歳 代	101	90.1	43.6	40.6	8.9	-
50 歳 代	134	86.6	40.3	39.6	7.5	3.7
60 歳 代	120	93.3	54.2	45.0	5.8	-
70~74歳	67	89.6	59.7	58.2	6.0	3.0
75歳以上	56	78.6	51.8	42.9	16.1	3.6
女性18~29歳	33	66.7	39.4	24.2	24.2	-
30 歳 代	81	77.8	40.7	37.0	21.0	-
40 歳 代	134	91.0	58.2	50.0	5.2	2.2
50 歳 代	122	91.0	57.4	47.5	4.1	0.8
60 歳 代	131	93.9	71.0	62.6	2.3	0.8
70~74歳	52	90.4	65.4	59.6	9.6	-
75歳以上	83	81.9	45.8	53.0	7.2	7.2

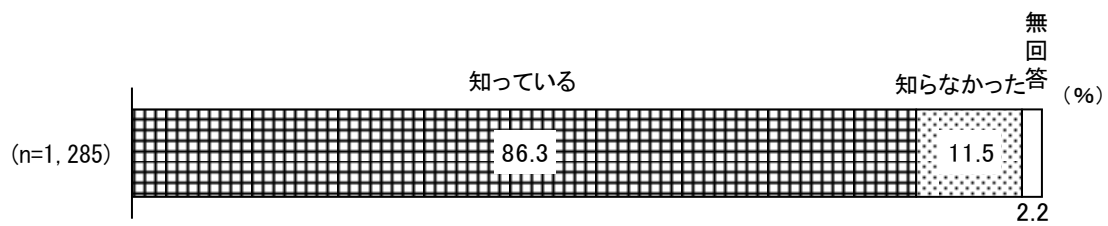
## 2 脳卒中への適切な対応の認知度【問47】

### 【全体の状況】

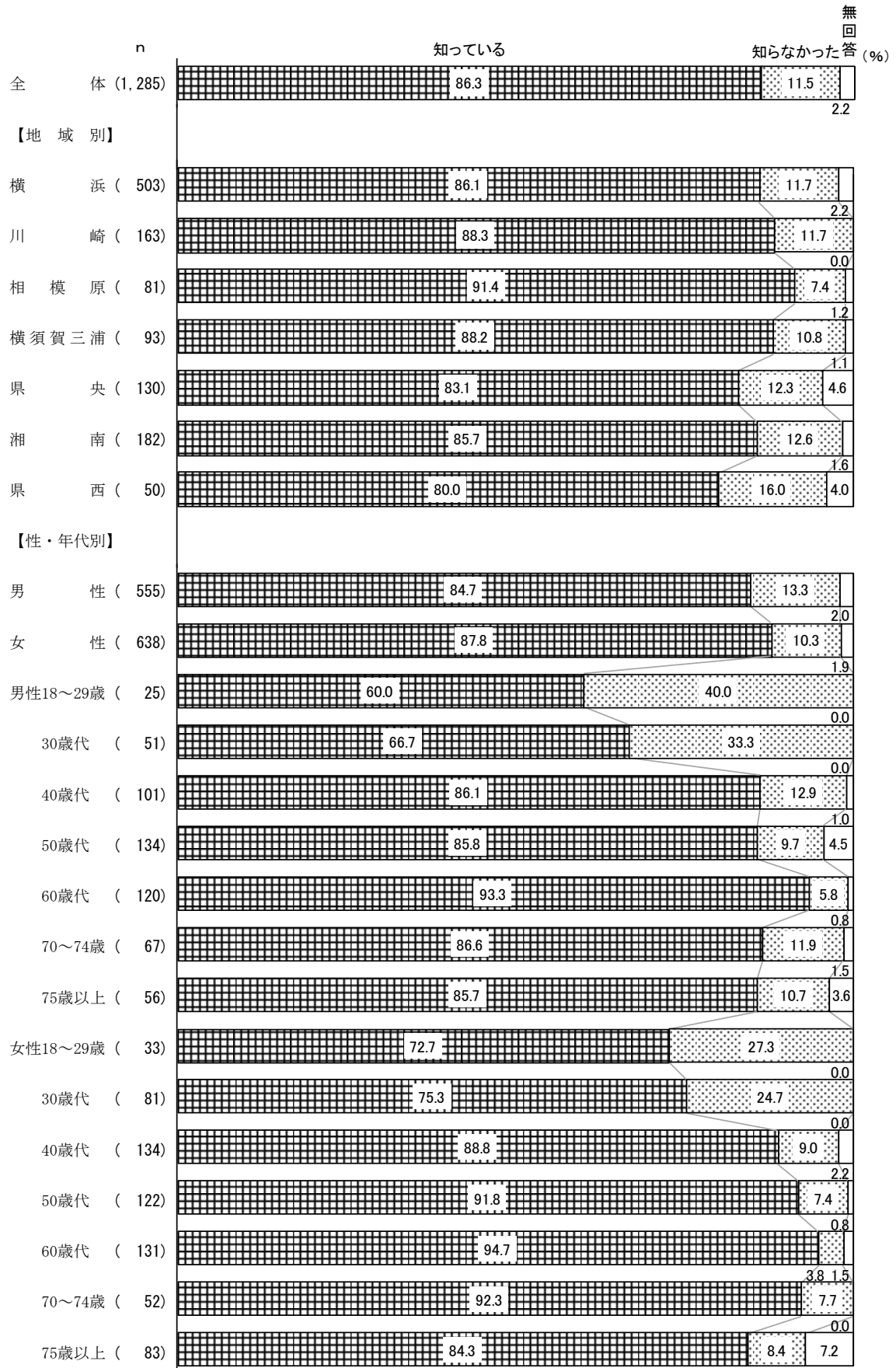
脳卒中は、発症後すぐに救急車を呼ぶなど、医療機関で適切な治療を行えば、後遺症を含めたその後の状態が改善される可能性が高まることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が86.3%であった。

一方、「知らなかった」が11.5%であった。(図表14-2-1)

図表14-2-1 脳卒中への適切な対応の認知度



図表14-2-2 脳卒中への適切な対応の認知度  
—地域別、性・年代別



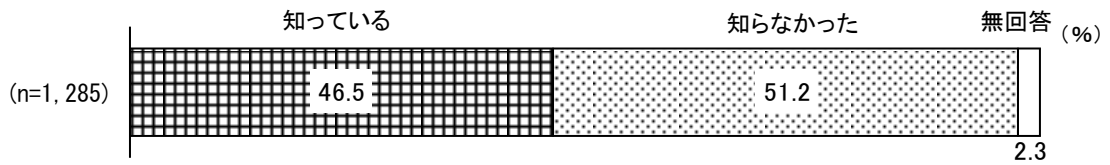
### 3 心臓病の再発防止対策の認知度【問48】

#### 【全体の状況】

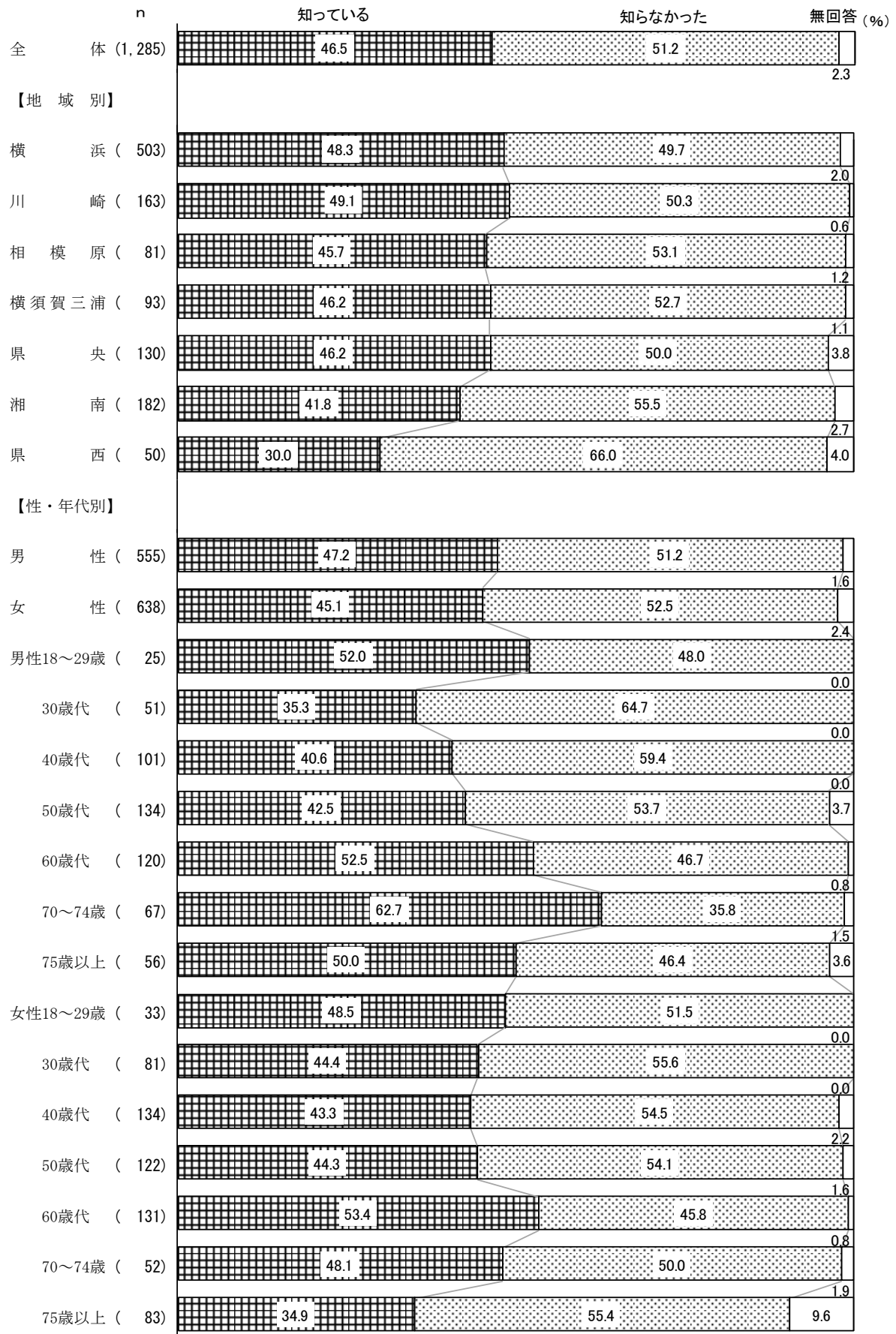
心臓病の再発を防ぐためには、治療後の適度な運動療法を中心としたリハビリテーションが重要であるか知っているか尋ねたところ、「知っている」が46.5%であった。

一方、「知らなかった」が51.2%であった。(図表14-3-1)

図表14-3-1 心臓病の再発防止対策の認知度



図表14-3-2 心臓病の再発防止対策の認知度—地域別、性・年代別



## 第15章 スポーツ【問49～問52】

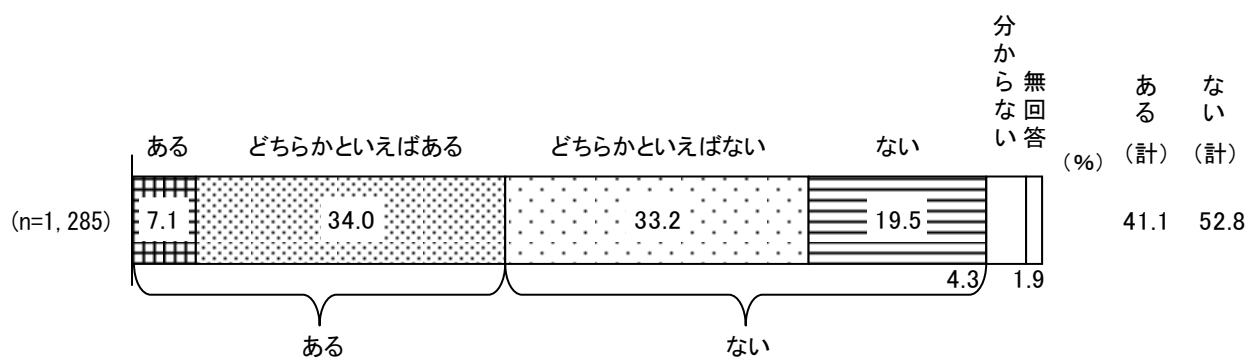
### 1 体力への自信の有無【問49】

#### 【全体の状況】

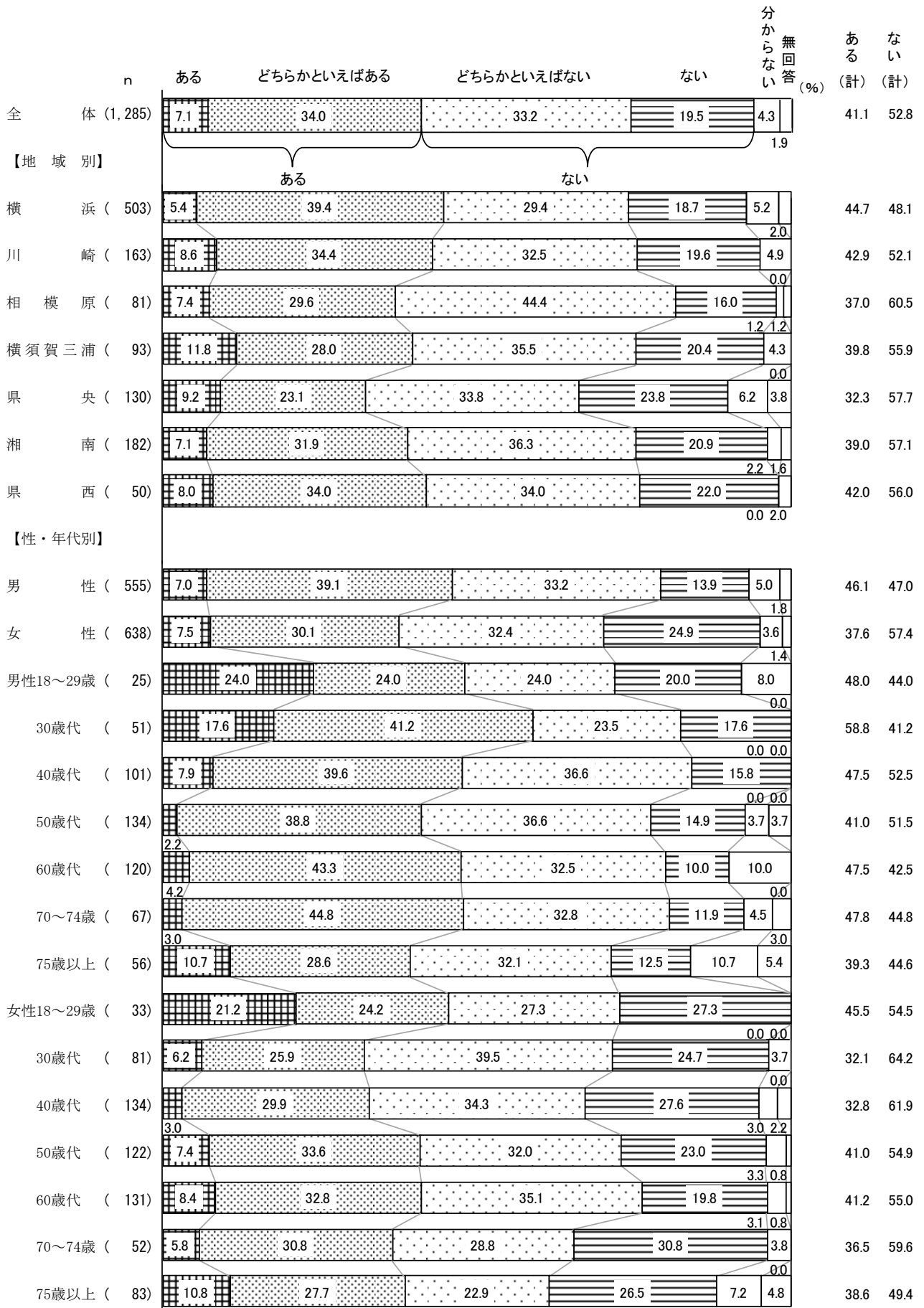
体力に自信があるか尋ねたところ、「ある」(7.1%)と「どちらかといえばある」(34.0%)を合わせた《ある》は41.1%であった。

一方、「ない」(19.5%)と「どちらかといえばない」(33.2%)を合わせた《ない》は52.8%であった。(図表15-1-1)

図表15-1-1 体力への自信の有無



図表15-1-2 体力への自信の有無—地域別、性・年代別



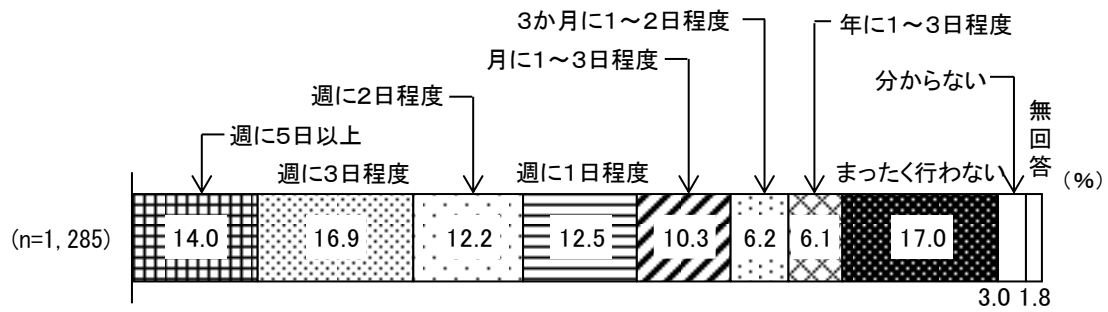


## 2 1年間のスポーツ実施日数【問50】

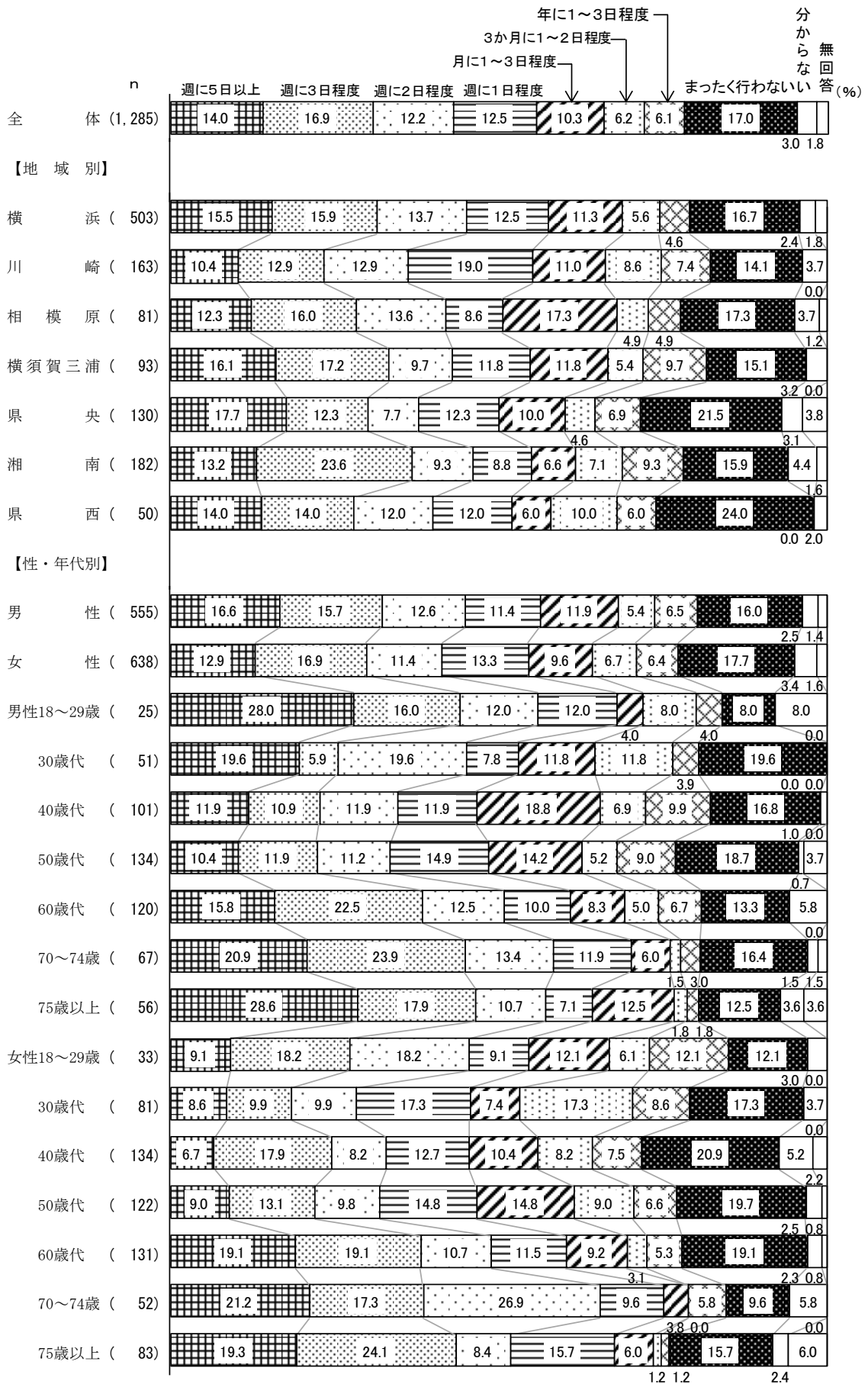
### 【全体の状況】

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「まったく行わない」が17.0%で最も多く、次いで「週に3日程度」が16.9%であった。(図表15-2-1)

図表15-2-1 1年間のスポーツ実施日数



図表15-2-2 1年間のスポーツ実施日数—地域別、性・年代別



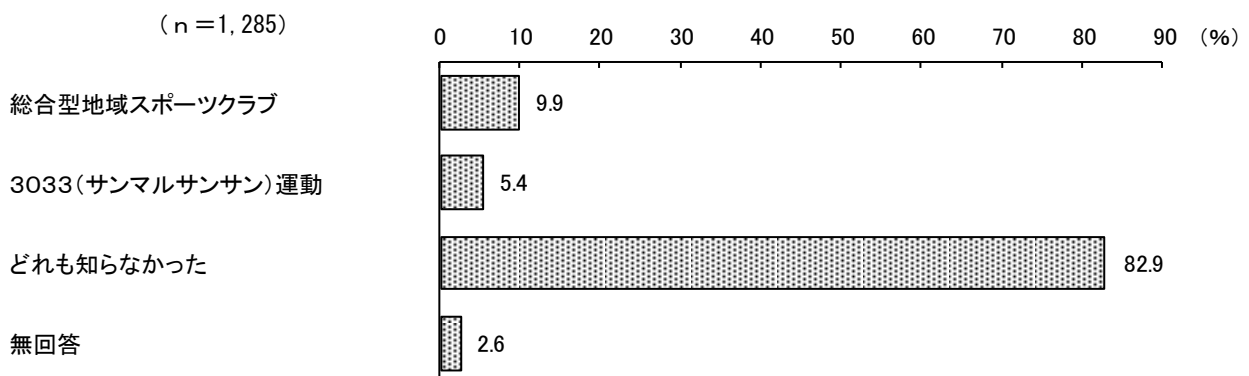
### 3 スポーツ推進に係る取組みの認知度【問51】

#### 【全体の状況】

スポーツ推進に係る取組みについて、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「総合型地域スポーツクラブ」が9.9%、「3033（サンマルサンサン）運動」が5.4%であった。

一方、「どれも知らなかった」が82.9%であった。（図表15-3-1）

図表15-3-1 スポーツ推進に係る取組みの認知度（複数回答）



図表15-3-2 スポーツ推進に係る取組みの認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	総合型地域スポーツクラブ	動 3 0 3 3 (サンマルサンサン) 運	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,285	9.9	5.4	82.9	2.6
【地 域 別】					
横 浜	503	10.7	3.4	84.3	2.2
川 崎	163	11.0	3.7	86.5	-
相 模 原	81	7.4	4.9	86.4	1.2
横 須 賀 三 浦	93	8.6	8.6	82.8	-
県 央	130	8.5	8.5	78.5	5.4
湘 南	182	8.2	6.0	81.9	4.4
県 西	50	14.0	16.0	74.0	4.0
【性・年代別】					
男 性	555	8.1	5.2	85.6	2.0
女 性	638	11.4	5.6	81.2	2.7
男性18～29歳	25	4.0	8.0	92.0	-
30歳代	51	7.8	5.9	86.3	2.0
40歳代	101	7.9	3.0	89.1	-
50歳代	134	8.2	5.2	83.6	3.7
60歳代	120	6.7	4.2	89.2	0.8
70～74歳	67	11.9	6.0	80.6	1.5
75歳以上	56	8.9	8.9	78.6	5.4
女性18～29歳	33	6.1	6.1	87.9	-
30歳代	81	8.6	3.7	88.9	-
40歳代	134	4.5	4.5	88.1	3.0
50歳代	122	9.8	4.1	86.1	0.8
60歳代	131	16.0	9.9	74.0	2.3
70～74歳	52	25.0	3.8	71.2	-
75歳以上	83	14.5	6.0	69.9	10.8

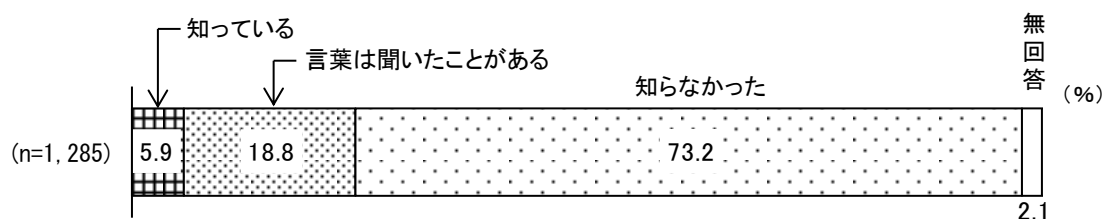
#### 4 「かながわパラスポーツ」の認知度【問52】

##### 【全体の状況】

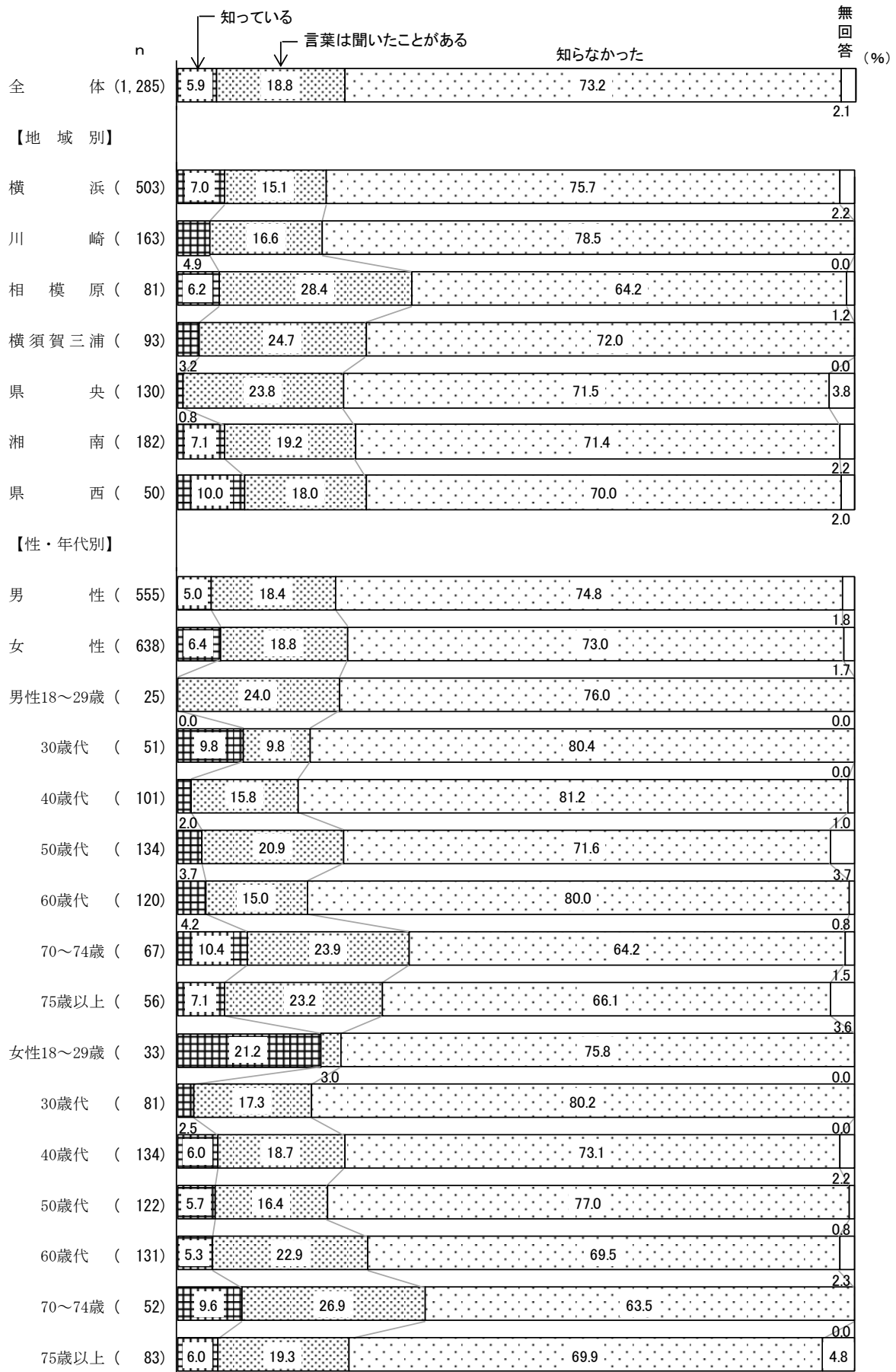
「かながわパラスポーツ」について知っているか尋ねたところ、「知っている」が5.9%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が18.8%であった。

一方、「知らなかった」が73.2%であった。(図表15-4-1)

図表15-4-1 「かながわパラスポーツ」の認知度



図表15-4-2 「かながわパラスポーツ」の認知度—地域別、性・年代別



## 第16章 かながわの広報【問53～問55】

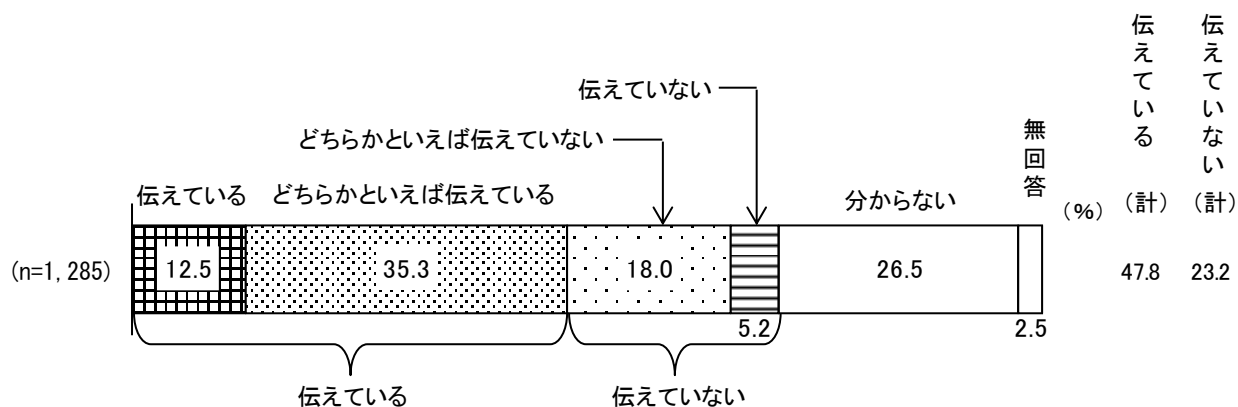
### 1 県の広報の達成度【問53】

#### 【全体の状況】

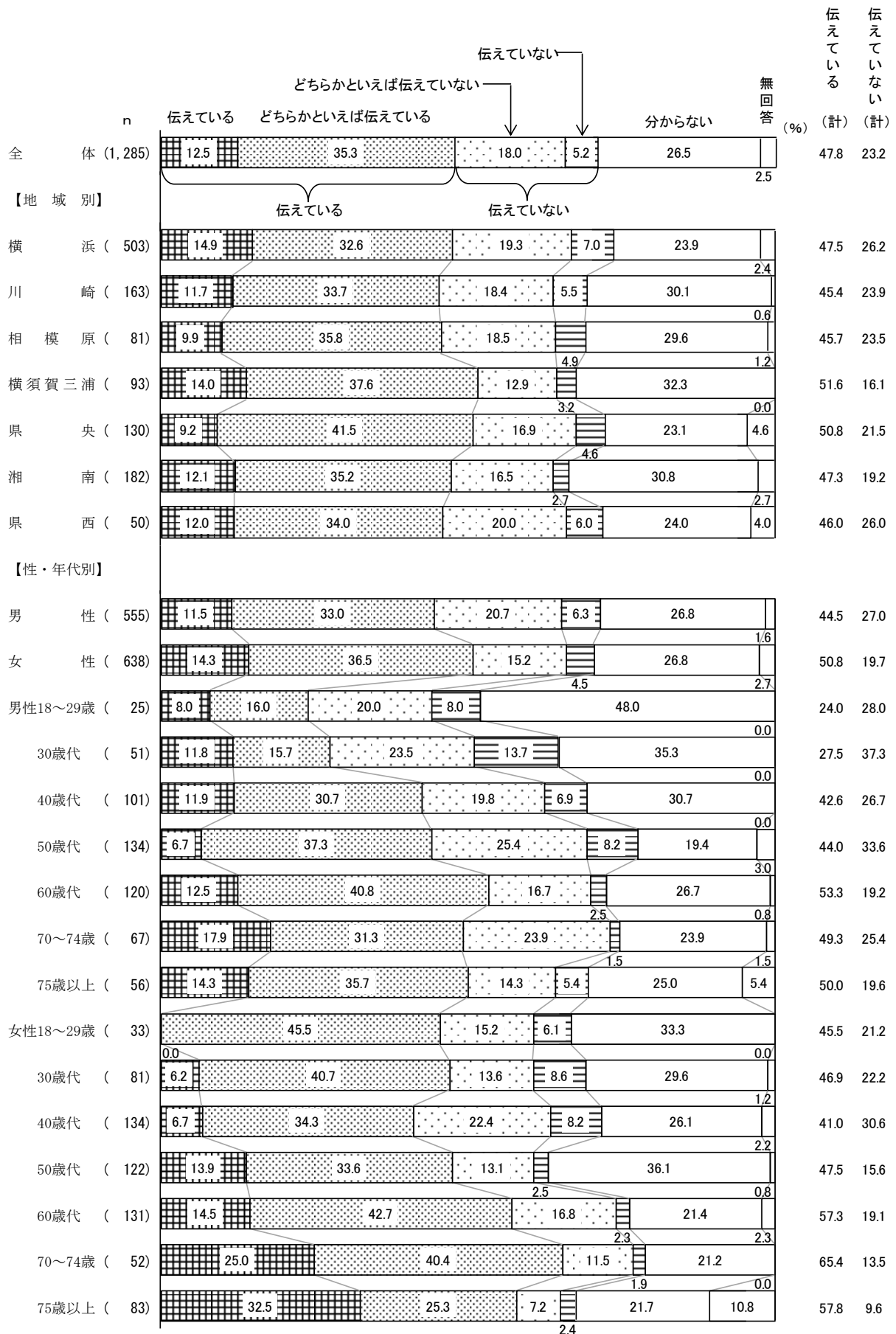
県が県政情報を伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」(12.5%)と「どちらかといえば伝えている」(35.3%)を合わせた《伝えている》は47.8%であった。

一方、「伝えていない」(5.2%)と「どちらかといえば伝えていない」(18.0%)を合わせた《伝えていない》は23.2%であった。(図表16-1-1)

図表16-1-1 県の広報の達成度



図表16-1-2 県の広報の達成度—地域別、性・年代別





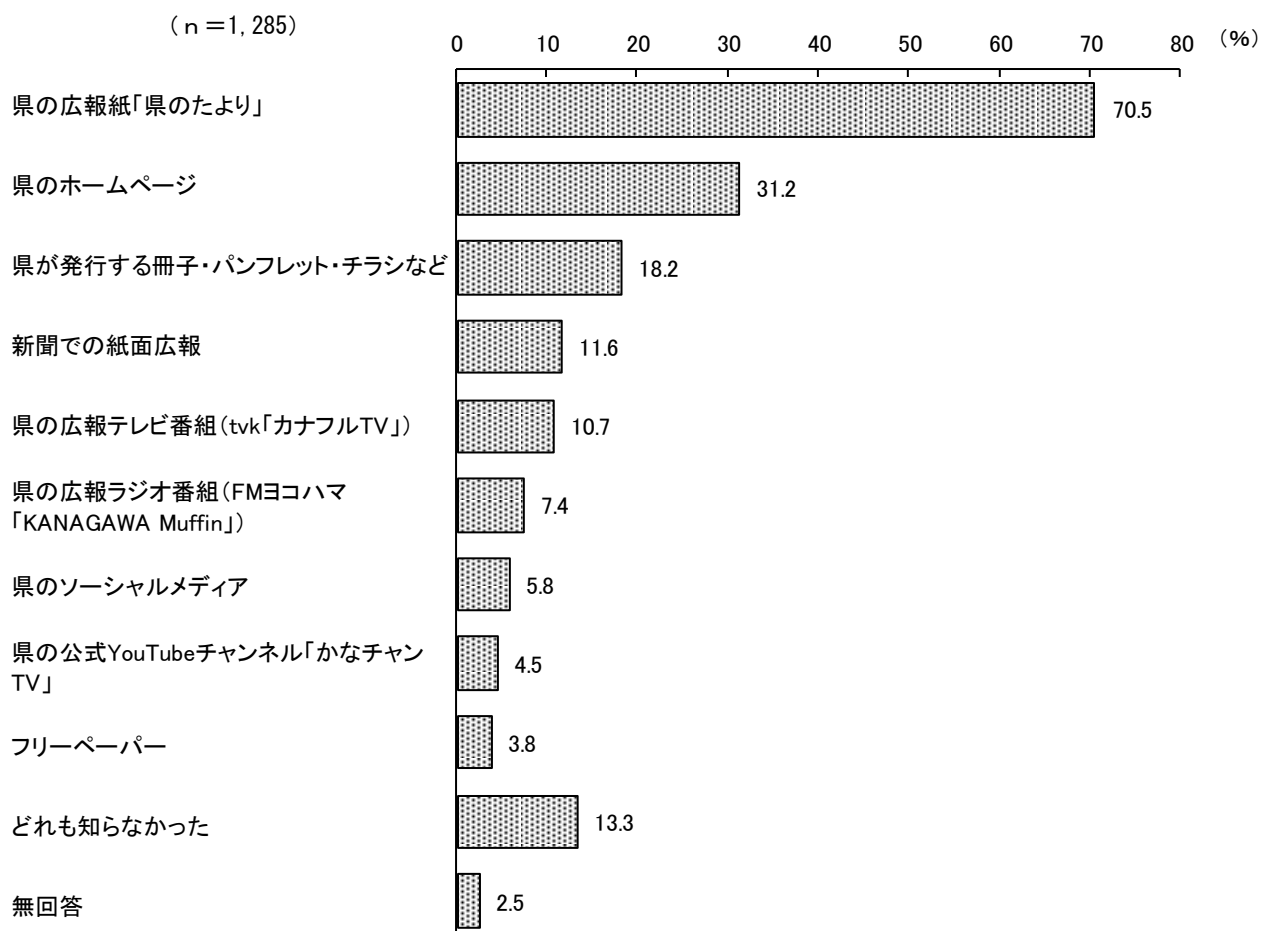
## 2 県の広報媒体の認知度【問54】

### 【全体の状況】

県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が70.5%で最も多く、次いで「県のホームページ」が31.2%であった。

(図表 16-2-1)

図表16-2-1 県の広報媒体の認知度（複数回答）



図表16-2-2 県の広報媒体の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

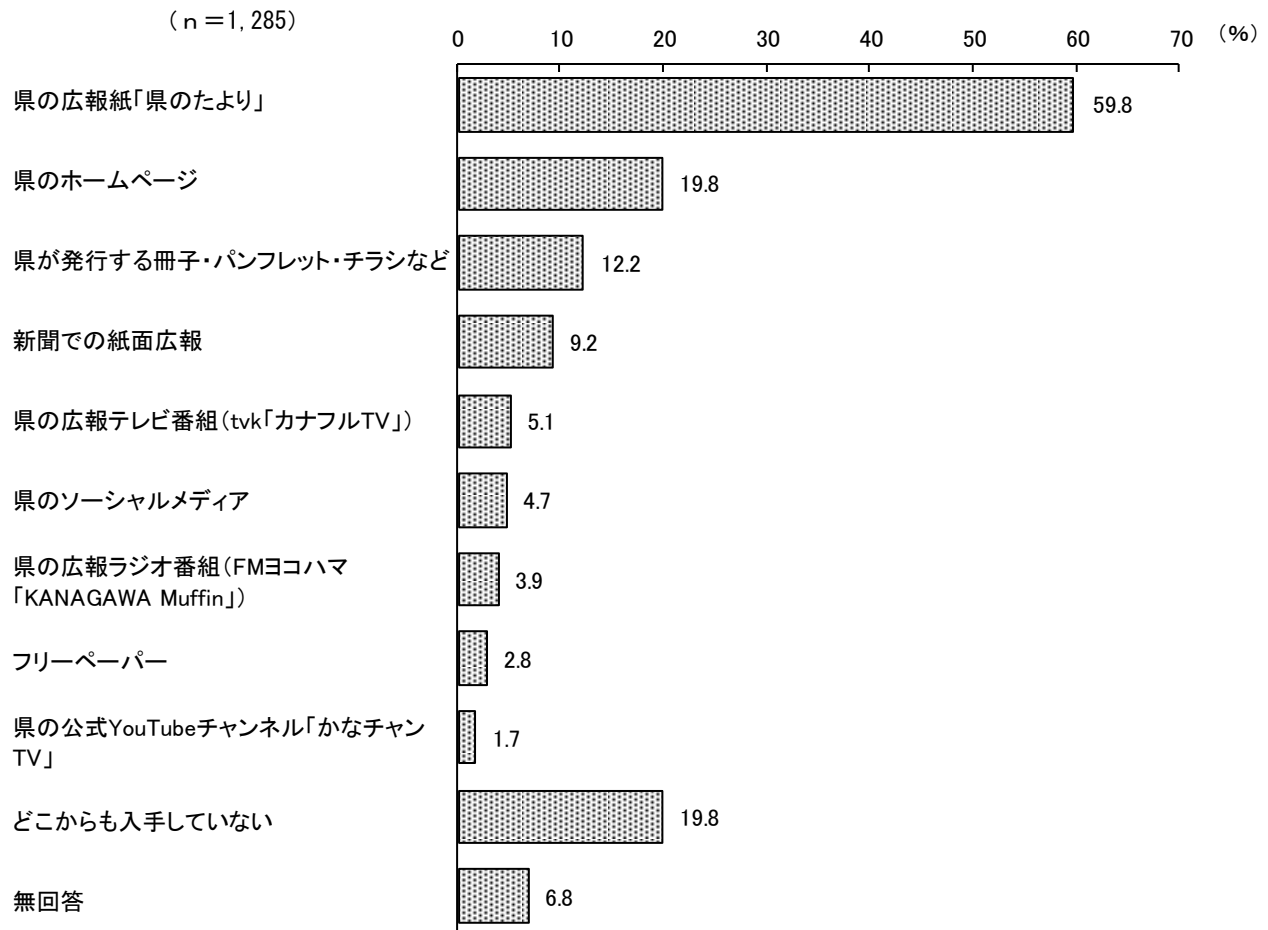
	n	県の広報紙「県のとより」	県のホームページ	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	新聞での紙面広報	県の広報テレビ番組（tvk「カナフルTV」）	県庁（KANAGAWA Muffin）	県の広報ラジオ番組（FMヨコハマ）	県のソーシャルメディア	「県の公式YouTubeチャンネル」	フリーペーパー	どれも知らなかった	無回答
全体	1,285	70.5	31.2	18.2	11.6	10.7	7.4	5.8	4.5	3.8	13.3	2.5	
【地域別】													
横浜	503	77.1	28.8	18.7	10.3	8.9	4.8	5.0	4.6	5.2	10.3	2.4	
川崎	163	66.3	31.9	21.5	9.2	11.0	6.1	8.6	4.3	4.9	15.3	-	
相模原	81	66.7	46.9	13.6	9.9	12.3	7.4	6.2	1.2	3.7	22.2	1.2	
横須賀三浦	93	71.0	36.6	20.4	11.8	16.1	8.6	9.7	7.5	3.2	14.0	2.2	
県央	130	65.4	28.5	19.2	15.4	9.2	7.7	6.9	3.8	0.8	13.8	4.6	
湘南	182	60.4	34.6	15.9	13.7	11.5	11.5	4.9	4.4	2.7	15.4	2.7	
県西	50	70.0	28.0	20.0	12.0	12.0	10.0	4.0	8.0	2.0	14.0	4.0	
【性・年代別】													
男性	555	66.8	33.9	19.8	12.1	11.9	8.3	6.8	4.3	3.6	15.5	2.0	
女性	638	73.7	30.4	17.6	11.0	9.6	6.0	5.5	4.7	4.1	11.4	2.4	
男性18～29歳	25	32.0	44.0	28.0	16.0	16.0	8.0	28.0	12.0	8.0	28.0	-	
30歳代	51	31.4	35.3	13.7	9.8	3.9	5.9	9.8	2.0	5.9	31.4	2.0	
40歳代	101	46.5	36.6	20.8	6.9	7.9	6.9	6.9	1.0	6.9	27.7	1.0	
50歳代	134	70.1	38.1	20.1	10.4	11.2	13.4	6.7	3.7	0.7	12.7	3.7	
60歳代	120	85.8	38.3	14.2	10.8	14.2	8.3	5.0	5.8	3.3	7.5	-	
70～74歳	67	79.1	22.4	22.4	14.9	17.9	7.5	4.5	4.5	1.5	7.5	1.5	
75歳以上	56	89.3	17.9	28.6	25.0	14.3	1.8	1.8	7.1	3.6	5.4	5.4	
女性18～29歳	33	24.2	33.3	6.1	9.1	3.0	12.1	9.1	-	3.0	39.4	-	
30歳代	81	46.9	27.2	16.0	1.2	4.9	2.5	11.1	4.9	2.5	28.4	-	
40歳代	134	70.1	36.6	13.4	3.0	5.2	3.7	4.5	2.2	9.0	11.9	2.2	
50歳代	122	81.1	37.7	14.8	3.3	7.4	4.9	5.7	2.5	4.1	8.2	0.8	
60歳代	131	84.0	36.6	19.8	17.6	15.3	10.7	5.3	8.4	3.8	6.1	2.3	
70～74歳	52	90.4	25.0	30.8	25.0	21.2	7.7	3.8	5.8	-	1.9	1.9	
75歳以上	83	86.7	6.0	22.9	26.5	10.8	3.6	1.2	7.2	1.2	2.4	8.4	

### 3 県政情報の入手先【問55】

#### 【全体の状況】

県政情報をどこから入手しているか複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙『県のたより』」が59.8%で最も多く、次いで「県のホームページ」が19.8%であった。(図表 16-3-1)

図表16-3-1 県政情報の入手先（複数回答）



図表16-3-2 県政情報の入手先（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	県の広報紙「県のたより」	県のホームページ	県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	新聞での紙面広報	県の広報テレビ番組（tvk「カナフルTV」）	県のソーシャルメディア	MAKANA GAWA Muffin	県の広報ラジオ番組（FMヨコハ）	フリーペーパー	県の公式YouTubeチャンネル「かなチャンネル」	どこからも入手していない	無回答
全 体	1,285	59.8	19.8	12.2	9.2	5.1	4.7	3.9	2.8	1.7	19.8	6.8	
【地 域 別】													
横 浜	503	71.8	17.9	13.5	9.3	5.2	5.0	2.8	3.6	2.8	16.1	0.2	
川 崎	163	60.1	21.5	17.8	6.7	5.5	7.4	4.3	5.5	0.6	23.9	0.6	
相 模 原	81	50.6	28.4	9.9	14.8	6.2	1.2	3.7	1.2	2.5	34.6	-	
横須賀三浦	93	68.8	20.4	12.9	9.7	6.5	6.5	2.2	3.2	-	20.4	1.1	
県 央	130	57.7	24.6	12.3	10.8	3.8	5.4	4.6	0.8	1.5	21.5	0.8	
湘 南	182	53.3	25.3	11.5	11.0	6.6	4.4	7.7	1.6	1.1	25.3	-	
県 西	50	62.0	18.0	6.0	8.0	4.0	4.0	8.0	2.0	2.0	26.0	4.0	
【性・年代別】													
男 性	555	60.9	23.1	14.1	9.7	5.6	4.9	5.2	3.6	1.8	22.2	0.4	
女 性	638	66.5	19.7	12.2	9.9	5.2	5.3	3.3	2.4	1.7	19.9	0.6	
男性18～29歳	25	24.0	36.0	20.0	12.0	4.0	24.0	4.0	8.0	8.0	24.0	4.0	
30歳代	51	25.5	21.6	7.8	5.9	-	11.8	2.0	5.9	-	45.1	-	
40歳代	101	40.6	23.8	13.9	5.9	5.9	3.0	6.9	6.9	2.0	34.7	-	
50歳代	134	61.2	26.1	11.9	3.7	1.5	3.0	5.2	3.0	0.7	21.6	0.7	
60歳代	120	82.5	24.2	10.0	11.7	5.8	4.2	5.0	0.8	1.7	12.5	-	
70～74歳	67	70.1	17.9	17.9	16.4	10.4	3.0	4.5	1.5	1.5	16.4	-	
75歳以上	56	89.3	14.3	26.8	19.6	14.3	1.8	7.1	3.6	3.6	7.1	-	
女性18～29歳	33	18.2	9.1	3.0	9.1	-	6.1	6.1	3.0	3.0	51.5	-	
30歳代	81	44.4	19.8	12.3	-	1.2	12.3	2.5	1.2	1.2	33.3	-	
40歳代	134	55.2	28.4	9.7	3.0	2.2	5.2	0.7	4.5	-	25.4	-	
50歳代	122	68.0	25.4	4.1	1.6	3.3	4.9	3.3	2.5	0.8	19.7	0.8	
60歳代	131	83.2	21.4	13.7	14.5	7.6	5.3	6.1	2.3	1.5	9.9	-	
70～74歳	52	90.4	13.5	26.9	19.2	13.5	1.9	3.8	-	3.8	7.7	1.9	
75歳以上	83	81.9	3.6	20.5	30.1	9.6	1.2	2.4	1.2	4.8	8.4	2.4	

第IV部 調査票と単純集計結果



調査期間 令和5年9月8日～10月3日  
 標本設計数 3,000 有効回収数(率) 1,285 (42.8%)  
 \* 「n」は、質問に対する回答者の総数を表す。  
 「-」は、回答者が皆無であることを示す。  
 ※ 比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、  
 合計が100%にならないことがある。

# 令和5年度(2023年)神奈川県『県民ニーズ調査』(第1回課題調査) 調査票

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

【テーマ】

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1 食の安全・安心         | 9 治安対策              |
| 2 食・食育            | 10 とともに生きる社会かながわ    |
| 3 かながわの農林水産業      | 11 生活に不安や課題がある人への支援 |
| 4 SDGs(持続可能な開発目標) | 12 配偶者等からの暴力        |
| 5 環境問題            | 13 がん対策             |
| 6 ICT(情報通信技術)     | 14 循環器病対策           |
| 7 将来の住まい          | 15 スポーツ             |
| 8 地域社会との関わり       | 16 かながわの広報          |

◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前やご住所の**記入は不要**です。
- お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

ご記入いただいた調査票は、同封の**返送用封筒**に入れ、  
**10月3日(火)まで**にご投函ください。  
 (切手の貼り付け、お名前やご住所の記入は不要です)

【お問い合わせ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

○ お問い合わせフォーム

二次元コードから送信

※ 10月3日まで受付

○ 電話 (045)210-3672

※ 受付時間：月～金 8:30～17:15

(土日祝日は閉庁)



※ インターネットからもご回答  
 いただけます！

二次元コードから  
 回答画面へ



インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

## 1 食の安心・安全

問1 食品を購入する際に、確認している表示内容がありますか。(○はいくつでも)(n=1,285)(%)

1 期限表示(消費期限や賞味期限)	92.1	6 保存方法	40.5
2 原産地や原産国	75.3	7 遺伝子組換え食品に関する事項	24.1
3 アレルギー表示	12.1	8 その他	3.0
4 原材料名	41.7	9 確認している表示内容はない	1.2
5 食品添加物(保存料や着色料など)	38.9	(無回答)	1.6

問2 食中毒を予防する上で重要なことについて、知っていたことを選んでください。

(○はいくつでも)(n=1,285)(%)

1 食品を購入したら寄り道せずに帰宅する	48.4
2 食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する	95.3
3 調理や食事前によく手を洗う	86.6
4 生肉や生魚を扱った調理器具は、使用後に消毒する	63.5
5 調理した食品はすぐに食べるようにし、残った食品は速やかに適切な温度で保存する	78.1
6 生肉は、食中毒を起こす細菌がついていることがあるので、よく加熱する	81.6
7 どれも知らなかった	0.2
(無回答)	1.5

問3 調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど、食品を安全に食べるために必要な知識を持っていると思いますか。(○は1つ)(n=1,285)(%)

1 持っていると思う	43.7	4 持っていないと思う	0.4
2 ある程度持っていると思う	48.1	5 分からない	0.6
3 あまり持っていないと思う	5.2	(無回答)	2.0

## 2 食・食育

問4 「食育」※に関心がありますか。

(○は1つ)(n=1,285)(%)

1 関心がある	32.7	4 関心がない	3.3
2 どちらかといえば関心がある	42.2	5 分からない	4.2
3 どちらかといえば関心がない	15.9	(無回答)	1.8

※ 食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。

問5 いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など、食事のマナーを正しくできていると思いますか。(○は1つ)(n=1,285)(%)

1 できていると思う	31.5	4 できていないと思う	3.5
2 どちらかといえばできていると思う	49.2	5 分からない	2.3
3 どちらかといえばできていないと思う	11.8	(無回答)	1.7



問6 ゆっくりよく噛んで食べていますか。 (○は1つ) (n=1,285) (%)

1 食べている	18.7	4 食べていない	8.6
2 どちらかといえば食べている	37.8	5 分からない	1.4
3 どちらかといえば食べていない	31.9		(無回答 1.6)

問7 食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけていますか。

(○は1つ) (n=1,285) (%)

1 気をつけている	46.5	4 気をつけていない	0.5
2 ある程度気をつけている	47.6	5 分からない	0.2
3 あまり気をつけていない	3.7		(無回答 1.5)

問8 歯と口の健康を保つために、かかりつけ歯科医を決めていますか。 (○は1つ) (n=1,285) (%)

1 決めている	77.9	3 分からない	0.6
2 決めていない	19.1		(無回答 2.4)

【複数人でお住まいの方のみお答えください】

(n=1,015) (%)

問9 朝食・夕食を同居の方と一緒に食べていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

【朝食】

1 ほとんど毎日	47.1	3 週に2~3日	13.8	5 ほとんど食べない	25.3
2 週に4~5日	5.7	4 週に1日程度	5.9		(無回答 2.2)

【夕食】

1 ほとんど毎日	61.8	3 週に2~3日	14.3	5 ほとんど食べない	6.3
2 週に4~5日	11.4	4 週に1日程度	3.9		(無回答 2.3)

【一人暮らしの方のみお答えください】

(n=177) (%)

問10 昼食・夕食を仲間や友人など、複数で一緒に食べていますか。 (○はそれぞれ1つずつ)

【昼食】

1 ほとんど毎日	3.4	3 週に2~3日	8.5	5 ほとんど食べない	56.5
2 週に4~5日	9.6	4 週に1日程度	14.1		(無回答 7.9)

【夕食】

1 ほとんど毎日	3.4	3 週に2~3日	5.1	5 ほとんど食べない	68.4
2 週に4~5日	2.8	4 週に1日程度	11.3		(無回答 9.0)

### 3 かながわの農林水産業

問11 県の農業に特にどのような役割を期待しますか。 (○は1つ) (n=1,285) (%)

1 食料の安定供給	24.3	6 美しい風景や文化の継承	2.3
2 安全・安心な食料の供給	40.5	7 働く場の提供	1.0
3 価格の安い食料の供給	9.5	8 その他	0.6
4 災害時の避難場所など安全な空間の提供	1.9	9 分からない	2.0
5 自然や土とふれあう場・学習の場の提供	1.8		(無回答 16.2)

問 12 県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」※の取組みを重要だと思いますか。

(○は1つ) (n=1,285) (%)

1 重要だと思う	60.4	4 重要だと思わない	1.2
2 どちらかといえば重要だと思う	30.8	5 分からない	3.7
3 どちらかといえば重要だと思わない	2.1	(無回答)	1.8

※ 地産地消とは、地域の需要に即した生産を行い、その産物を地域で消費するための取組みのことをいいます。

問 13 「かながわブランド」※という言葉の意味について知っていますか。(○は1つ) (n=1,285) (%)

1 知っている	26.8	3 知らなかった	26.4
2 言葉は聞いたことがある	44.7	(無回答)	2.1

※ かながわブランドとは、県と生産者団体で構成する「かながわブランド振興協議会」が登録する、組織的な生産・出荷基準によって品質を確保するなどの要件を満たした農林水産物やその加工品のことをいいます。

問 14 環境に配慮した農林水産物や食品※を選ぶよう心掛けていますか。(○は1つ) (n=1,285) (%)

1 心掛けている	14.9	4 心掛けていない	13.5
2 どちらかといえば心掛けている	45.1	5 分からない	6.1
3 どちらかといえば心掛けていない	18.4	(無回答)	2.1

※ 環境に配慮した農林水産物や食品とは、近隣の地域で生産されたものや、有機JASマークなど環境への配慮に関する表示のあるもの、過剰包装ではないものなどのことをいいます。

問 15 県内にある農地の保全について、どのように考えていますか。(○は1つ) (n=1,285) (%)

1 すべての農地を積極的に保全するべき	24.1
2 まとまった規模の農地であれば、積極的に保全するべき	38.6
3 どちらかといえば農地を保全するほうが望ましい	28.5
4 どちらかといえば農地の保全は必要だと思わない	0.5
5 農地の保全は必要だと思わない	0.3
6 分からない	5.8
(無回答)	2.3

## 4 SDGs (持続可能な開発目標)

問 16 SDGs (エス・ディー・ジーズ) について知っていますか。(○は1つ) (n=1,285) (%)

1 知っている	66.8	3 知らなかった	7.5
2 言葉は聞いたことがある	22.6	(無回答)	3.1



SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは、2015年9月にすべての国連加盟国が全会一致で採択した2030年までに持続可能な世界(将来の世代のための環境や資源を壊さずに、今の生活をより良い状態にすること)を実現するための開発目標です。

問 17 どのようなきっかけがあれば、SDGs達成に向けて取り組んでみたいと思いますか。

(〇はいくつでも) (n=1,285) (%)

1	SDGsに関する詳細情報	27.6	6	職場、学校からの紹介	15.3
2	SDGsの取組み事例の紹介	42.3	7	著名人による旗振り	5.4
3	SDGsを意識したイベント情報	33.2	8	その他	2.3
4	SDGsに関する活動の場	24.0	9	特にない	10.9
5	SDGsと一緒に取り組む仲間	18.8	10	分からない	7.7
					(無回答 2.6)

## 5 環境問題

問 18 今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいですか。

(〇はいくつでも) (n=1,285) (%)

1	地球温暖化対策や脱炭素化のための取組み	63.2	6	環境教育に関する取組み	33.0
2	廃棄物対策など資源循環のための取組み	64.7	7	その他	1.4
3	自然環境や生物多様性の保全のための取組み	53.2	8	特にない	0.9
4	大気環境保全のための取組み	42.7	9	分からない	1.9
5	水質や水辺の環境保全のための取組み	60.9			(無回答 2.1)

問 19 省エネや再エネ※の導入など、脱炭素を意識した取組みを行っていますか。 (〇は1つ)

(n=1,285) (%)

1	すでに行っている	24.5	4	あまり関心がなく行う予定もない	7.5
2	今後行う予定である	6.3	5	全く関心がない	2.1
3	関心はあるが行ってはいない	57.3			(無回答 2.3)

※ 再エネとは、「再生可能エネルギー」の略称で、太陽光・風力・水力・地熱・バイオマスなどから作られるエネルギーのことをいいます。

問 20 家で使用する電力について、再エネ由来の電力を使用※したいと思いますか。 (〇は1つ)

(n=1,285) (%)

1	電気代が今よりもかかっても使用したい	3.1	4	すでに使用している	6.0
2	電気代が今と同じか、それ以下であれば使用したい	71.7	5	分からない	9.9
3	使用したいと思わない	7.0			(無回答 2.3)

※ 再エネ由来の電力の使用とは、自宅やマンションの屋根などに太陽光発電設備を設置し、その電力を使っている、または電力会社が用意している再生可能エネルギープランを契約していることをいいます。

問 21 「気候変動への適応」※に関心がありますか。 (〇は1つ) (n=1,285) (%)

1	関心がある	54.9	4	関心がない	1.6
2	どちらかといえば関心がある	34.3	5	分からない	3.7
3	どちらかといえば関心がない	3.4			(無回答 2.0)

※ 気候変動への適応とは、地球温暖化を主要因とした気温上昇や大雨の増加などによる健康被害や自然災害などの影響を回避、軽減すること(例：災害への備え、熱中症予防など)をいいます。地球温暖化が進むと、これらの影響は更に大きくなる恐れがあります。

## 6 ICT（情報通信技術）

問 22 少子高齢化や自然災害の増加など、複雑化・多様化する社会課題を解決するため、デジタル化をさらに進めるべきだと思いますか。 (○は1つ) (n=1,285) (%)

1 進めるべきである	37.4	4 どちらかといえば進めるべきではない	2.0
2 どちらかといえば進めるべきである	28.8	5 進めるべきではない	1.2
3 どちらともいえない	21.6	6 分からない	4.4
(無回答 4.7)			

問 23 日常生活や社会においてデジタル化が進むことで、特にどのようなことが期待できると思いますか。 (○は3つまで) (n=1,285) (%)

1 暮らしの中で便利になることが増える	54.5
2 時間や場所にとらわれない暮らしが実現できる	32.6
3 非効率なことや無駄なことが削減できる	48.9
4 人手不足が解消できる	31.7
5 時間が節約できる	27.6
6 地球環境にやさしい社会が実現できる	11.4
7 より格差のない社会が実現できる	2.4
8 その他	0.9
9 特にない	2.8
10 分からない	6.1
(無回答 8.1)	

問 24 日常生活や社会においてデジタル化が進むことで、特にどのような不安を感じますか。 (○は3つまで) (n=1,285) (%)

1 詐欺やサイバーテロなどの犯罪が増える	60.2
2 個人情報や企業秘密の漏えいが増える	61.3
3 人間関係が希薄になる	18.7
4 誹謗・中傷が増える	19.2
5 デジタル機器や通信費などのお金がかかる	10.7
6 デジタル機器に不慣れで不便になることが増える	28.4
7 災害などで電気が使えなくなると何もできなくなる	41.3
8 その他	1.2
9 特にない	1.0
10 分からない	1.2
(無回答 8.5)	

## 7 将来の住まい

問 25 将来高齢者になったとき現在の住まいに不安がありますか。高齢者の方は、現在の状況をご回答ください。(○は1つ) (n=1,285) (%)

1	ある	55.6	2	ない	26.8	3	分からない	11.6	(無回答 5.9)
---	----	------	---	----	------	---	-------	------	-----------

【問 25 で 1 を選んだ方へ】

問 25-1 不安だと思う理由をすべて選んでください。(○はいくつでも) (n=715) (%)

1	現在の住まいでは、いざというとき支援してくれる人が近くにいないから	33.7
2	現在の住まいでは、ゴミ捨て・買い物や階段・坂の上り下りなどがつらいから	28.4
3	現在の家賃や住宅ローンを払い続けられるか不安だから	29.0
4	リフォームや建替え、住替えをする場合、費用が用意できるか不安だから	47.3
5	リフォームや建替えをする場合、方法・相談先が分からないから	9.0
6	住み替える場合、現在の住宅をどのように処分・管理してよいのか分からないから	15.2
7	現在の住宅とは別の高齢者向け住宅に住み替える場合、どのような住宅があるのか、 どれがよいのか分からないから	24.6
8	住み替える場合、住み替えた先で地域に溶けこめるかどうか不安だから	17.8
9	その他	3.5
10	分からない	1.7
		(無回答 0.3)

【全員の方がお答えください】

問 26 将来、親や子、親族の近くに住みたいという考えがありますか。(○は1つ) (n=1,285) (%)

1	一緒に住みたい	4.9	4	すでに一緒に住んでいる	10.0
2	近くに住みたい	42.9	5	すでに近くに住んでいる	14.6
3	一緒に、あるいは近くに住みたくない	6.9	6	分からない	15.6
					(無回答 5.1)

## 8 地域社会との関わり

問 27 長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしていますか。(○は1つ) (n=1,285) (%)

1	そう思う	68.6	2	そう思わない	26.8	(無回答 4.6)
---	------	------	---	--------	------	-----------

## 9 治安対策

問 28 不安に感じる身近な犯罪は何ですか。 (○はいくつでも) (n=1,285) (%)

1 ひったくり	24.8	7 暴行や傷害	34.4
2 特殊詐欺	60.2	8 自転車や自動車などの乗り物の盗難	24.7
3 空き巣	52.5	9 インターネットを利用した犯罪※	60.2
4 子どもの誘拐や子どもへのいたづら	34.1	10 大麻や覚醒剤などの薬物犯罪	14.6
5 痴漢や強制わいせつなどの性犯罪	28.5	11 その他	2.1
6 ストーカー行為	16.0	12 特にない	3.5
(無回答 1.7)			

※ インターネットを利用した犯罪とは、コンピュータへの不正アクセス、詐欺、ネットポルノ、児童買春などのことをいいます。

問 29 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、得やすいのはどのような方法ですか。

(○はいくつでも) (n=1,285) (%)

1 テレビ	68.6	8 警察からのインターネットでの情報発信※	29.4
2 ラジオ	16.3	9 警察からのメール	14.0
3 新聞	26.7	10 警察官の防犯講話・防犯教室	3.4
4 ポスター・チラシなど	23.6	11 警察官の戸別訪問	8.8
5 回覧板	32.1	12 その他	3.8
6 防災無線	18.5	13 特にない	3.1
7 駅前などでのキャンペーン	11.1	(無回答 1.6)	

※ 警察からのインターネットでの情報発信とは、警察のホームページ、X (Twitter)、「Yahoo! 防災速報」、神奈川県警察公式 YouTube などのことをいいます。

問 30 犯罪や交通事故がなく、より安心してくらすために重要だと思うものは何ですか。

(○は3つまで) (n=1,285) (%)

1 防犯カメラなどの防犯設備の整備	71.4
2 地域住民同士のつながり	39.1
3 県民や企業と行政が一体となって行う防犯・交通安全活動	17.0
4 防犯、交通安全などの規範意識を高める教育	22.4
5 ボランティアなどによる防犯・交通安全活動	7.9
6 信号機、道路標識などの交通安全施設の整備	22.6
7 交通指導取締りの強化や交通違反などの厳罰化	18.7
8 制服警察官、パトカーによる警戒・検問活動	29.3
9 運転に不安を覚える方への安全運転相談	9.6
10 その他	3.1
11 特にない	0.8
(無回答 6.2)	

## 10 ともに生きる社会かながわ

問 31 共生社会（ともに生きる社会）※という考え方を知っていますか。（○は1つ）（n=1,285）（%）

1 知っている	30.4	3 知らなかった	28.8
2 言葉は聞いたことがある	38.8		（無回答 2.0）

※ 共生社会（ともに生きる社会）とは、障がいの状態や程度にかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いに尊重し、支え合ってくることを目指す社会のことをいいます。

問 32 「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っていますか。（○は1つ）（n=1,285）（%）

1 知っている	9.4	3 知らなかった	58.5
2 言葉は聞いたことがある	30.0		（無回答 2.0）

県では、ともに生きる社会かながわの実現をめざし、2016年10月に「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めました。

### ともに生きる社会かながわ憲章

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます



問 33 障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だという考え方について、どう思いますか。（○は1つ）（n=1,285）（%）

1 そう思う	62.5	3 どちらかといえばそう思わない	4.9
2 どちらかといえばそう思う	29.9	4 そう思わない	1.0
			（無回答 1.7）

問 34 5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思いますか。 (○は1つ) (n=1,285) (%)

1 増えたと思う	15.3	4 どちらかといえば増えていないと思う	5.8
2 どちらかといえば増えたと思う	30.4	5 増えていないと思う	8.2
3 どちらともいえない	27.6	6 分からない	10.9
(無回答 1.7)			

問 35 障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。 (○は1つ) (n=1,285) (%)

1 あると思う	41.8	3 あまりないと思う	10.7	5 その他	0.2
2 少しはあると思う	39.8	4 ないと思う	3.2	6 分からない	2.5
(無回答 1.8)					

問 36 手話やろう者についての理解を深めるために、手話を学ぶとしたら、最も学びたい方法はどれですか。 (○は1つ) (n=1,285) (%)

1 手話講習会	34.2	4 本・DVD	3.4	7 その他	0.2
2 手話サークル	8.5	5 テレビ番組	8.7	8 学びたいとは思わない	5.8
3 インターネット	17.9	6 学校教育	7.7	9 分からない	9.3
(無回答 4.2)					

問 37 県では、障がいの程度や状態にかかわらず、すべての人が参加できる舞台芸術に関するワークショップを実施しています。例えば、次のようなものがありますが、どれに参加したいですか。 (○はいくつでも) (n=1,285) (%)

1 演劇	9.5	5 その他	0.6
2 ダンス	12.5	6 参加したいものはない	31.1
3 演奏	19.8	7 分からない	23.1
4 歌	19.5	(無回答 2.5)	

問 38 「ヘルプマーク」を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,285) (%)

1 知っている	64.6	3 知らなかった	19.6
2 マークを見聞きしたことはあるが、意味は知らなかった	13.8	(無回答 2.0)	



ヘルプマークとは、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方が援助を得やすくなるよう、東京都が考案したマークのことをいいます。県でもその目的に賛同し、普及・啓発を進めています。マークの実際の背景色は赤色です。

詳細は、下記HPをご覧ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/yv4/cnt/f536306>



## 11 生活に不安や課題がある人への支援

問 39 私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思いますか。  
(○は1つ) (n=1,285) (%)

1	そう思う	13.7	4	どちらかといえばそう思わない	18.5
2	どちらかといえばそう思う	17.6	5	そう思わない	22.3
3	どちらともいえない	22.6	6	分からない	3.5
(無回答 1.8)					

問 40 ひとり親家庭を、社会全体で支援できていると思いますか。(○は1つ) (n=1,285) (%)

1	そう思う	4.7	4	どちらかといえばそう思わない	25.1
2	どちらかといえばそう思う	14.4	5	そう思わない	18.8
3	どちらともいえない	23.0	6	分からない	12.5
(無回答 1.5)					

問 41 日々の生活に悩みや課題を抱える女性を、社会全体で支援できていると思いますか。  
(○は1つ) (n=1,285) (%)

1	そう思う	2.3	4	どちらかといえばそう思わない	27.4
2	どちらかといえばそう思う	8.4	5	そう思わない	20.8
3	どちらともいえない	23.5	6	分からない	15.6
(無回答 1.9)					

## 12 配偶者等からの暴力

問 42 配偶者等からの暴力(DV)について、知っていたことを選んでください。(○はいくつでも)  
(n=1,285) (%)

1	DV被害者相談窓口がある	80.8
2	DV被害者相談窓口は、男性向けもある	24.8
3	DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる	55.6
4	子どもの前でDVが行われることは、子どもへの虐待となる	48.6
5	恋人同士の間で起こる暴力を「デートDV」という	30.2
6	どれも知らなかった	10.6
(無回答 2.0)		

## 13 がん対策

問 43 例えば身近な人ががんになって、がんのことを調べようと思った場合、最初にどうしますか。  
(○は1つ) (n=1,285) (%)

1	専門家やがん経験者に聞く	15.0	4	新聞やテレビで探す	0.6
2	専門書やがん体験記などの書籍で調べる	5.9	5	その他	0.5
3	インターネットやSNSを使って調べる	72.8	6	分からない	1.6
(無回答 3.6)					

問 44 「緩和ケア」について、どのようなイメージを持っていますか。 (○はいくつでも)  
(n=1,285) (%)

1	ホスピス※のような看取りのイメージ	50.0	5	その他	0.7
2	身体的苦痛を和らげてくれるイメージ	59.5	6	言葉自体聞いたことがない	7.0
3	精神的苦痛に対応してくれるイメージ	41.7		(無回答	1.6)
4	言葉は聞いたことはあるが、イメージはない	8.5			

※ ホスピスとは、死を目前にした患者の身体的・精神的苦痛を和らげる目的で作られた施設のことをいいます。

問 45 がんになって、治療を続けた後に、最終段階だと言われた場合、どこで過ごしたいですか。  
(緩和ケアの提供体制を充実させていくにあたって参考にさせていただきます。) (○は1つ)  
(n=1,285) (%)

1	今まで治療を受けていた病院	10.3	4	自宅	38.8
2	1以外の自宅から近い病院	5.8	5	その他	1.2
3	ホスピスのような看取りの施設	32.7	6	分からない	8.3
				(無回答	3.0)

## 14 循環器病対策

問 46 脳卒中の主な初期症状について、知っているものを選んでください。 (○はいくつでも)  
(n=1,285) (%)

1	顔の片側がゆがむ	46.8	3	ろれつが回らない	87.1
2	左右いずれかの腕に力が入らない	51.8	4	どれも知らなかった	8.7
				(無回答	1.9)

問 47 脳卒中は、発症後すぐに救急車を呼ぶなど、医療機関で適切な治療を行えば、後遺症を含めたその後の状態が改善される可能性が高まることを知っていますか。 (○は1つ) (n=1,285) (%)

1	知っている	86.3	2	知らなかった	11.5	(無回答	2.2)
---	-------	------	---	--------	------	------	------

問 48 心臓病は、ひとたび発症すると再発率が高いという特徴があります。再発を防ぐためには、治療後の適度な運動療法を中心としたリハビリテーションが重要であることを知っていますか。  
(○は1つ) (n=1,285) (%)

1	知っている	46.5	2	知らなかった	51.2	(無回答	2.3)
---	-------	------	---	--------	------	------	------

## 15 スポーツ

問 49 体力に自信はありますか。 (○は1つ) (n=1,285) (%)

1	ある	7.1	3	どちらかといえばない	33.2	5	分からない	4.3
2	どちらかといえばある	34.0	4	ない	19.5		(無回答	1.9)

問 50 この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツ※をした日数はどのくらいになりますか。

(○は1つ) (n=1,285) (%)

1 週に5日以上	14.0	6 3か月に1～2日程度	6.2
2 週に3日程度	16.9	7 年に1～3日程度	6.1
3 週に2日程度	12.2	8 まったく行わない	17.0
4 週に1日程度	12.5	9 分からない	3.0
5 月に1～3日程度	10.3		(無回答 1.8)

※ 1回10分程度の運動やスポーツを合計して30分でも構いません。また、レクリエーションとして行う身体活動やウォーキングなどの軽度の運動も含まれます。

問 51 スポーツ推進に係る取組みについて、知っているものを選んでください。(○はいくつでも)

(n=1,285) (%)

1 3033(サンマルサンサン)運動(※1)	5.4	3 どれも知らなかった	82.9
2 総合型地域スポーツクラブ(※2)	9.9		(無回答 2.6)

※1 **3033(サンマルサンサン)運動**とは、運動やスポーツを1日30分、週3回、3か月間継続して行い、くらしの一部として習慣化する取組みのことをいいます。

※2 **総合型地域スポーツクラブ**とは、地域住民によって自主的・主体的に運営され、子どもから高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)スポーツクラブのことをいいます。

問 52 「かながわパラスポーツ」※について知っていますか。(○は1つ) (n=1,285) (%)

1 知っている	5.9	3 知らなかった	73.2
2 言葉は聞いたことがある	18.8		(無回答 2.1)

※ **かながわパラスポーツ**とは、すべての人が自分の運動機能を活かして同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えることをいいます。

## 16 かながわの広報

問 53 県は、災害や感染症対策などの取組み、イベントの実施など県政情報を伝えていると思いますか。

(○は1つ) (n=1,285) (%)

1 伝えている	12.5	4 伝えていない	5.2
2 どちらかといえば伝えている	35.3	5 分からない	26.5
3 どちらかといえば伝えていない	18.0		(無回答 2.5)

問 54 県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを選んでください。  
(○はいくつでも) (n=1,285) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	70.5
2 県の公式 YouTube チャンネル「かなチャン TV」	4.5
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフル TV」)	10.7
4 県の広報ラジオ番組 (FM ヨコハマ「KANAGAWA Muffin」)	7.4
5 県のホームページ	31.2
6 県のソーシャルメディア※	5.8
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	18.2
8 新聞での紙面広報	11.6
9 フリーペーパー	3.8
10 どれも知らなかった	13.3
(無回答 2.5)	

※ ソーシャルメディアとは、例えば X (Twitter)、Facebook、Instagram などがあります。

問 55 県政情報をどこから入手していますか。  
(○はいくつでも) (n=1,285) (%)

1 県の広報紙「県のたより」	59.8
2 県の公式 YouTube チャンネル「かなチャン TV」	1.7
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフル TV」)	5.1
4 県の広報ラジオ番組 (FM ヨコハマ「KANAGAWA Muffin」)	3.9
5 県のホームページ	19.8
6 県のソーシャルメディア	4.7
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	12.2
8 新聞での紙面広報	9.2
9 フリーペーパー	2.8
10 どこからも入手していない	19.8
(無回答 6.8)	

…\*\*

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F 1 お住まいの地域はどちらですか。  
(n=1,285) (%)

1 横浜 (横浜市)	39.1
2 川崎 (川崎市)	12.7
3 相模原 (相模原市)	6.3
4 横須賀三浦 (横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)	7.2
5 県央 (厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村)	10.1
6 湘南 (平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	14.2
7 県西 (小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)	3.9
(無回答 6.5)	

F 2 あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,285) (%)

1 男性	43.2	2 女性	49.6	(無回答 7.2)
------	------	------	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2023年9月1日現在) (n=1,285) (%)

1 18～19歳	0.2	5 35～39歳	5.7	9 55～59歳	8.3	13 75～79歳	7.9
2 20～24歳	1.8	6 40～44歳	7.3	10 60～64歳	10.4	14 80歳以上	3.1
3 25～29歳	2.5	7 45～49歳	11.1	11 65～69歳	9.2		
4 30～34歳	4.7	8 50～54歳	11.8	12 70～74歳	9.3		(無回答 6.7)

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて選んでください。(同居、別居は問いません。) (n=1,285) (%)

1 小学校入学前	8.4	5 短大、専門学校等在学中	3.0	9 その他	2.7
2 小学校在学中	10.0	6 大学、大学院等在学中	4.6	10 子どもはいない	27.8
3 中学校在学中	7.3	7 学校教育終了 [未婚]	19.3		
4 高校在学中	8.2	8 学校教育終了 [既婚]	25.6		(無回答 7.9)

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。 (n=1,285) (%)

1 一人暮らし (単身世帯)	13.8	4 祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	3.7
2 夫婦のみ (1世代世帯)	27.4	5 その他の世帯	3.2
3 親と子の世帯 (2世代世帯)	44.7		(無回答 7.2)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,285) (%)

(n=782) (%)

1 自営業主	4.9	ア 農林水産業	1.0
2 家族従業者 (家業手伝い)	1.0	イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営)	4.2
3 勤め (フルタイム)	38.6	ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	4.1
4 勤め (パートタイム)	16.3	エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	6.6
5 内職	—	オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など)	22.5
6 主婦・主夫 (勤めていない)	13.5	カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	25.2
7 学生	1.2	キ 教育職(教諭、保育士など)	4.7
8 無職	14.7	ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など)	8.4
9 その他	0.5	ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員)	20.3
(無回答)	9.2		(無回答 2.8)

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、10月3日（火）までにご投函ください。（切手は不要です。）  
なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

ご意見やご提案を希望するテーマの番号に○をつけてください。

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1 食の安全・安心         | 9 治安対策              |
| 2 食・食育            | 10 ともに生きる社会かながわ     |
| 3 かながわの農林水産業      | 11 生活に不安や課題がある人への支援 |
| 4 SDGs（持続可能な開発目標） | 12 配偶者等からの暴力        |
| 5 環境問題            | 13 がん対策             |
| 6 ICT（情報通信技術）     | 14 循環器病対策           |
| 7 将来の住まい          | 15 スポーツ             |
| 8 地域社会との関わり       | 16 かながわの広報          |

下記にその内容をご記載ください。

268人（20.9%）から自由意見が寄せられました。